



WinKeeper v6.2 管理者マニュアル

目次

1. はじめに	4
1-1. システムの概要	5
構成例	5
1-2. システムの必要条件	6
WinKeeper Client	6
WinKeeper Server	6
WinKeeper Server と Client を同一の PC にインストールする	7
WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite)	7
Windows OS の Service Pack 対応について	7
2. WinKeeper / WinKeeper Pro の機能紹介	8
2-1. WinKeeper Client の機能	9
基本設定	9
拡張設定 1	12
拡張設定 2	14
2-2. WinKeeper Server の機能	16
リモート保護機能	16
アカウント管理機能	18
リモート管理機能	18
テスト時の動作制限機能	20
WinKeeper Pro の主要機能について	20
3. インストールとアンインストール	21
3-1. 導入前の確認事項	22
製品の確認	22
ライセンスについて	22
インストールする環境の確認	23
インストール手順	24
3-2. インストール	25
WinKeeper Client 基本機能のインストール	25
WinKeeper Client 拡張機能 1 のインストール	30
WinKeeper Client 拡張機能 2 のインストール	31
WinKeeper Server 基本機能のインストール	32
WinKeeper Server 拡張機能 1 のインストール	34
WinKeeper Server 拡張機能 2 のインストール	35
WinKeeper Server テスト時の動作制限機能のインストール	36
リモートコントロール機能のインストール	37
通信制御機能のインストール	38
3-3. 設定手順	39
WinKeeper Client の設定手順	39
WinKeeper Server の設定手順	39
3-4. アンインストール	40
WinKeeper Client のアンインストール	40
WinKeeper Server のアンインストール	43

4. WinKeeper Client の設定	46
4-1.WinKeeper Client の設定	47
運用上の注意点	47
WinKeeper アイコンの状態	47
サーバ接続	48
コンソールの起動と終了	48
コンソール画面説明	50
4-2.WinKeeper Client の機能設定	53
使用する機能の選択	53
フォルダ保護の設定と解除	55
システム環境復元の設定	60
システム制限の設定	62
自動ログオンの設定	63
問題解決の設定	65
付加機能の設定	69
通信制御の設定	71
Windows チューニングの設定	74
ディスククリーナーの設定	76
タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除	77
プログラム実行管理の追加と削除	80
インストール制限の設定	84
保護設定スケジュールの設定	85
電源節約機能の設定	87
危険プログラム管理の設定	87
4-3.保護状態の選択	88
保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行	88
4-4.設定の保存とコピー(ファイル)	89
設定情報の保存とコピー	89
環境保存	89
環境読込	90
5. WinKeeper Server の設定	91
5-1.WinKeeper Server の設定	92
運用上の注意点	92
コンソールの起動と終了	92
画面説明	93
5-2.WinKeeper Server の機能設定	95
WinKeeper グループリスト(グルーピング)	95
PC の保護設定	97
WinKeeper Client のコンソール起動	99
保護設定のコピーと適用	100
ジョブ予約の設定	102
自動ログオンの設定	103
通信制御状況の確認と変更	106
管理者メッセージとコマンド実行の送信	107

PC のリモートコントロール	109
ファイルの配信	110
アップデートによるパッチファイルの配信	112
PC の電源管理	113
危険リスト配信	115
パスワードの変更	116
電源節約の設定	117
保護設定スケジュールの設定	118
Windows Update の設定	125
テスト時の動作制限機能の設定	126



1.はじめに

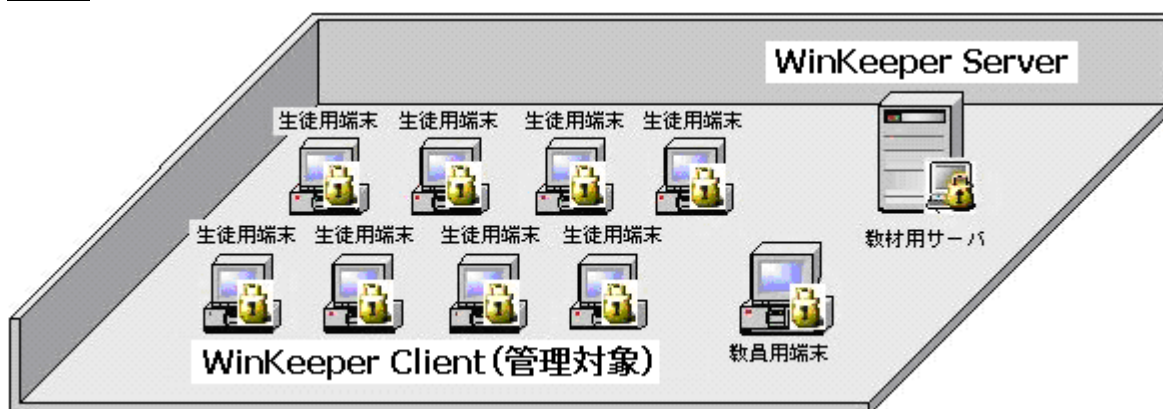
ここでは、WinKeeper のシステムの概要とシステム必要条件について説明します。

1-1. システムの概要

構成例

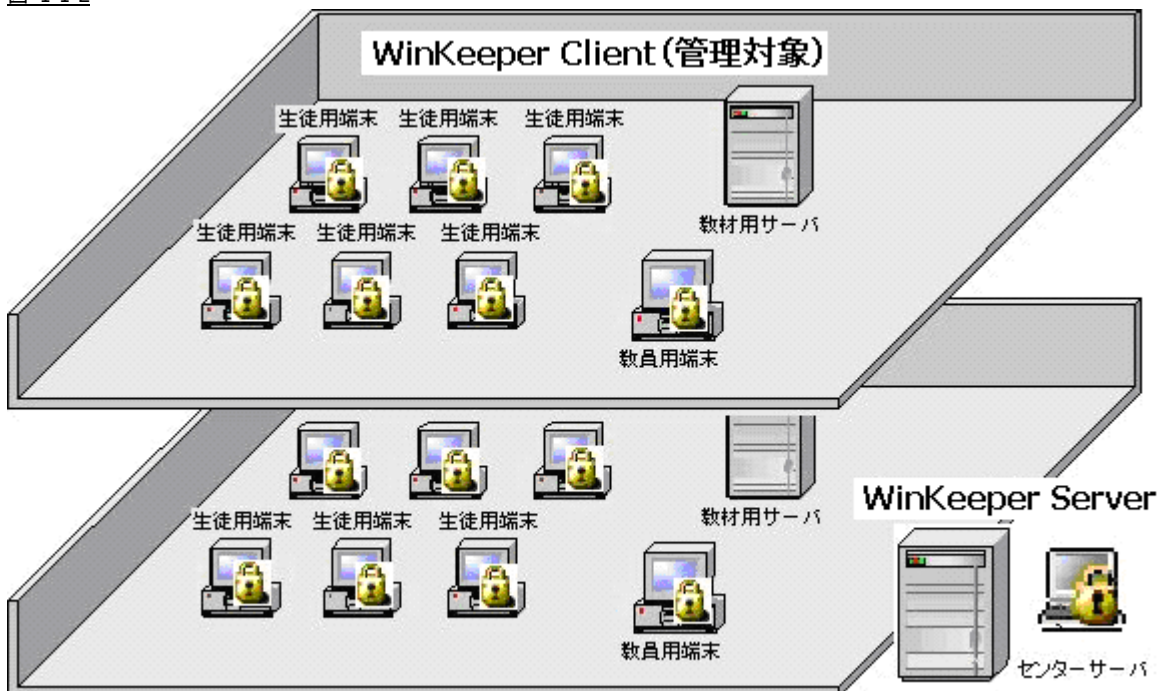
- 生徒用 WinKeeper Client と教員用 WinKeeper Client を、教材サーバ上の WinKeeper Server から管理

図 1-1-1



- 複数の教室の生徒用・教員用 WinKeeper Client をセンターサーバ上の WinKeeper Server から管理

図 1-1-2



- センターサーバは、各セグメントから名前解決ができる環境に配置する必要があります。

1-2. システムの必要条件

WinKeeper Client

OS : Windows XP Home Edition SP3 / Windows XP Professional SP3 /
Windows Vista Business SP2 / Windows Vista Ultimate SP2 /
Windows Vista Home Premium SP2 /
Windows 7 Home Premium SP1 (32bit 版および 64bit 版) /
Windows 7 Professional SP1 (32bit 版および 64bit 版) /
Windows 8 (32bit 版及び 64bit 版) /
Windows 8 Pro (32bit 版及び 64bit 版)

[for Windows XP]

CPU : Intel Pentium 4 2.3GHz 以上(Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上推奨)
メモリ : 512MB 以上 (1GB 以上推奨)

[for Windows Vista, Windows 7, Windows 8]

CPU : Intel Pentium 4 2.3GHz 以上(Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上推奨)
メモリ : 1GB 以上 (2GB 以上推奨)

HDD : 200MB 以上の空き領域 (別途、保護データの一時保存領域がシステムドライブ上に必要になります)

アプリケーション : Internet Explorer 8.0 / 9.0 / 10.0、 Adobe Reader (ヘルプファイル用)
Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable(インストール時に含まれる)

● ウイルス対策製品などの常駐監視型のアプリケーションと同居し、且つファイルサイズの大きいデータを頻繁に扱う環境では、WinKeeper の保護中に大きな負荷が生じる恐れがあります。快適に運用されるためには、運用環境に応じて推奨値以上のスペックの PC を準備して頂くことをお勧めします。

WinKeeper Server

OS : Windows XP Home Edition SP3 / Windows XP Professional SP3 /
Windows Server 2003, R2 Standard Edition SP2 / Windows Server 2008 Standard Edition SP2 /
Windows Server 2008 Enterprise Edition SP2 / Windows Server 2008 R2 Standard Edition (64bit) /
Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition (64bit) /
Windows Vista Business SP2 / Windows Vista Ultimate SP2 /
Windows 7 Professional SP1 (32bit版および64bit版) /
Windows 8 Pro (32bit版及び64bit版) /
Windows Server 2012

[for Windows XP, Windows Server 2003]

CPU : Intel Pentium 4 2.3GHz 以上(Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上推奨)
メモリ : 512MB 以上 (1GB 以上推奨)

[for Windows Vista, Windows 7, Windows 8, Windows Server 2008, Windows Server 2012]

CPU : Intel Pentium 4 2.3GHz 以上(Intel Core 2 Duo 2.1GHz 以上推奨)
メモリ : 1GB 以上 (2GB 以上推奨)

HDD : 100MB 以上の空き領域

アプリケーション : Internet Explorer 8.0 / 9.0 / 10.0、 Adobe Reader (ヘルプファイル用)
Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable(インストール時に含まれる)

● 規模の大きなネットワーク、負荷の高いアプリケーション環境、自動ログオンを実施する環境などでは、頻繁な読み取りや書き込みが発生します。運用状況に応じて推奨値以上のスペックを準備して頂くことをお勧めします。

● 旧バージョン(例:v4.x、v5.x と v6.x の組合せ)同士のネットワーク管理はサポートしていません。

WinKeeper Server と Client を同一の PC にインストールする

OS	: Windows XP Professional SP3 / Windows Vista Business SP2 / Windows Vista Ultimate SP2 / Windows 7 Professional SP1 (32bit 版および 64bit 版) / Windows 8 Pro (32bit 版及び 64bit 版)
CPU	: WinKeeper Client に準じる
メモリ	: WinKeeper Client に準じる

WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite)

OS	: WinKeeper v6 の対応 OS に準じる
CPU	: WinKeeper v6 の対応 CPU に準じる
メモリ	: WinKeeper v6 の対応メモリに準じる
HDD	: 52MB 以上の空き領域
推奨デバイス	: CD ドライブ

- Ghost Solution Suite 2.5.1 を Windows 8 環境で利用する場合、一部機能に制限があります。制限内容は Symantec 社発表の Ghost Solution Suite 2.5.1 の制限事項に 準拠します。

Windows OS の Service Pack 対応について

WinKeeper をインストールする Windows OS に Microsoft から最新の Service Pack(SP)が提供された場合、SP 導入による影響が発生することがあります。SP を適用した環境で運用する場合、設定変更などの必要な処置がある場合は、弊社のテクニカルサイトからアナウンスを致します。SP の適用を行う場合は弊社のテクニカルサイトで最新のサポート情報を確認してください。



2.WinKeeper / WinKeeper Pro の機能紹介

ここでは、WinKeeper の機能設定について説明します。

2-1.WinKeeper Clientの機能

WinKeeper Client はネットワーク内の PC に常駐し、保護 / 制限を行います。WinKeeper Client の機能は[基本設定]、[環境設定]、[オプション]の各カテゴリに分けられています。環境や運用目的に適した機能を選び、設定を施します。

基本設定

■ フォルダ保護 ("P.55 フォルダ保護の設定と解除" 参照)

フォルダ保護機能は共用パソコン上の誤消去や、消し忘れたファイルからの情報漏洩といったトラブルを未然に防ぐ機能です。保護対象のフォルダ内のデータに対する書き換えや削除、変更は再起動後に保護を開始した時点の状態に復元されます。

図 2-1-1



■ システム環境復元 ("P.60 システム環境復元の設定" 参照)

保護されている PC のレジストリ情報を取得し、再起動時に保護開始時点に復元する機能です。プログラムのインストールやウイルス等によるレジストリデータの変更に對し、再起動だけで対処することができます。

図 2-1-2



- フォルダ保護機能を使用する時は、必ずシステム環境復元機能と併用してください。両機能を併用しない場合、Windows システムが起動しなくなるなどの深刻な事態が起きる可能性があります。

■ システム制限 ("P.62 システム制限の設定" 参照)

ユーザによって勝手に変更されては困るレジストリデータやシステム設定画面を制限する機能です。不特定多数のユーザが触れる環境など、設定の維持が困難な環境でシステム関連の機能やネットワーク環境を変更できないように制限をかけます。

図 2-1-3



- Safe モード起動 (F8) の禁止機能は、Windows XP のみサポートしています。

■ 自動ログオン設定 ("P.63 自動ログオンの設定" 参照)

クライアント自動ログオン設定では、クライアント PC のアカウントとパスワードを自動入力し、管理者の便宜を図ります。

図 2-1-4



- 自動ログオンする前に、クライアント PC の使用者アカウントとパスワードを確認してください。

■ 問題解決 ("P.65 問題解決の設定" 参照)

保護の実施中に発生する特定のアプリケーションとの運用競合を回避する機能です。競合アプリケーションの動作を WinKeeper に登録し、その処理から派生するファイル生成やデータ変更などの影響を WinKeeper の保護対象から外すことができます。

- 問題解決機能ではレジストリの変更を伴う処理は回避することはできません。

図 2-1-5



■ 付加機能 ("P.69 付加機能の設定" 参照)

タスクトレイアイコンの表示切り替えや、登録したライセンスキーの変更など運用に応じて環境設定を変更する機能です。画面ロック機能ではロック画面の画像を変更できます。

図 2-1-6



■ 通信制御 ("P.71 通信制御の設定" 参照)

通信制御機能は簡易ファイアウォール機能の役割を持っています。インターネット閲覧やメッセージなどの特定の通信を制限して外部への不要な通信を遮断したり、共有による不正行為の暫定処置として通信制限をかけたりすることができます。

- 通信制御機能を使用するには、通信制御用モジュールを別途インストールする必要があります。インストール方法については、“P.38 通信制御機能のインストール”を参照してください。

拡張設定 1

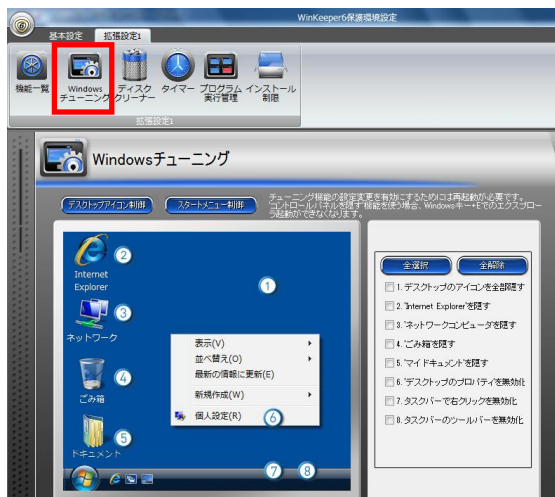
■ Windows チューニング ("P.74 Windows チューニングの設定" 参照)

誤操作を避けるために不要なアイコンを非表示にするなど、Windows 環境を特定の用途に適した状態にチューニングします。
[デスクトップアイコン制御]、[スタートメニュー制御]の設定で、ユーザからのアクセスを防ぐことができます。

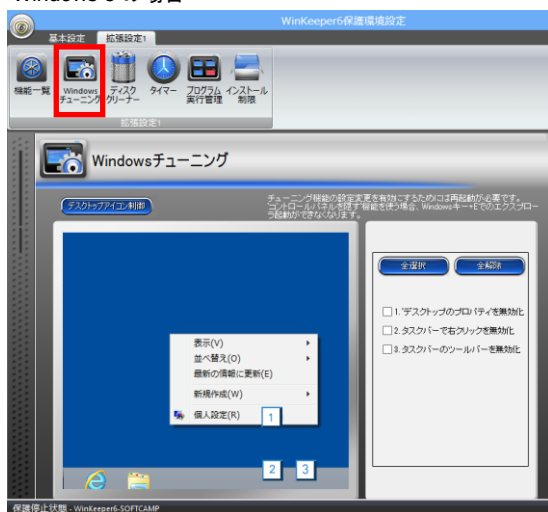
- Windows チューニングはレジストリ値の変更を伴うので、設定を適用するには再起動が必要な場合があります。

図 2-1-7

Windows XP / Windows Vista / Windows 7 の場合



Windows 8 の場合



■ ディスククリーナー ("P.76 ディスククリーナーの設定" 参照)

再起動時にインターネット一時ファイル / ごみ箱の中身を削除します。

図 2-1-8



- インターネット一時ファイルのフォルダとごみ箱については、フォルダ保護機能による保護対象にすることはできません。

■ タイマー ("P.77 タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除" 参照)

タイマーにより指定した時間に自動的に作業を行います。指定の日時や Windows 起動時間を基準にして、Windows の電源管理や保護機能の実行 / 停止、コマンドラインによるメンテナンス作業などを自動的に行うことができます。

図 2-1-9



■ プログラム実行管理 ("P.80 プログラム実行管理の追加と削除" 参照)

.exe や .com といった実行プログラムをローカルで起動できないように制限する機能です。ローカル上の実行プログラムを[全て実行禁止]か[全て実行許可]のいずれかで制限を行い、制限に対する[例外処理]として対象アプリケーションを登録します。

- 全てのプログラムの実行禁止ではスタートメニューに登録されたプログラムのみ禁止対象となります。

図 2-1-10



■ インストール制限 ("P.84 インストール制限の設定" 参照)

インストール制限機能は運用に不適切なアプリケーション / ActiveX モジュールの新規インストールを制限します。

図 2-1-11

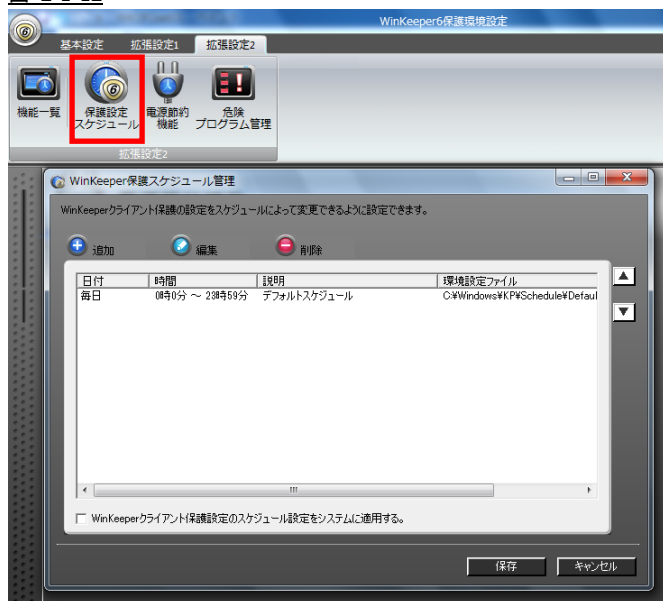


拡張設定 2

■ 保護設定スケジュール ("P.85 保護設定スケジュールの設定" 参照)

保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護の内容が自動で適用されます。

図 2-1-12



■ 電源節約機能 ("P.117 電源節約の設定" 参照)

起動していないクライアント PC の電源をセーブします。設定により、モードを選ぶことができます。

図 2-1-13



■ 危険プログラム管理 ("P.87 危険プログラム管理の設定" 参照)

プログラムを登録してユーザの利用を制限することで、管理者が実行を望まないプログラムはクライアント PC で起動されません。情報流出などのトラブルを未然に防ぐことができます。

図 2-1-14



2-2.WinKeeper Serverの機能

WinKeeper Server はネットワーク内の PC を統合管理し、保護状態やステータスの確認、管理方法の修正を行います。
WinKeeper Server の機能は、その用途から[リモート保護]、[アカウント管理]、[リモート管理]の機能群に分けられます。

リモート保護機能

WinKeeper Server から管理対象の PC に対してリモートで保護 / 制限設定を行う機能です。

■ リモートコンソール ("P.99 WinKeeper Client のコンソール起動" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC の WinKeeper Client コンソールを呼び出し、リモートで確認・操作する機能です。
マウスやキーボードの操作を WinKeeper Server から行うことができます。

図 2-2-1



■ 画面ロック ("P.97 PC の保護設定" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC をリモートで画面ロックする機能です。

画面ロックは WinKeeper Server コンソールから解除するか、[ESC]キーをクリックし、パスワードを入力することで解除できます。

図 2-2-2



- 複数台の選択時や全選択時、全体に対して一斉に画面ロックを実施することもできます。

■ 保護状態管理 ("P. 100 保護設定のコピーと適用" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC の保護状態をリモートで設定する機能です。

また、[保護設定内容コピー]により WinKeeper Client の保護設定情報を他の PC にコピーできます。

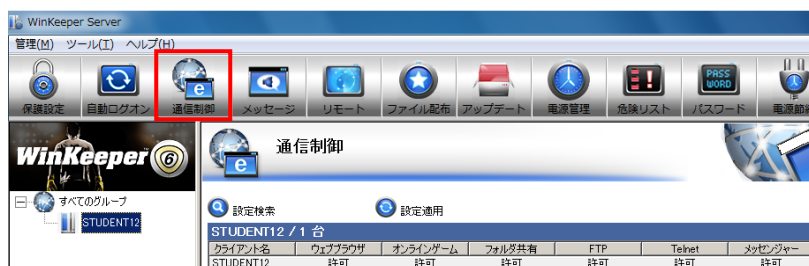
図 2-2-3



■ 通信制御 ("P. 106 通信制御状況の確認と変更" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC の通信制御状態の確認と変更する機能です。

図 2-2-4



■ 危険リスト ("P. 115 危険リスト配信" 参照)

プログラムの実行を制限するための実行ファイル名のリストを配信する機能です。

図 2-2-5



■ 電源節約 ("P. 117 電源節約の設定" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC の電源節約機能の確認と設定する機能です。

図 2-2-6



■ スケジュール ("P. 118 保護設定スケジュールの設定" 参照)

WinKeeper Server に接続している PC の保護設定スケジュールを設定する機能です。

図 2-2-7



アカウント管理機能

WinKeeper Client のリモートログオンや自動ログオンを設定・実行する機能です。

■ リモートログオン ("P.103 自動ログオンの設定" 参照)

クライアント PC がログオフ状態の時に WinKeeper Server からリモートでログオンできます。

図 2-2-8



自動ログオン設定

自動ログオン設定に使うユーザ名とパスワードを入力してください。

ユーザ名:

パスワード:

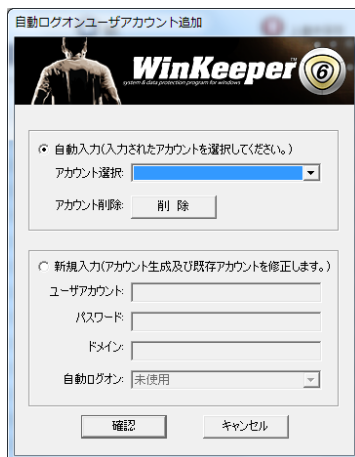
ドメイン名:

確認 キャンセル

■ 自動ログオン ("P.103 自動ログオンの設定" 参照)

[自動ログオン]選択時、マネージメントエリア上部にある機能設定ボタンの[自動ログオン設定]を選択することで、PC の自動ログオンを設定できます。複数のユーザを登録し、自動ログオンユーザを切り替えて運用することもできます。

図 2-2-9



自動ログオンユーザアカウント追加

☒ 自動入力(入力されたアカウントを選択してください。)

アカウント選択:

アカウント削除:

☐ 新規入力(アカウント生成及び既存アカウントを修正します。)

ユーザアカウント:

パスワード:

ドメイン:

自動ログオン:

確認 キャンセル

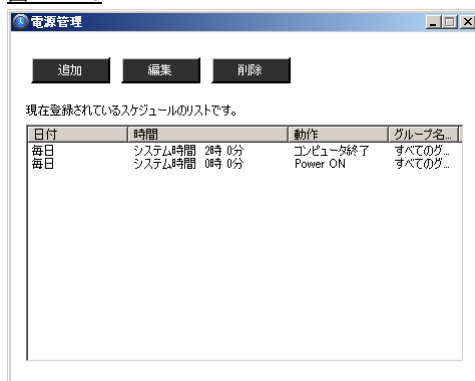
リモート管理機能

WinKeeper Client のリモートからの電源管理やコマンド配信、アップデートファイル配信といったメンテナンスに有効な機能が主なものです。

■ 電源管理 ("P.113 PC の電源管理" 参照)

電源管理では、毎日、日、曜日と時間で PC の Power ON / 再起動 / シャットダウンをスケジュール管理することができます。

図 2-2-10



電源管理

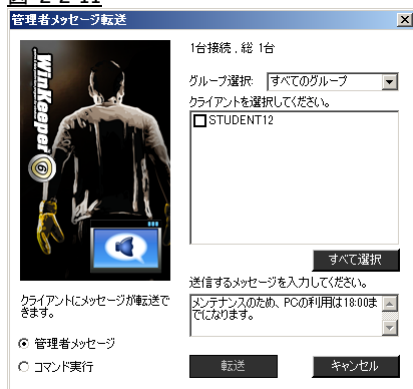
現在登録されているスケジュールのリストです。

日付	時間	動作	グループ名
毎日	システム時間 28時 0分	コンピュータ終了	すべてのグ...
毎日	システム時間 08時 0分	Power ON	すべてのグ...

■ メッセージ / コマンド配信 ("P.107 管理者メッセージとコマンド実行の送信" 参照)

メッセージ / コマンド配信機能では送信対象の PC を選択し、[管理者メッセージ]または[コマンド実行]を選択することで選択した PC に対して入力したメッセージやコマンドを実行させることができます。

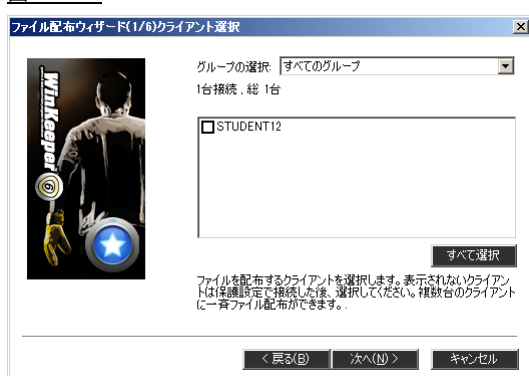
図 2-2-11



■ ファイル配布 ("P.110 ファイルの配信" 参照)

[ファイル配布]では WinKeeper Client に対して、指定したファイルパス上に単一もしくは複数のファイルを配信できます。転送したファイルを転送完了後に起動させることもできます。

図 2-2-12



■ アップデート ("P. 112 アップデートによるパッチファイルの配信" 参照)

[アップデート]機能の選択時、マネージメントエリア上の[最新版のダウンロード]を選択するとアップデートウィザードが表示されます。ウィザードの内容に従ってアップデートファイルを PC に配信することができます。

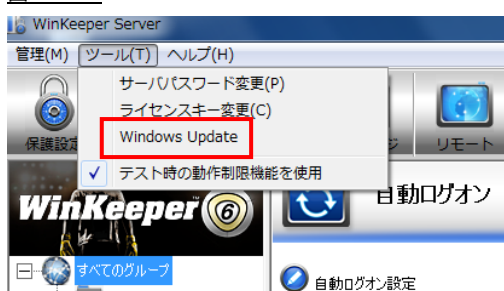
図 2-2-13



■ Windows Update ("P.125 Windows Update の設定" 参照)

Windows Update 機能では Windows Update の自動更新設定を指定し、クライアント PC に対して一括適用することができます。

図 2-2-14



テスト時の動作制限機能

■ テスト時の動作制限 ("P.126 テスト時の動作制限機能の設定" 参照)

クライアント PC に対してアプリケーション制限やインターネット起動制限などの制限ルールを設定し、テストの際に動作制限を行う機能です。

図 2-2-15

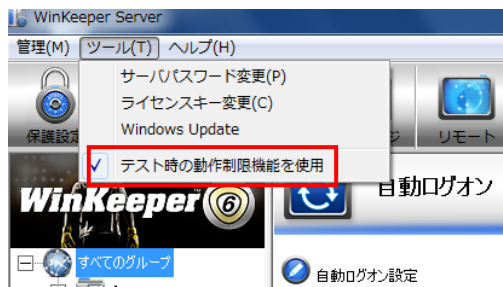
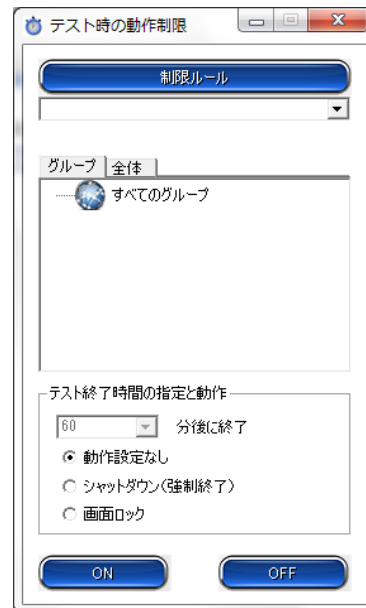


図 2-2-16



WinKeeper Pro の主要機能について

WinKeeper Pro はハードディスク内の各種データをイメージファイルとしてバックアップし、ローカルやネットワーク経由でイメージファイルを PC に復元するバックアップと復旧機能を備えた環境配備ツールです。

- 詳細機能については、パッケージに同梱されている WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite) CD-ROM 内のドキュメントを参照ください。
- Ghost Solution Suite 2.5.1 を Windows 8 環境で利用する場合、一部機能に制限があります。制限内容は Symantec 社発表の Ghost Solution Suite 2.5.1 の制限事項に 準拠します。



3. インストールとアンインストール

ここでは、WinKeeper のインストールと設定手順、アンインストールについて説明します。

3-1.導入前の確認事項

製品の確認

始めに、購入したパッケージに入っているライセンス証書を確認し、ライセンス証書に記載されている製品名を確認してください。

■ **Client のライセンスキーのみが記入されている場合**

WinKeeper をスタンドアロン版としてご利用いただけます。

■ **Server のライセンスキーと Client ライセンスキーが記入されている場合**

WinKeeper を WinKeeper Server 版としてご利用いただけます。

■ **Client のライセンスキーと製品名に WinKeeper Pro と記入されている場合**

WinKeeper をスタンドアロン版としてご利用いただけます。

また、イメージングソフトの WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite)の機能をご利用いただけます。

■ **Server のライセンスキーと製品名に WinKeeper Pro と記入されている場合**

WinKeeper を WinKeeper Server 版としてご利用いただけます。

また、イメージングソフトの WinKeeper Pro(Ghost Solution Suite)の機能をご利用いただけます。

ライセンスについて

■ **試用版について**

WinKeeper のライセンスを購入していない場合、試用版として 15 日間ご利用いただけます。試用期間経過後は自動的に保護が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録していただくか、製品をアンインストールしてください。

■ **管理対象台数分のライセンス取得**

WinKeeper はご購入頂いたライセンス数の上限を超えてお使い頂くことはできません。展開する台数がライセンス数を超過した台数分は、WinKeeper Server が通信を受け付けません。

■ **試用版の制限**

試用版の WinKeeper Client は、試用版の WinKeeper Sever に対して同時に 3 台まで同時接続することができます。接続台数が制限数を超えた場合、WinKeeper Sever が通信を受け付けなくなります。

■ **ライセンスキーの登録**

試用期間中のライセンスキーを登録するにはタスクトレイアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[製品登録]を選択します。WinKeeper[ライセンスキー入力]画面で、ライセンス証書上のユーザ名とライセンスキーを登録します。

■ **ライセンスキーの変更**

WinKeeper では登録したライセンスキーを変更することができます。

管理台数を追加したい場合や異なるライセンスのグループを統合したい場合は、弊社にお問い合わせの上、ユーザ名とライセンスキーを[ライセンスキー変更]機能で変更してください。

インストールする環境の確認

WinKeeper Server および WinKeeper Client をインストールする前に現在の運用環境 / ネットワーク環境について確認します。

以下の項目について確認してください。

■ WinKeeper Client

I. 管理者権限(Administrator)を持つユーザによる運用は推奨しない

WinKeeper によって保護された PC を、管理者権限を持つユーザで利用することは推奨していません

管理者権限を持つユーザは、Windows フォルダや System フォルダなどのシステムファイルが置かれているフォルダにアクセスできるため、障害が発生する可能性が高まります。セキュリティを考慮し、適切なユーザ権限でご利用ください。

II. 通信制御機能について

通信制御機能は、通信カード(NIC)上に仮想デバイスを搭載して通信をフィルタリングする簡易的なファイアウォール機能です。Windows のファイアウォール機能や、他のパーソナルファイアウォール製品を併用する場合は、機能的な競合が発生したり、システムに深刻な影響を及ぼしたりする恐れがありますので、いずれかの機能を OFF にしてご利用ください。

III. ヘルプファイルについて

WinKeeper のヘルプファイルは、PDF 形式で提供しています。WinKeeper のコンソールからヘルプファイルを起動する場合、PDF ファイルを開くことができるアプリケーションをインストールして頂く必要があります。

IV. 保護中の Windows Update 行為の制限について

WinKeeper の保護実行中は、Windows Update によるシステムファイルへの影響を防ぐため、Windows Update は実行できません。メンテナンスの際は必ず保護を停止してから行ってください。

■ WinKeeper Server

V. WinKeeper Server と管理対象 PC の名前解決

複数のセグメントに跨った PC 群を 1 台の WinKeeper Server で一元管理する場合、管理する PC と WinKeeper Server 間で名前解決ができる必要があります。通信が取れないまたは、Ping が通らない等の環境では運用できません。

VI. 複数セグメント VPN 環境での運用

複数セグメントを跨った環境や、他拠点の環境を VPN で繋いだ環境下では機能の一部をお使い頂けないことがあります。

拠点間の通信速度やマルチキャストパケットの設定等をご確認の上、導入前の運用試験を行ってください。

VII. 無線 LAN 環境下での運用について

無線 LAN 環境下での運用は可能ですが、通信状態が不安定で十分なデータ通信が行えない状況では、WinKeeper Server と WinKeeper Client 間の通信が途絶えてしまうことがあります。また、リモートコントロールや WakeOnLAN などの機能は、通信速度や LAN カードの仕様によってお使い頂けないことがあります。

インストール手順

お手元のライセンス証書をご確認ください。

お客様の購入ライセンスに応じて、インストール手順の該当項目が変わります。

該当のページを確認の上、インストール作業に移ります。

■ 1. WinKeeper Server のインストール

この作業は、以下のライセンスに該当する方が行ってください。

[ライセンス証書に記載されているライセンスキーの確認]

表 3-1-1

ユーザ名	
ライセンスキー	Client
	Server

- WinKeeper Server のインストールについては、"P.32 WinKeeper Server 基本機能のインストール" 参照

■ 2. WinKeeper Client のインストール

この作業は、以下のライセンスに該当する方が行ってください。

[ライセンス証書に記載されているライセンスキーの確認]

表 3-1-2

ユーザ名	
ライセンスキー	Client

表 3-1-3

ユーザ名	
ライセンスキー	Client
	Server

- WinKeeper Client のインストールについては、" P.25 WinKeeper Client 基本機能のインストール " 参照

■ 3. WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite) のインストール

下記の場所にある README 及び、ドキュメントを参照し、インストールを行ってください。

Ghost Solution Suite README : < WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite) インストール CD-ROM>%readme.txt

Ghost Solution Suite ドキュメント : < WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite) インストール CD-ROM>%Documentation

- WinKeeper Pro (Ghost Solution Suite) は、製品の性質上、必ずしも全ての WinKeeper Client にインストールするものではありませんのでご注意ください。

3-2. インストール

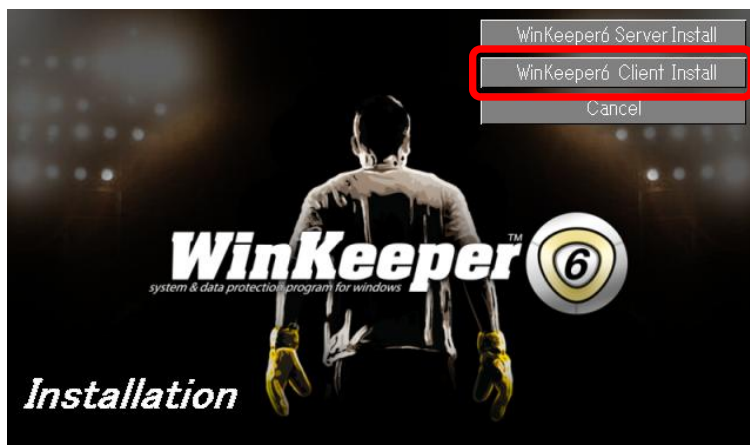
WinKeeper Client 基本機能のインストール

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>%Setup.exe]をダブルクリックします。

セットアップ用のスタートプログラムが起動します。[WinKeeper Client install]をクリックします。

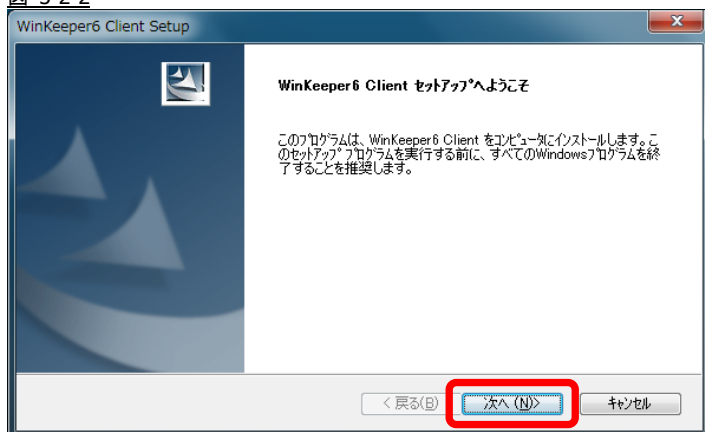
図 3-2-1



- 2) クライアントセットアップが表示されます。

[次へ]をクリックします。

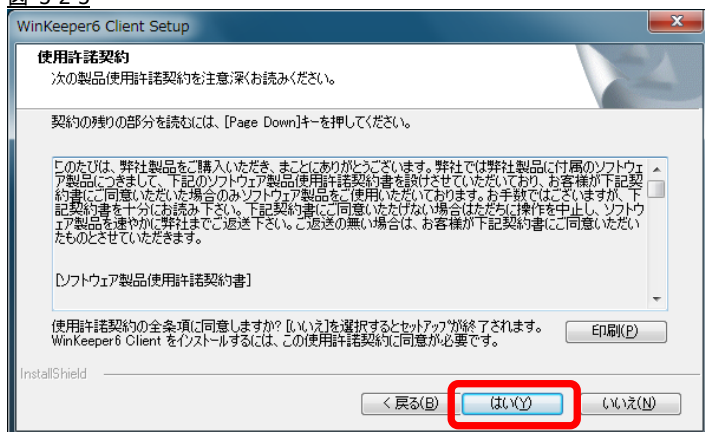
図 3-2-2



- 3) 使用許諾契約書が表示されます。

内容を確認後、[はい]をクリックします。

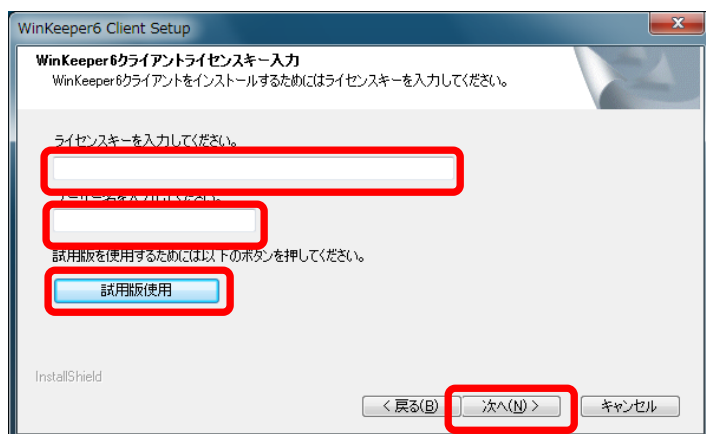
図 3-2-3



4) ライセンスキーの入力を行います。

ライセンス証書に記載されている Client 用のライセンスキーとユーザ名をボックスに入力し、[次へ]をクリックします。
試用版としてご利用頂く場合は、[試用版使用]をクリックします。

図 3-2-4

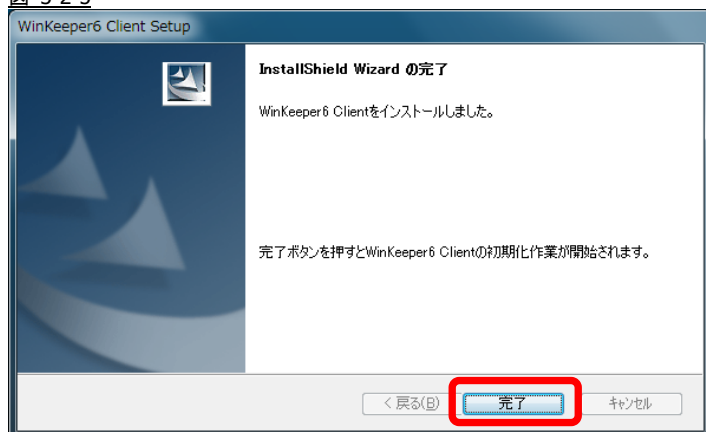


- 試用版は、15 日間ご利用いただけます。試用期間を経過した場合、自動的に保護が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録または、製品をアンインストールしてください。

5) セットアップが完了します。

[完了]をクリックします。

図 3-2-5



■ 設定ウィザード

- 6) 設定ウィザードが開始されます。

[確認]をクリックします。

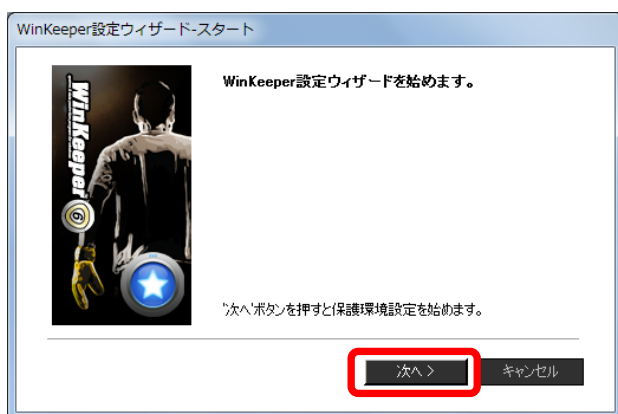
図 3-2-6



- 7) 設定ウィザードのスタート画面が表示されます。

[次へ]をクリックします。

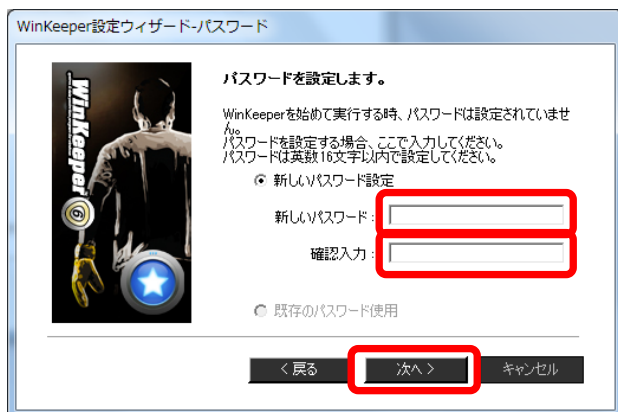
図 3-2-7



- 8) パスワードの設定画面が表示されます。

WinKeeper Client コンソールにログインするための管理用パスワードを設定し、[次へ]をクリックします。

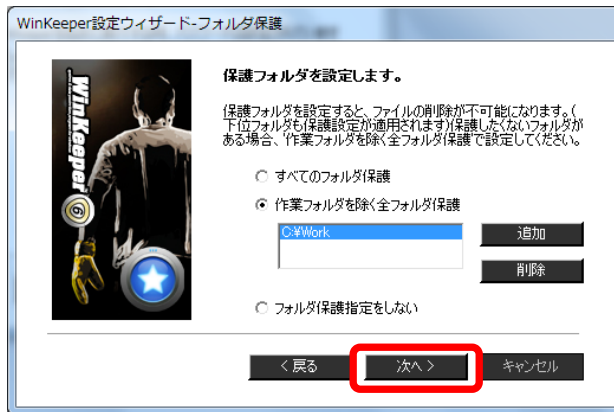
図 3-2-8



- WinKeeper Server から管理する場合は、WinKeeper Server コンソールからリモートでパスワードを変更できます。

- 9) フォルダ保護機能の基本設定画面が表示されます。

図 3-2-9



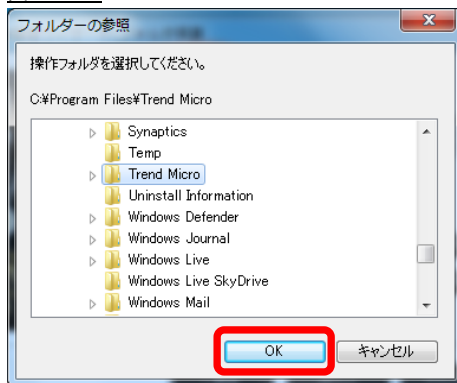
I. ローカルの全てのフォルダを保護対象にする場合

[すべてのフォルダ保護]をチェックし、[次へ]をクリックします。

II. 特定のフォルダを保護対象外にする場合

- ① [作業フォルダを除く全フォルダ保護]にチェックをし、[追加]をクリックすると、[フォルダの参照]画面が開きます。

図 3-2-10



- ② 復元したくないフォルダ(作業用フォルダやウイルス対策製品などの定期的なファイル更新環境のフォルダ)を選択して、[OK]をクリックして対象外リストに登録します。

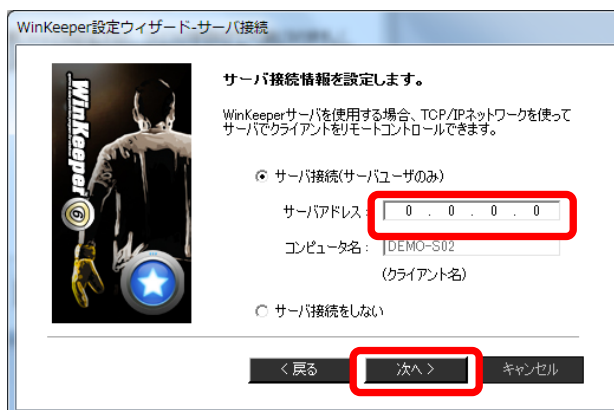
III. フォルダ保護機能を使わない場合や、後で設定する場合

[フォルダ保護指定をしない]を選択し、[次へ]をクリックします。

- 10) サーバ接続の設定をします。

WinKeeper Server から管理する場合、[サーバ接続]を選択し、サーバアドレスの欄に WinKeeper Server がインストールされているコンピュータの IP アドレスを入力して、[次へ]をクリックします。

図 3-2-11

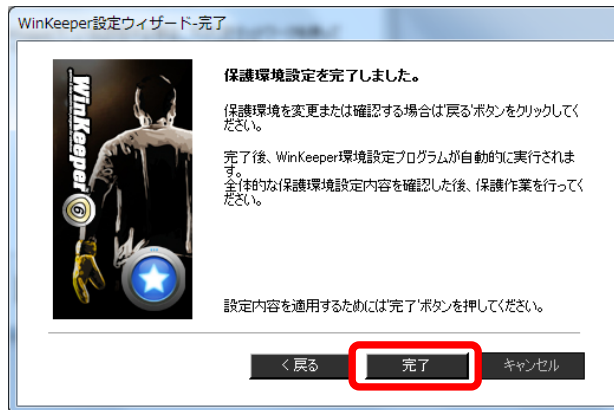


- スタンドアロンで利用する場合や、後で設定する場合は、[サーバ接続をしない]をチェックします。
- WinKeeper Server から管理する場合は、必ずここで WinKeeper Server の IP アドレスを入力してください。インストール完了後に自動的に WinKeeper Server コンソール上に登録されます。

11) 保護設定ウィザードが完了します。

[完了]をクリックしてください。

図 3-2-12



12) インストールを完了するための再起動確認画面が表示されます。

[再起動]をクリックして再起動します。

作業中の場合は、タイマーのチェックボックスを外し、作業を終了してから再起動してください。

図 3-2-13



以上で、WinKeeper Client のインストールは完了です。

- 再起動直後は保護解除状態で起動します。("P.47 WinKeeper アイコンの状態" 参照)

WinKeeper Client 拡張機能 1 のインストール

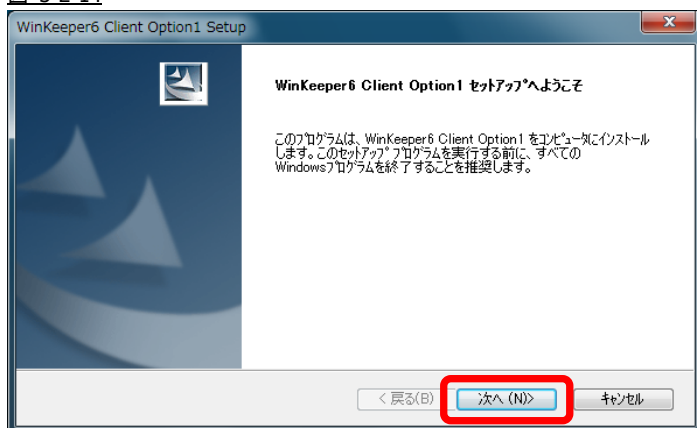
- WinKeeper Client 拡張機能 1 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 1 の機能は、Windows チューニング、ディスククリーナー、タイマー、プログラム実行管理、インストール制限が含まれます。

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>¥ Client¥ClientOption1¥setup.exe]をダブルクリックします。

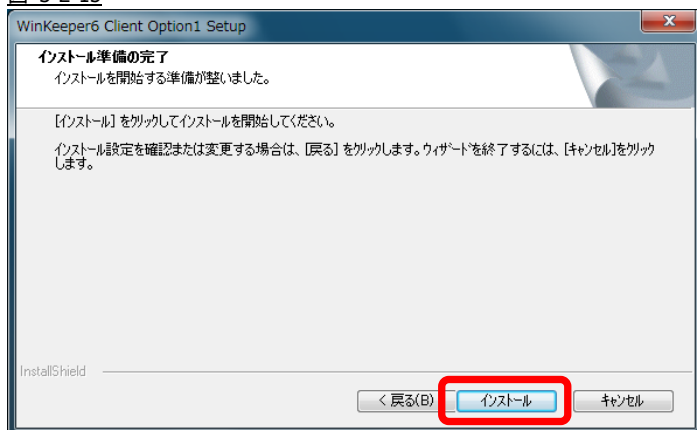
クライアント拡張機能 1 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-14



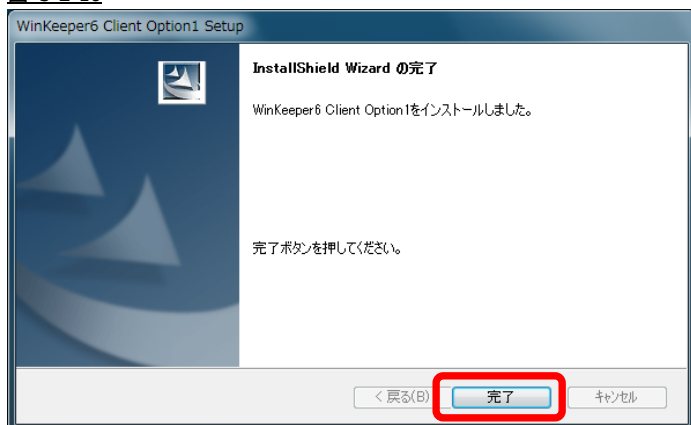
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-15



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-16



WinKeeper Client 拡張機能 2 のインストール

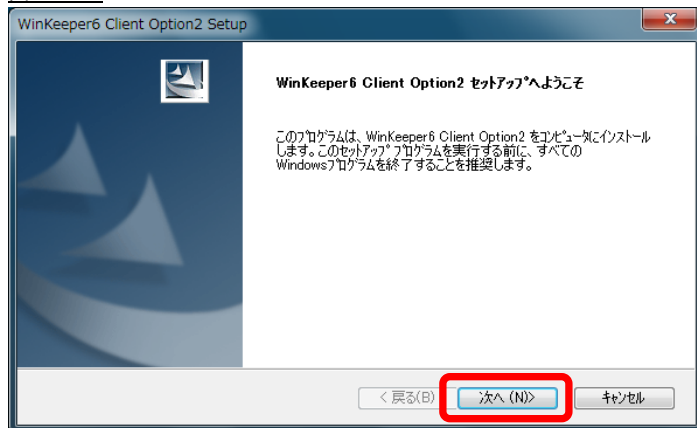
- WinKeeper Client 拡張機能 2 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 2 の機能は、保護設定スケジュール、危険リスト、電源節約が含まれます。

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>¥ Client¥ClientOption2¥setup.exe]をダブルクリックします。

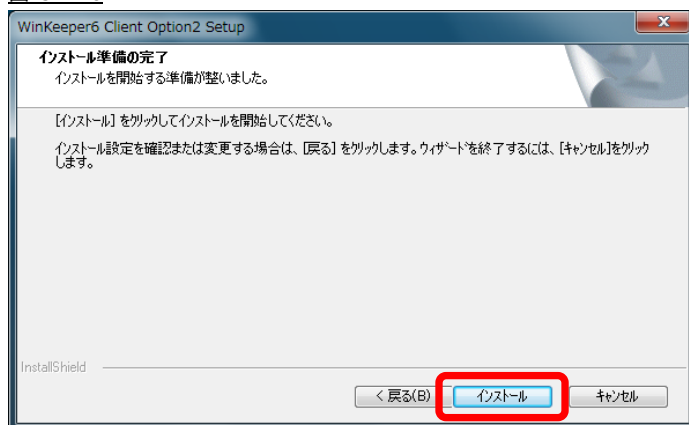
クライアント拡張機能 2 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-17



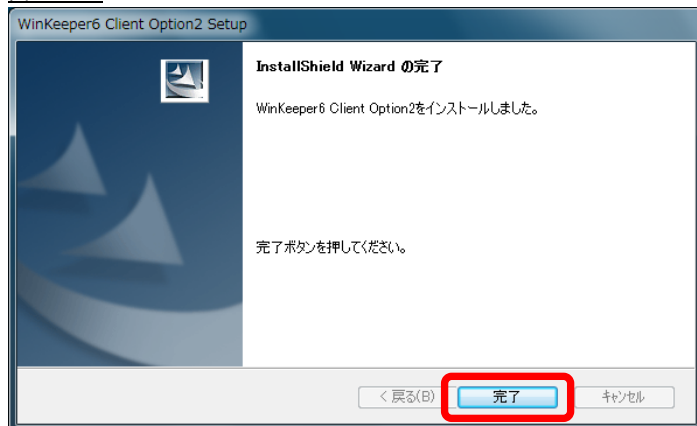
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-18



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-19



WinKeeper Server 基本機能のインストール

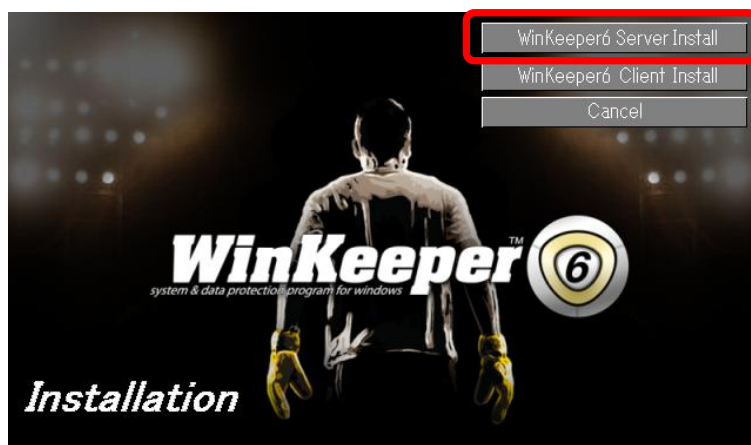
- WinKeeper Server のインストールを実行する場合、ご利用いただく機能のみインストールを行ってください。

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>%Setup.exe]をダブルクリックします。

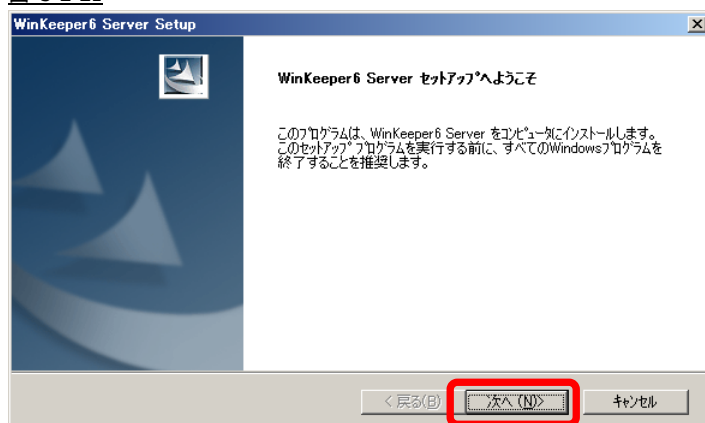
セットアップ用のスタートプログラムが起動します。[WinKeeper Server install]をクリックします。

図 3-2-20



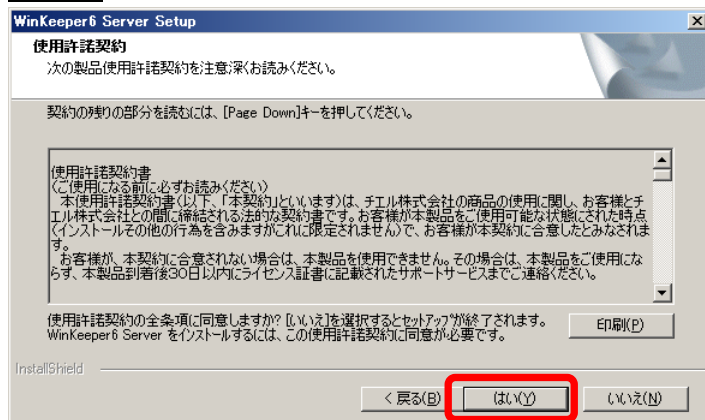
- 2) サーバーセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-21



- 3) 使用許諾契約書が表示されます。内容を確認後、[はい]をクリックします。

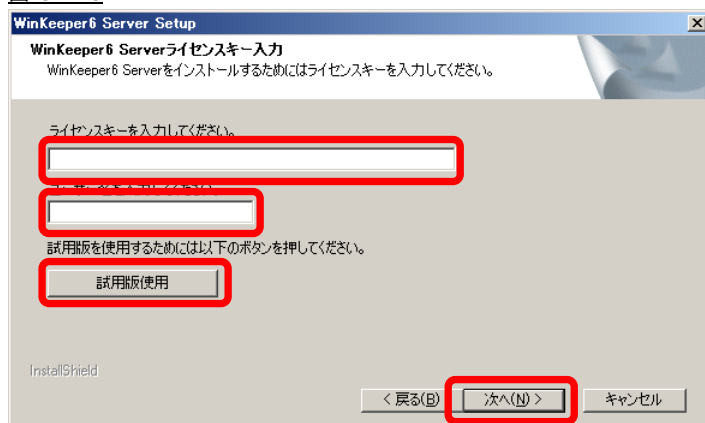
図 3-2-22



- 4) ライセンスキーの入力画面が表示されます。

ライセンス証書に記載されている Server 用のライセンスキーとユーザ名を入力し、[次へ]をクリックします。
試用版としてご利用頂く場合は、[試用版使用]をクリックします。

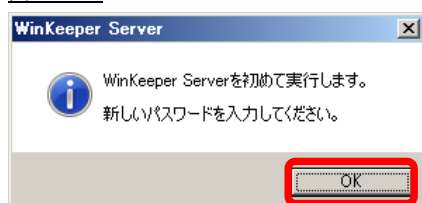
図 3-2-23



● 試用版は、15 日間ご利用いただけます。試用期間を経過した場合、自動的に保護が実行できなくなりますので、ライセンスキーを登録または、製品をアンインストールしてください。

- 5) WinKeeper Server インストール後の実行画面が表示されます。[OK]をクリックします。

図 3-2-24



- 6) WinKeeper のパスワード設定画面が表示されます。

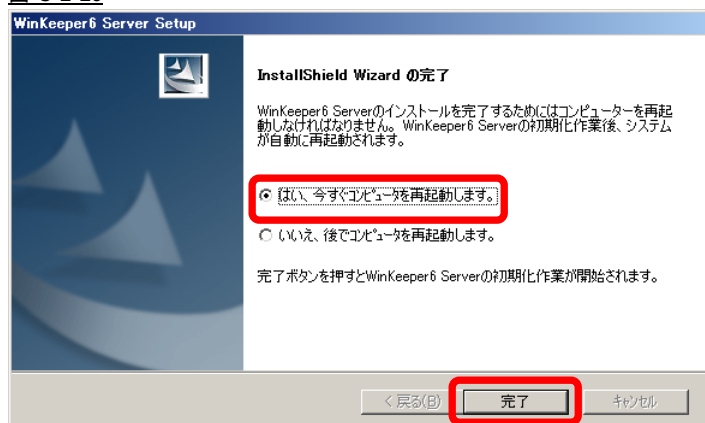
コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し、[確認]をクリックします

図 3-2-25



- 7) セットアップが完了します。「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-2-26



- 正常に WinKeeper を使用するためには、必ず再起動を行ってください。

WinKeeper Server 拡張機能 1 のインストール

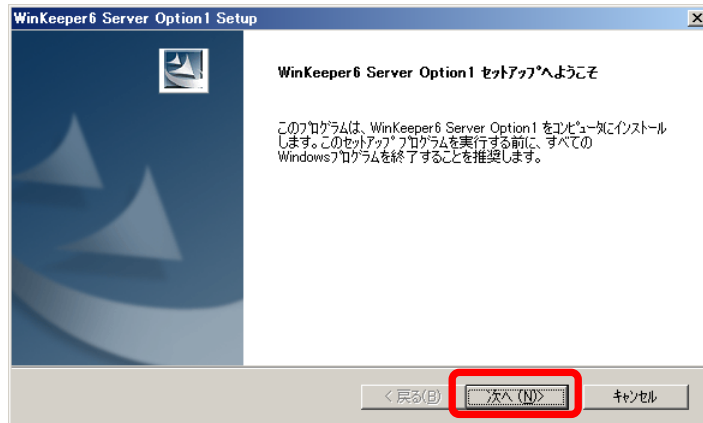
- WinKeeper Server 拡張機能 1 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 1 の機能は、画面ロック、メッセージ、ファイル配布、アップデートが含まれます。

- 4) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>¥ Server¥ServerOption1¥setup.exe]をダブルクリックします。

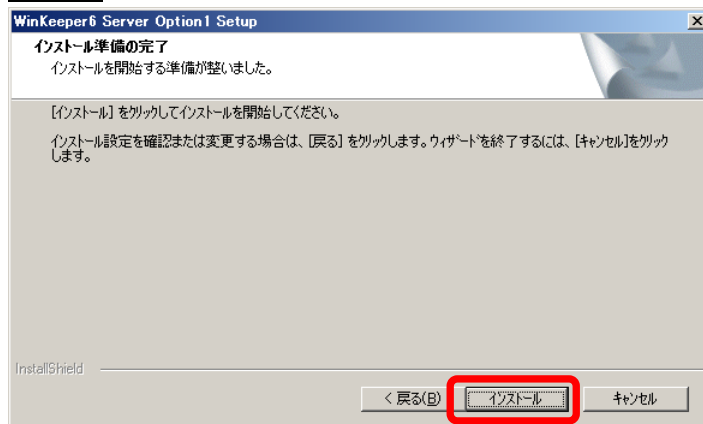
サーバ拡張機能 1 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-27



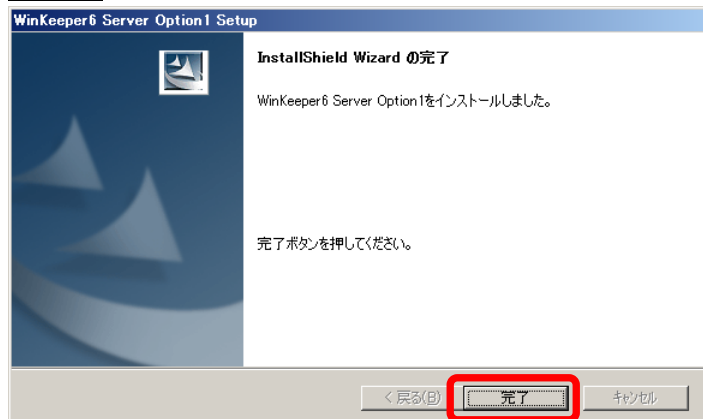
- 5) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-28



- 6) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-29



WinKeeper Server 拡張機能 2 のインストール

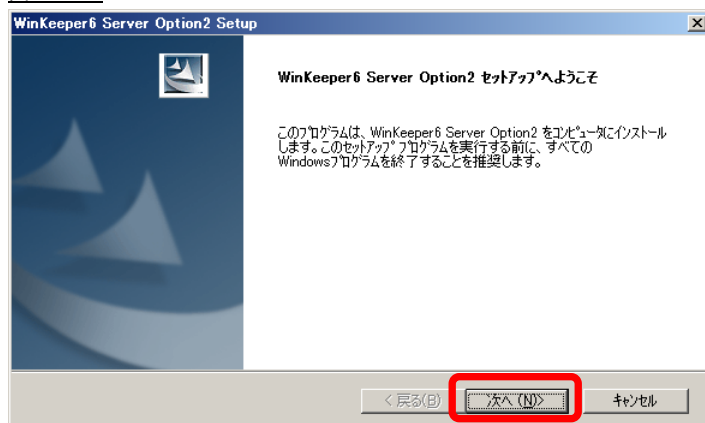
- WinKeeper Server 拡張機能 2 を使用しない場合、インストールの必要はありません。
- 拡張機能 2 の機能は、保護設定スケジュール、危険リスト、電源節約が含まれます。

- 4) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>¥ Server¥ServerOption2¥setup.exe]をダブルクリックします。

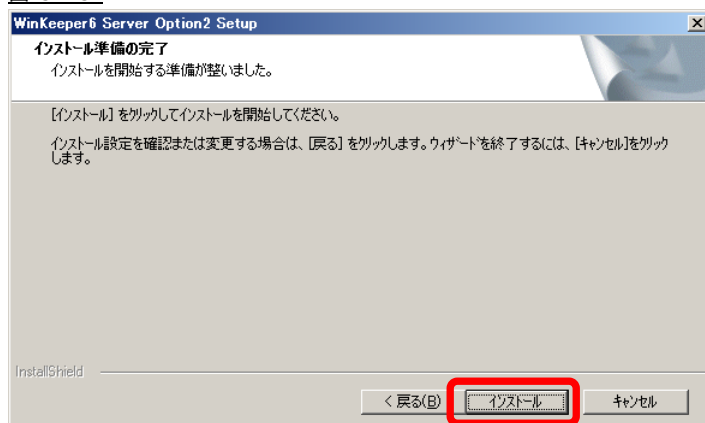
サーバ拡張機能 2 のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-30



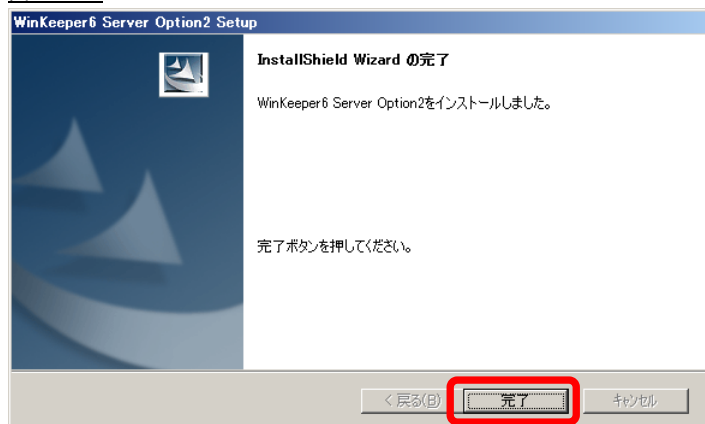
- 5) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-31



- 6) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-32



WinKeeper Server テスト時の動作制限機能のインストール

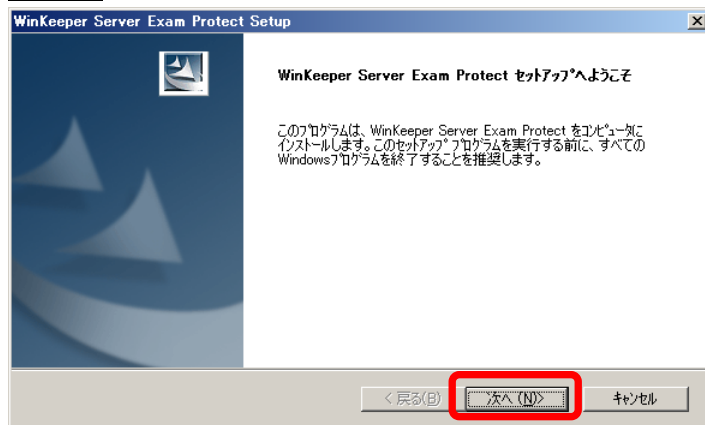
- WinKeeper Server テスト時の動作制限機能を使用しない場合、インストールの必要はありません。

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

[<CD-ROM ドライブ>¥Server¥ExamProtect¥setup.exe]をダブルクリックします。

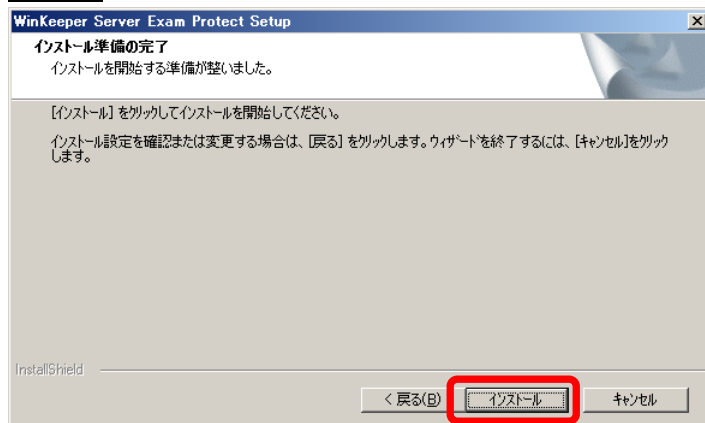
テスト時の動作制限のセットアップが表示されます。[次へ]をクリックします。

図 3-2-33



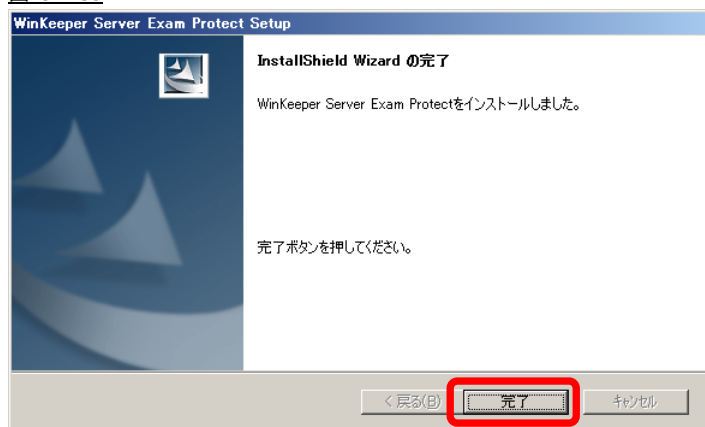
- 2) インストール準備の完了が表示されます。[インストール]をクリックします。

図 3-2-34



- 3) インストール完了が表示されます。[完了]をクリックします。

図 3-2-35



以上で、WinKeeper Server のインストールは完了です。

リモートコントロール機能のインストール

- 1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。
- 2) WinKeeper Server をインストールしているコンピュータでセットアップを行うには、[\\RCServer]をダブルクリックします。
WinKeeper Client をインストールしているコンピュータでセットアップを行うには、[\\RCClient]をダブルクリックします。

● 弊社製品の InterCLASS、ExtraConsole、InterMANAGER、CaLabo EX、CaLabo LX をご利用の環境では、リモートコントロール機能はインストールしないでください。これらの製品はリモートコントロール機能に相当する「画面転送機能」「リモート操作機能」を備えているため、両方をインストールして利用することはできません。

- 3) 2)で開いたフォルダにある[Setup.exe]をダブルクリックします。
- 4) 使用許諾契約が表示されますので、内容を確認後[はい]をクリックし、使用しない場合は[いいえ]をクリックします。

図 3-2-36



- 5) セットアップが完了します。

● 上記の手順 4)、はリモートコントロール Server のインストール時に表示される画面を元に説明しています。リモートコントロール Client をインストールする場合は、表示されるメッセージ中の Remote Control Server の表記が、それぞれ Remote Control Client となります。

以上で、リモートコントロール機能のインストールは完了です。

通信制御機能のインストール

1) インストールするコンピュータの CD-ROM ドライブに、セットアップ CD-ROM をセットします。

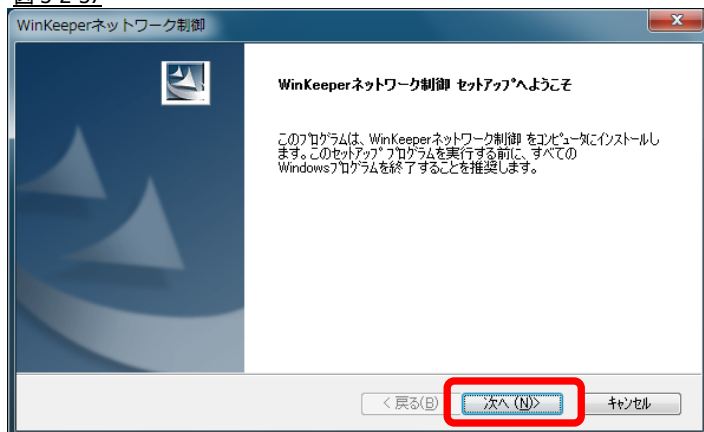
2) [\NW_Control]をダブルクリックします。

● 通信制御モジュールをインストールする必要があるのは、WinKeeper Client をインストールしているコンピュータのみです。

3) 2)で開いたフォルダにある[setup.exe]をダブルクリックします。

4) インストール画面が表示されますので、[次へ]をクリックします。

図 3-2-37



5) 通信制御用モジュールがインストールされます。

以上で、通信制御機能のインストールは完了です。

3-3.設定手順

WinKeeper Client の設定手順

ライセンスによる該当項目を確認しながら作業を進めてください。

■ 1. WinKeeper Client の設定

WinKeeper Client の設定は以下の 2 つの方法があります。

1. ローカルコンソールから WinKeeper Client を設定する
2. WinKeeper Server から、リモートコンソールを起動して WinKeeper Client を設定する

WinKeeper Client コンソールの起動 ("P.48 コンソールの起動と終了" 参照)

WinKeeper Client の機能設定 ("P.53 4-2.WinKeeper Client の機能設定" 参照)

保護の実行 ("P.88 4-3.保護状態の選択" 参照)

■ 2. 設定の保存とコピー(ファイル)

設定情報の保存とコピー ("P.89 4-4.設定の保存とコピー(ファイル)" 参照)

WinKeeper Server の設定手順

該当項目を確認しながら、作業を進めてください。

■ 1. WinKeeper Server の設定

WinKeeper Server コンソールの起動 ("P.92 コンソールの起動と終了" 参照)

WinKeeper Server の機能設定 ("P.95 5-2.WinKeeper Server の機能設定" 参照)

■ 2. 設定のコピー(ネットワーク)

設定情報のコピー ("P.100 保護設定のコピーと適用" 参照)

3-4. アンインストール

WinKeeper Client のアンインストール

WinKeeper Client のアンインストールは WinKeeper の保護が終了している状態でを行います。

"P.47 WinKeeper アイコンの状態" を参照し、WinKeeper が保護実行の状態または、保護停止の状態の場合は保護を終了します。保護の終了は WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[終了]をクリックします。

- 保護の終了は、以下からも行うことができます。

WinKeeper Client コンソールからの保護終了("P.88 4-3.保護状態の選択" 参照)

■ Remote Control Client のアンインストール

リモートコントロール機能をご利用の場合は、まず Remote Control Server をアンインストールします。

コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[Remote Control Client]を選択し、[XP: 削除、Vista / 7 / 8 : アンインストールと変更] をクリックします。

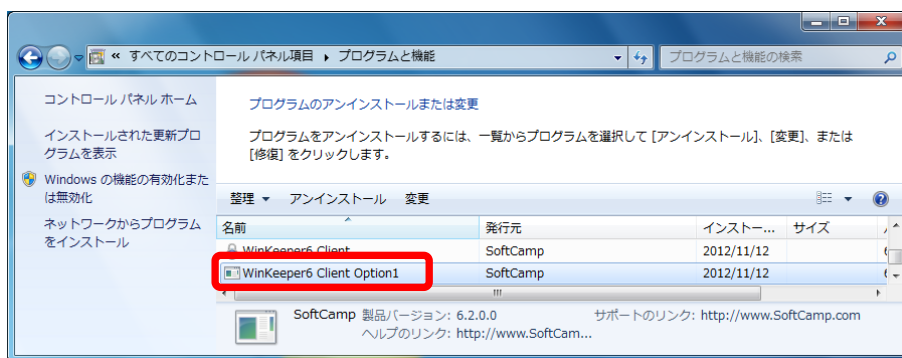
図 3-4-1



■ WinKeeper Client 拡張機能 1 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Client Option1]を選択し、[XP: 削除、Vista / 7 / 8 : アンインストール] をクリックします。

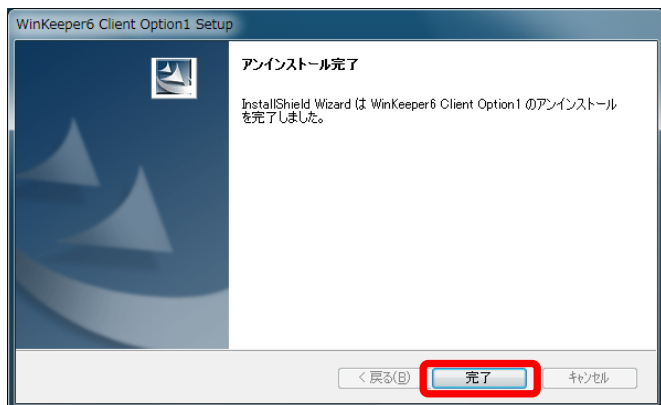
図 3-4-2



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

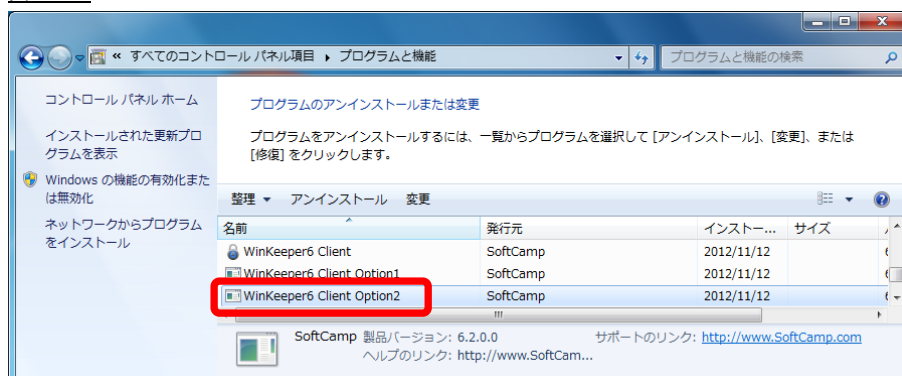
図 3-4-3



■ WinKeeper Client 拡張機能 2 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Client Option2]を選択し、
[XP : 削除、Vista / 7 / 8 : アンインストール] をクリックします。

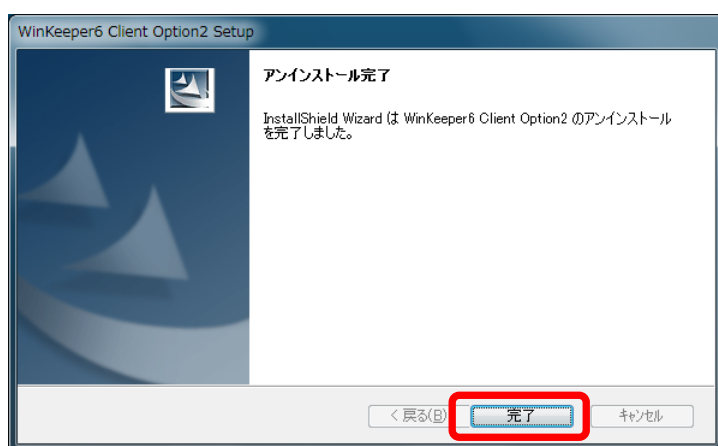
図 3-4-4



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

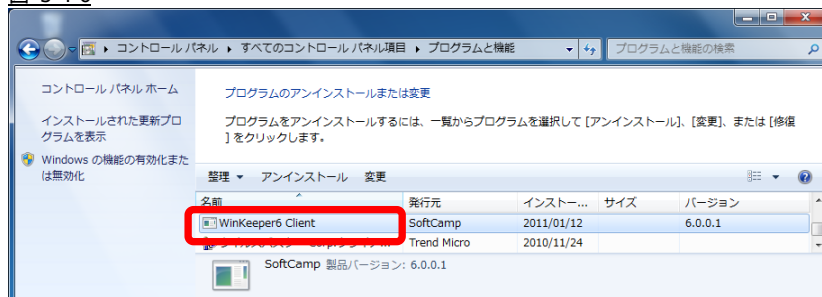
図 3-4-5



■ WinKeeper Client 基本機能のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Client]を選択し、 [XP : 削除、Vista / 7 / 8 : アンインストール] をクリックします。

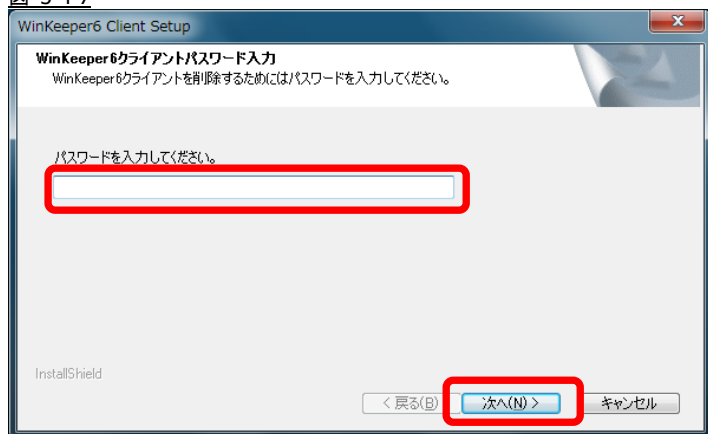
図 3-4-6



- 2) パスワードの確認画面が表示されます。

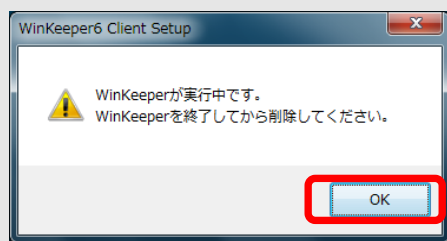
パスワードの欄に、WinKeeper Client コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し[次へ]をクリックします。

図 3-4-7



- 保護を終了していない場合、警告画面が表示されます。[OK]をクリックし、WinKeeper の保護終了を行ってからアンインストールを行います。("P.88 保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行" 参照)

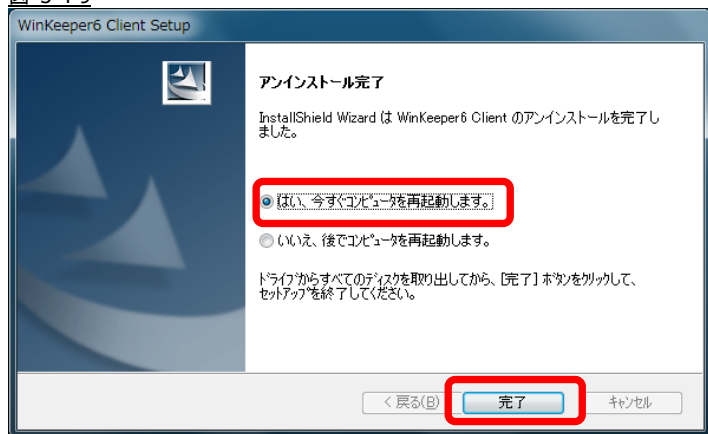
図 3-4-8



- 3) アンインストールの完了画面が表示されます。

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-4-9



- 4) 再起動後、Windows にログオンし、以下のフォルダを削除します。

C:\Windows\KP

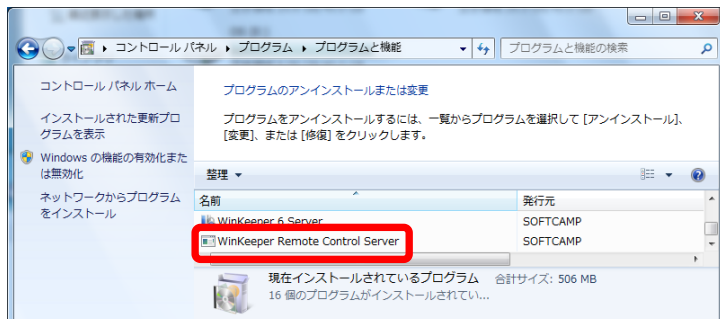
WinKeeper Server のアンインストール

■ Remote Control Server のアンインストール

リモートコントロール機能をご利用の場合は、まず Remote Control Server をアンインストールします。

コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper Remote Control Server]を選択し、
[XP : 削除、Vista / 7 / 8 / 2008 / 2012 : アンインストールと変更] をクリックします。

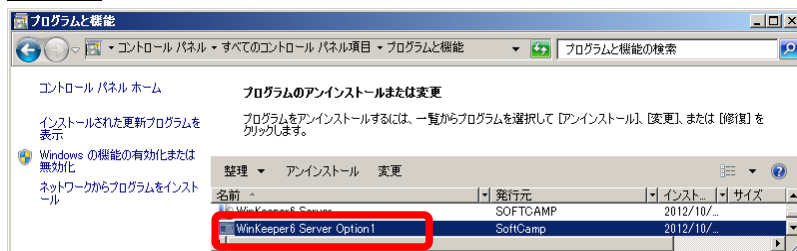
図 3-4-10



■ WinKeeper Server 拡張機能 1 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Server Option1]を選択し、
[XP : 削除、Vista / 7 / 8 / 2008 / 2012 : アンインストール] をクリックします。

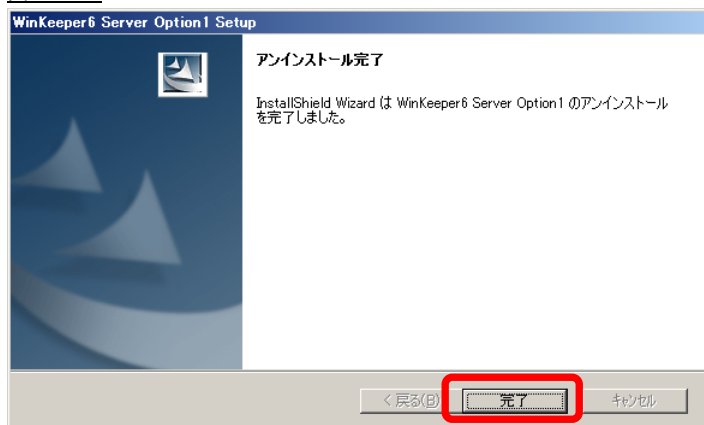
図 3-4-11



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

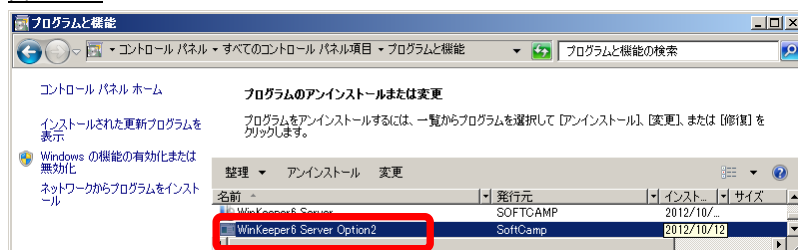
図 3-4-12



■ WinKeeper Server 拡張機能 2 のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Server Option2]を選択し、
[XP : 削除、Vista / 7 / 8 / 2008 / 2012 : アンインストール] をクリックします。

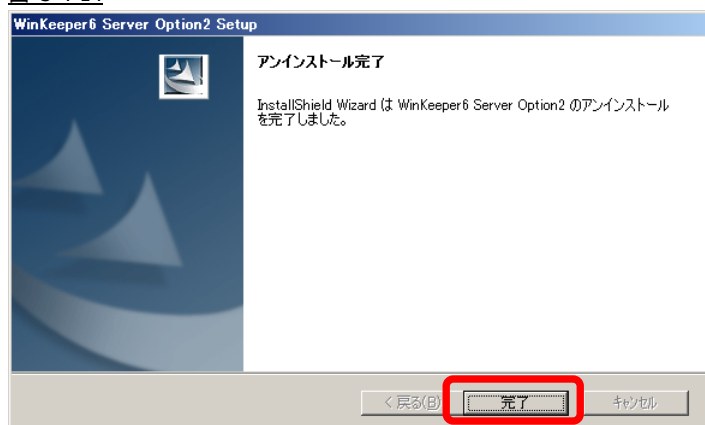
図 3-4-13



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

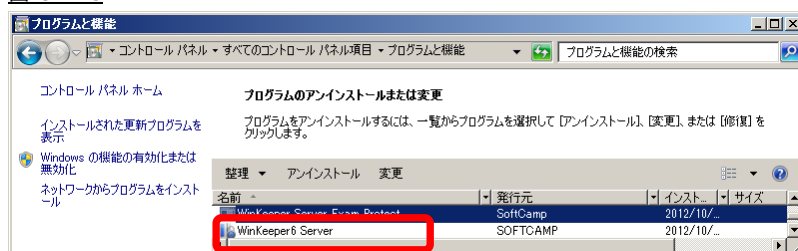
図 3-4-14



■ WinKeeper Server テスト時の動作制限のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Server Exam Protect]を選択し、
[XP : 削除、Vista / 7 / 8 / 2008 / 2012 : アンインストール] をクリックします。

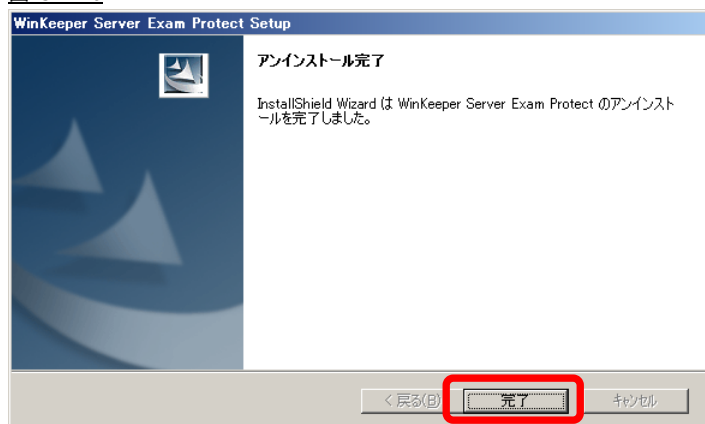
図 3-4-15



- 2) アンインストール完了画面が表示されます。

[完了]をクリックします。

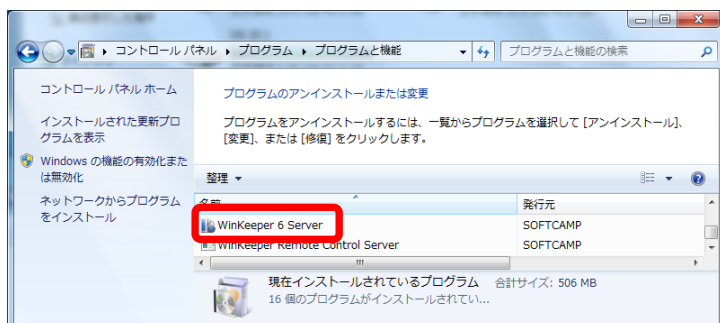
図 3-4-16



■ WinKeeper Server 基本機能のアンインストール

- 1) コントロールパネルのプログラムの追加と削除(アプリケーションの追加と削除)で[WinKeeper 6 Server]を選択し、[XP : 削除、Vista / 7 / 8 / 2008 / 2012 : アンインストール] をクリックします。

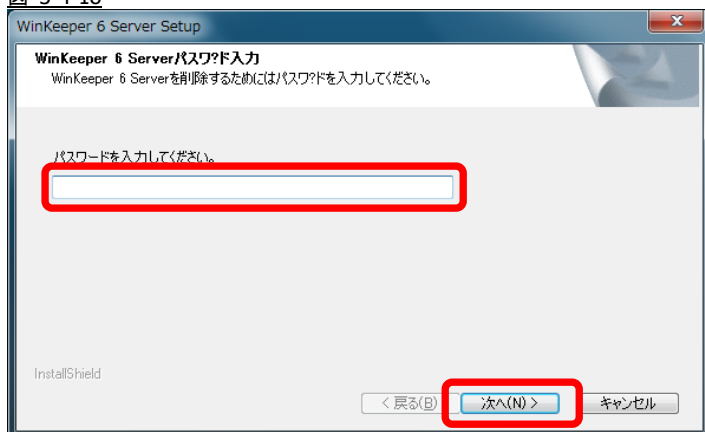
図 3-4-17



- 2) パスワードの入力画面が表示されます。

パスワードの欄に、コンソールにログインするための管理用パスワードを入力し[次へ]をクリックします。

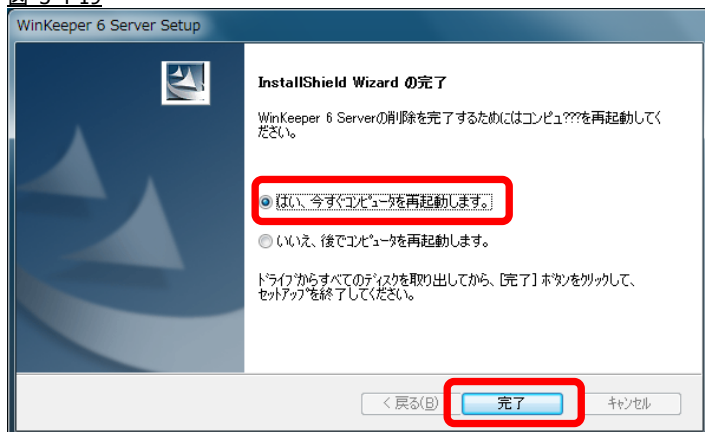
図 3-4-18



- 3) アンインストールの完了画面が表示されます。

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]をクリックします。

図 3-4-19



- 4) 再起動後、Windows にログオンし、以下のフォルダを削除します。

C:\PKS

4

4.WinKeeper Client の設定

ここでは、ネットワーク内に展開された WinKeeper Client の設定方法について説明します。

4-1.WinKeeper Clientの設定



運用上の注意点

- WinKeeper は再起動時に保護開始時点の環境に復元する機能を持っています。ファイルやレジストリデータなど、他のプログラムの運用に影響を及ぼす恐れがあるため、同居する他のプログラムの動作について必ず把握しておいてください。
- 頻繁なアップデートを発生させるソフトウェアなどは、WinKeeper によって保護をされた環境下での運用に支障がある場合があります。その際はインストールフォルダを保護対象から除外するなどの設定変更が必要になります。
- アプリケーションの動作がレジストリの変更を伴う場合、WinKeeper の[システム環境復元機能]によって毎回復元されますので定期的な更新作業(保護停止をして、レジストリを改変してから保護再開)を行うか、例外対象として設定していただく必要があります。また、レジストリを変更しないと正常に動作しなくなるプログラムもありますので、プログラムの仕様を製造元に確認してください。
- 同じ機能や同じ処理方法を有するプログラムと同居している場合、プログラムの処理同士で干渉して運用障害を発生させることがあります。その環境下では、以下の[機能選択]から重複する機能を使用不可に設定して状況を確認してください。
- 保護設定を行い、その設定を保存したい場合は[保護実行]もしくは[保護停止]を選択します。
保護設定を行っても設定内容の保存を実行しなければ、設定した内容は無効になりますのでご注意ください。

WinKeeper アイコンの状態

■ WinKeeper アイコン

表 4-1-1

状 態	アイコン	説 明
保護実行	 (青い鍵マーク)	保護設定にて、保護対象にしたフォルダを保護している状態です。
保護停止	 (赤い鍵マーク)	保護設定にて、保護対象にしたフォルダの保護を停止(解除)している状態です。 ※WinKeeper Client インストール直後のアイコンの状態です。

- 保護が終了していたり、タスクトレイアイコンを非表示にしていたりする場合、タスクトレイアイコンは表示されません。

■ WinKeeper アイコンメニュー

タスクトレイに表示されている WinKeeper アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。

図 4-1-1

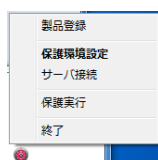


図 4-1-2



表 4-1-2

項 目	説 明
製品登録	WinKeeper Client インストール時、[試用版使用]をクリックしてインストールを行った場合に表示されます。試用版から製品登録を行う場合に選択し、製品登録を行うことができます。 ("P.70 図 4-2-56 [WinKeeper ライセンスキー入力]画面" 参照) ※WinKeeper Client インストール時に、ライセンスキーを入力してインストールを行った場合、[製品登録]は表示されません。
保護環境設定	WinKeeper Client の保護環境の設定を行う場合に選択します。 ("P.53 4-2.WinKeeper Client の機能設定" 参照)
サーバ接続	WinKeeper Server と接続を行う場合に設定します。("P.48 サーバ接続" 参照)
保護実行 / 保護停止 / 保護再実行	保護停止中の場合は保護実行が表示され、保護実行中の場合は保護停止および保護再実行が表示されます。選択するとパスワードの入力画面が表示され、保護を実行、停止または再実行します。 ※保護停止後は再起動が行われます ※保護再実行後は 2 回の再起動が行われます。

終了	保護を終了し、WinKeeper Client の機能を終了して再起動を行います。 ※再起動後タスクトレイに WinKeeper Client アイコンが表示されません。再度 WinKeeper Client の機能を開始する場合は、"P.48 II コントロールパネルから起動する方法"を参照
----	--

サーバ接続

- 1) サーバ接続を行う場合は、コンソールの機能設定ボタンから[サーバ接続]をクリックします。

図 4-1-3



- サーバ接続の設定は、上記の手順以外にメニューバーの[ネットワーク] → [サーバ接続]を選択または、WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[サーバ接続]を選択して設定を行うこともできます。

- 2) サーバ接続の設定画面が表示されます。

WinKeeper Server の IP アドレスを入力し、[サーバ接続]をクリックします。

図 4-1-4

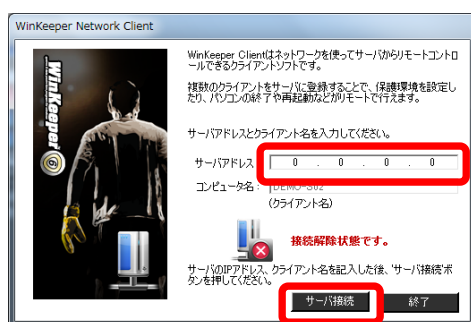


表 4-1-3

画 像	状 態
	サーバ接続が解除されている状態
	サーバに接続中の状態
	サーバと接続している状態

コンソールの起動と終了

■ 起動

- 1) 以下のいずれかの方法で、コンソールを起動します。

I. WinKeeper アイコンから起動する方法

WinKeeper Client で、タスクトレイ上の WinKeeper アイコンをクリックまたは WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[保護環境設定]を選択します。

図 4-1-5



II. コントロールパネルから起動する方法

WinKeeper Client PC でコントロールパネルを開き、[WinKeeper 6]アイコンをクリックします。

図 4-1-6



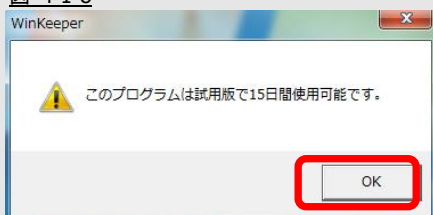
- 保護が終了している、または WinKeeper アイコンを非表示にしている場合、タスクトレイアイコンは表示されません。その場合は、[コントロールパネルからの起動]でコンソールを起動してください。

- 2) パスワード入力画面が表示されます。
パスワードを入力し、[確認]をクリックします。
図 4-1-7



- WinKeeper を試用版でインストールを行った場合は、パスワード入力画面が表示される前に確認画面が表示されます。
[OK]をクリックするとパスワード画面が表示されます。

図 4-1-8



- パスワードは WinKeeper Client をインストールした時に設定したパスワードです。("P. 27 パスワードの設定" 参照)
- 試用版の利用期間は 15 日間になります。

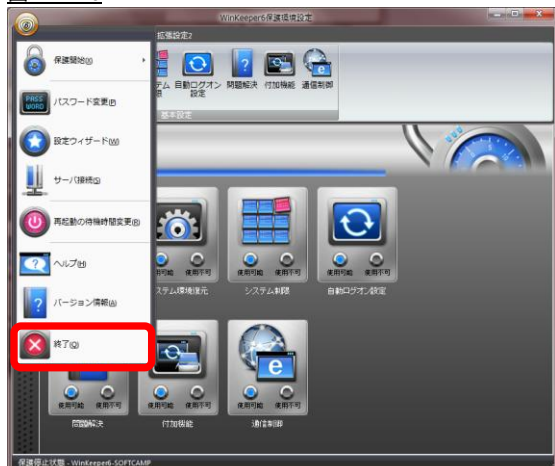
- 3) コンソール画面が起動します。
図 4-1-9



■ 終了

- 1) コンソールの終了は、画面右上の[×]をクリックまたは、メニューバーの[メニュー] → [終了]を選択します。

図 4-1-10



- 2) 保護設定内容の保存を確認する画面が表示されます。

[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかをクリックします。

図 4-1-11

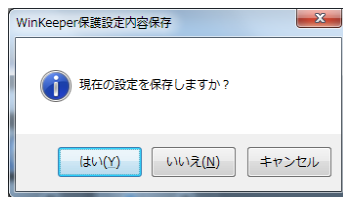


表 4-1-4

項 目	説 明
はい	設定を保存してコンソールを終了します。
いいえ	設定を保存しないでコンソールを終了します。
キャンセル	コンソール画面に戻ります。

- 3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面で[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]が選択されている場合のみ、デフォルトスケジュール設定を確認する画面が表示されます。

[はい]、[いいえ]のいずれかをクリックします。

図 4-1-12

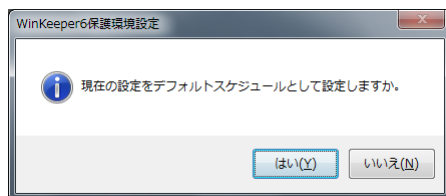


表 4-1-5

項 目	説 明
はい	現在の設定をデフォルトスケジュールとして保存してコンソールを終了します。
いいえ	設定を保存しないでコンソールを終了します。

コンソール画面説明

図 4-1-13



図 4-1-14



■ ① メニューバー

保護設定のデータ保存機能に加え、各種設定機能の変更ボタンが集約されています。

表 4-1-6

項 目	説 明	
保護開始	環境設定読込	保存した設定環境情報ファイルの読み込みを行います。 ("P.90 環境読込" 参照)
	環境設定保存	現在の設定環境情報をファイルに保存します。("P. 89 環境保存" 参照)
	保護開始	保護状態選択ダイアログの起動 ("P.88 4-3.保護状態の選択 " 参照)
パスワード変更	WinKeeper Client コンソールのパスワード変更を行います。 ("P.27 パスワードの設定 " 参照)	
設定ウィザード	WinKeeper 設定ウィザード画面が起動され、ウィザード形式で保護環境の設定を行うことができます。("P.27 設定ウィザード " 参照)	

サーバ接続	WinKeeper Server と接続するための設定を行うことができます。("P.48 サーバ接続 " 参照)
再起動の待機時間変更	再起動ダイアログの秒数を変更することができます。(1~9999 秒)
ヘルプ	ヘルプファイル(本マニュアル PDF)が表示されます。
バージョン情報	バージョン情報が表示されます。[確認]をクリックして画面を閉じます。
終了	WinKeeper Client コンソールを終了します。("P.49 終了 " 参照)

■ ② 機能一覧タグ

機能を種類別に分けて表示します。

表 4-1-7

項 目	説 明
基本設定	フォルダ保護、システム環境復元、システム制限、自動ログオン設定、問題解決、付加機能、通信制御
拡張設定 1	Windows チューニング、ディスククリーナー、タイマー、プログラム実行管理、インストール制限
拡張機能 2	保護設定スケジュール、電源節約機能、危険プログラム管理

■ ③ WinKeeper メニュー

ファンクションビューを切り替えるための各機能の呼出しボタンが配置されています。

各機能を選択すると、ファンクションビューが切り替わります。

表 4-1-8

機 能	説 明	
基本設定	保護を開始した時点のコンピュータ環境を維持する機能の設定を行うことができ、ユーザが書き換えたファイルやレジストリの変更部分を、再起動後には保護開始時点の状態に復元することができます。	
	フォルダ保護	保護指定したフォルダ内のファイルの復元設定を行うことができます。 ※フォルダ復元機能とレジストリ復元機能は必ず同時に使用してください。 いずれか片方のみを使用するとシステムに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。 ("P.55 フォルダ保護の設定と解除" 参照)
	システム環境復元	レジストリデータの復元設定を行うことができます。 ("P.60 システム環境復元の設定" 参照)
	システム制限	設定変更に関わるダイアログの起動制限設定を行うことができます。 ("P.62 システム制限の設定" 参照)
	自動ログオン設定	自動ログオンの各種設定を行うことができます。("P.63 自動ログオンの設定" 参照)
	問題解決	競合するモジュールに対する除外処理を行うことができます。 ("P.65 問題解決の設定" 参照)
	付加機能	ロック画面の画像選択、WinKeeper アイコンの非表示設定、ライセンスキーの変更設定を行うことができます。("P.69 付加機能の設定" 参照)
	通信制御	特定のネットワーク通信の遮断設定を行うことができます。 ("P.71 通信制御の設定" 参照)
拡張設定 1	OS チューニングや、ユーザの利用を制限する設定を行うことができます。	
	Windows チューニング	デスクトップアイコンを隠し、スタートメニューアイコンを非表示にさせてアクセス制限の設定を行うことができます。("P.74 Windows チューニングの設定" 参照)
	ディスククリーナー	ごみ箱やインターネット一時ファイルの削除設定を行うことができます。 ("P.76 ディスククリーナーの設定" 参照)
	タイマー	タイマー設定で指定した時間に処理を実施する設定を行うことができます。 ("P.77 タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除" 参照)
	プログラム実行管理	保護中の指定プログラム起動の制限設定を行うことができます。 ("P.80 プログラム実行管理の追加と削除" 参照)
	インストール制限	特定インストーラによるインストールを制限する設定を行うことができます。 ("P.84 インストール制限の設定" 参照)
拡張設定 2	OS 管理設定を行うことができます。	
	保護設定スケジュール	保護設定の内容を指定した時間により変更することができます。 ("P.85 保護設定スケジュールの設定" 参照)

	電源節約機能	電源節約モードを設定して、使わないコンピュータのエネルギーを節約できます。 ("P.87 電源節約機能の設定" 参照)
	危険プログラム管理	実行プログラムを制限する設定を INI ファイルで行うことができます。 ("P.87 危険プログラム管理の設定" 参照)

■ ④ ファンクションビュー

ファンクションビューには WinKeeper メニューで選択した機能の詳細設定用の画面が表示されます。

各機能の設定は、このファンクションビューから行います。

4-2.WinKeeper Clientの機能設定

使用する機能の選択

WinKeeper メニューから機能の使用 / 不使用を選択します。

- 状態を設定し、次項からの各機能の設定を行ってください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから、[基本設定]、[拡張設定 1]、[拡張設定 2]のいずれかを選択します。ここでは[基本設定]を選択します。

図 4-2-1 メニューから「基本設定」を選択



- 2) [機能一覧]をクリックすると、ファンクションビューが、「1)」で選択したメニュー項目の機能一覧に切り替わります。

図 4-2-2



- 3) 機能を使用する場合は[使用可能]を、使用しない場合は[使用不可]を選択します。

図 4-2-3



- [使用不可]を選択した場合、使用不可にした機能のファンクションビューはグレイアウトします。

図 4-2-4 フォルダ保護を使用不可にした場合



- 4) [機能一覧]は、各カテゴリによってボタンのイメージが異なります。

図 4-2-5



フォルダ保護の設定と解除

■ 設定前の注意事項

I. 保護対象フォルダの判断

フォルダ保護機能は、運用目的を確認して適切に利用する必要があります。

PC 環境と運用方針を確認し、ウイルス対策製品のようにファイルを定期的にアップデートするソフトウェアや変換データを記憶させる文字変換ソフト等がある場合、[初期状態を維持する]か[アップデート結果を復元しない]か、ユーザ環境によって運用方針が異なりますので、保護をすべきか除外フォルダにすべきかを事前に確認しておく必要があります。

II. デフォルトで保護されているフォルダ

Windows のシステムフォルダは、デフォルトで保護が掛かっており保護を解除することはできません。WinKeeper のサービスが開始されると保護が発生します。変更を加える場合は保護を停止してください。

III. アカウントフォルダの保護

ユーザアカウントのデータが保存される[Documents and Settings]フォルダは、保護開始時点に存在したアカウントフォルダ以外は自動的に削除されます。保護をする / しない設定はできますが、その設定は保護開始時点に存在したアカウントフォルダに対してのみ適用されますのでご注意ください。

IV. 常駐型アプリケーションと負荷について

WinKeeper Client は、Windows に常駐してローカルの動きを監視するリアルタイム常駐型アプリケーションです。同じリアルタイム型の監視アプリケーションがインストールされている環境では、動作の相互干渉が発生し、PC に負荷がかかることがあります。

リアルタイム保護をするウイルス対策製品やログを定期的にレポートするログ監視製品など、WinKeeper Client によるフォルダ保護の動作と相互干渉する恐れがあるソフトウェアがありますので、PC への動作負荷が大きいと感じた場合は、ウイルス対策製品のプログラムフォルダをフォルダ保護の対象から除外またはPCのフォルダをウイルス対策製品のリアルタイムスキャン対象から外すなどの負荷回避方法を行ってください。

■ フォルダ保護の設定

- ここでは、例として"Cドライブ全体を保護する" 設定を行います。

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-6



- 2) フォルダ保護のファンクションビューには、ローカルのエクスプローラが表示されます。
エクスプローラ上から対象フォルダを選択し、以下のいずれかの方法で保護設定を行います。

I. ファンクションビュー上部にある[保護設定]をクリックして保護設定を行う方法

ドライブのルートである[C]のフォルダアイコンを選択し、[保護設定]をクリックします。

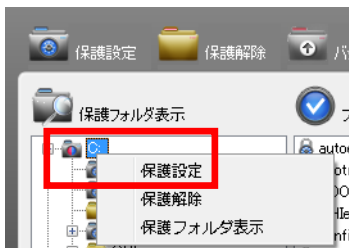
図 4-2-7



II. 右クリックメニューから保護設定を行う方法

ドライブのルートである[C]のフォルダアイコンを選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定]を選択します。

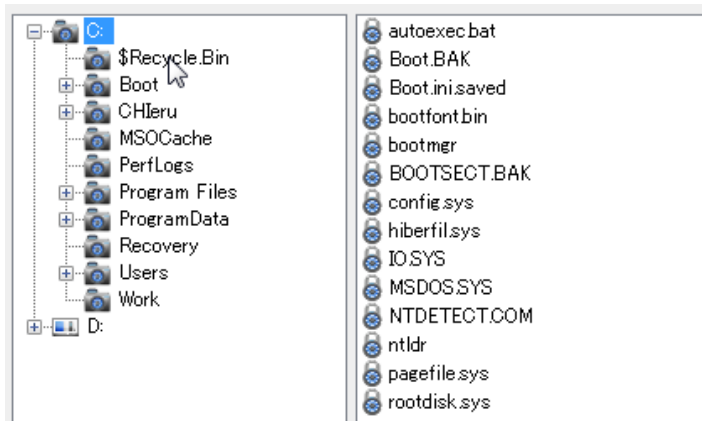
図 4-2-8



- 3) 保護設定を行ったフォルダ及びサブフォルダには鍵のアイコンが表示されます。

Cドライブ内の全てのフォルダ / サブフォルダが保護され、ファイル / フォルダに対する変更は再起動後に復元されることになります。

図 4-2-9



- ドライブのルートや上位フォルダに対して設定した場合、そのサブフォルダは全て同一の設定状態に継承されます。

■ フォルダ保護の設定解除

- ここでは、例として以下の設定解除を行います。

あるフォルダ内のデータを残しておきたいので、その特定フォルダのみ保護設定を解除する。

[データの保存場所] C:\Users\CHIeru\Documents

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-10

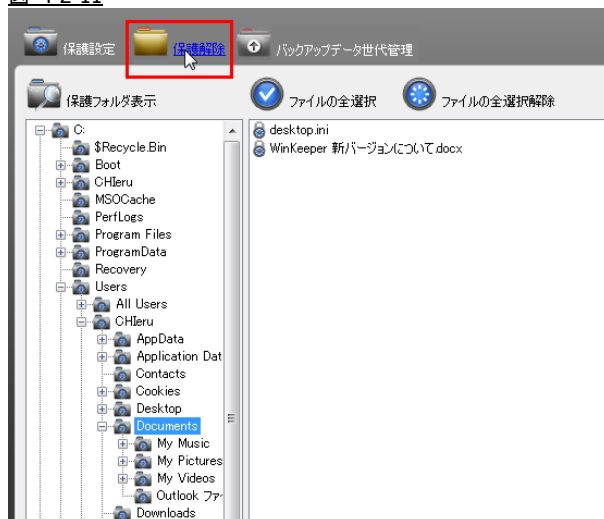


- 2) フォルダ保護のファンクションビューにはローカルのエクスプローラが表示されます。
エクスプローラ上から対象のフォルダを選択して、保護解除を行います。

I. ファンクションビュー上部にある[保護解除]をクリックして保護解除を行う。

[Documents]フォルダを選択し、[保護解除]をクリックします。

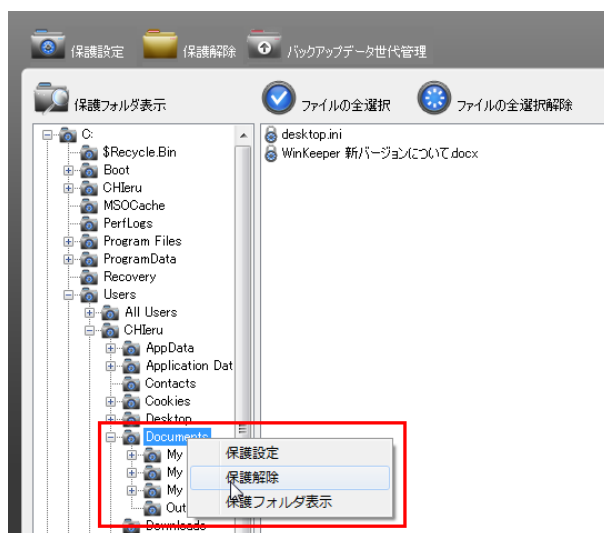
図 4-2-11



II. 右クリックメニューから保護解除を行う。

[Documents]フォルダを選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護解除]を選択します。

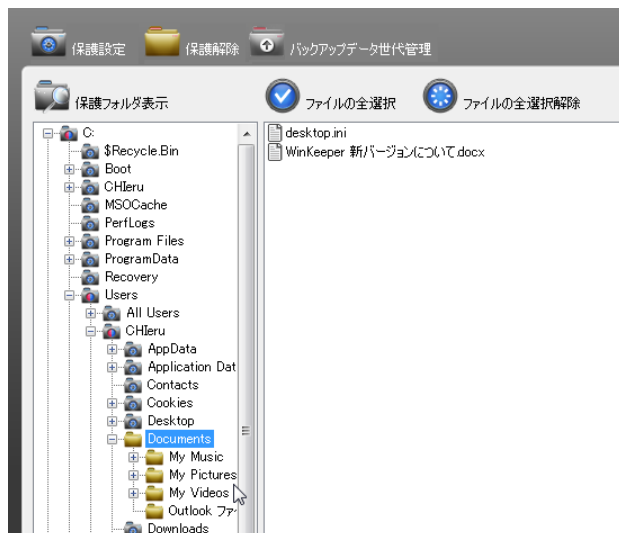
図 4-2-12



3) 保護を解除されたフォルダ及びサブフォルダから鍵のマークが消えます。

保護対象となっている C ドライブの中から[Documents]フォルダだけが保護解除され、再起動してもフォルダ内のデータを残すことができます。

図 4-2-13



■ バックアップデータ世代管理

保護実行中に変更があった場合、OS 起動時に差分ファイルのバックアップを行う機能です。

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-14



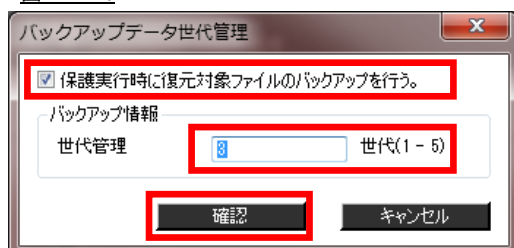
- 2) ファンクションビュー上部にある[バックアップデータ世代管理]をクリックします。

図 4-2-15



- 3) 機能を利用する場合は、[保護実行時に復元対象ファイルのバックアップを行う。] にチェックを入れます。バックアップデータを保存する世代数（1 から 5 まで）を指定し、[確認]をクリックします。

図 4-2-16



■ 保護フォルダ表示

[保護フォルダ表示]をクリックすると、フォルダツリー上でドライブ直下のフォルダが全て展開されます。

- 1) WinKeeper メニューから[フォルダ保護]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-17



- 2) [保護フォルダ表示]をクリックします。

図 4-2-18



システム環境復元の設定

■ 設定前の注意事項

システム環境復元機能は、再起動毎に全てのレジストリデータを復元する機能です。

フォルダ保護機能と併用することで、アプリケーションのインストールによって発生する[ファイルの書き込み]と[レジストリの変更]を保護し、再起動後にインストールされたアプリケーションを全て削除した状態に戻すことができます。

なお、フォルダ保護機能とシステム環境復元機能のどちらかだけを使用する場合、システムが不安定になる恐れがありますので両方の機能を併用してお使いください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[システム環境復元]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-19



- 2) レジストリ復元の[使用する]を選択すると、再起動時に保護開始時点のレジストリ情報に復元されます。

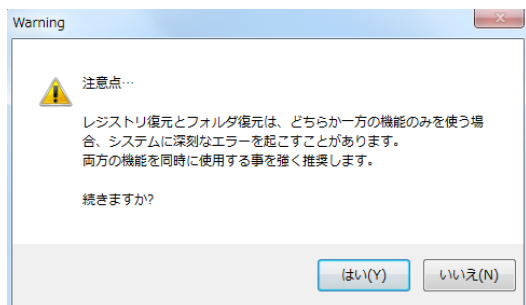
図 4-2-20



- 3) [使用しない]を選択した場合、警告ダイアログが表示されます。

[はい]をクリックすると変更できます。

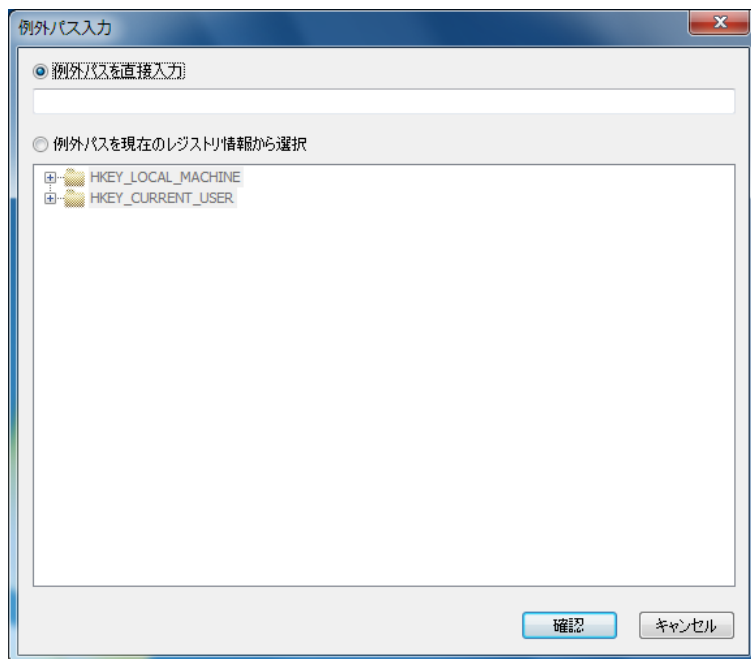
図 4-2-21



● メッセージの内容にある通り、フォルダ復元機能とレジストリ復元機能は必ず同時に使用してください。いずれか片方のみを使用すると、システムに深刻な障害を引き起こす恐れがあります。

- 4) 例外処理対象を追加する場合、[追加]を選択すると、[例外パス入力]画面が表示されます。

図 4-2-22



- 5) [例外パスを直接入力]か[例外パスを現在のレジストリ情報から選択]で例外対象を追加し、[確認]をクリックします。
例外パス一覧に追加されます。

■ 登録されている例外パスを編集する場合

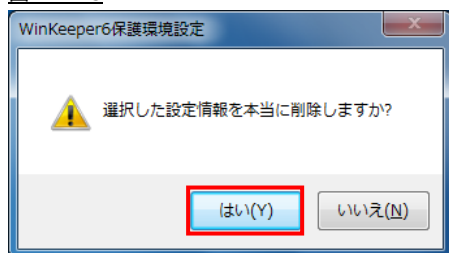
- 1) 編集を行う例外パスを選択し、画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [例外パス入力]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 登録されている例外パスを削除する場合

- 1) 削除を行う例外パスを選択し、画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存の例外パスを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-23



システム制限の設定

■ 設定前の注意事項

システム制限機能の設定は、利用者に触れさせたくない設定関連項目(レジストリやコントロールパネルなど)を起動できないように制限する機能です。制限を実施すると、該当モジュールの起動時に WinKeeper によって警告画面が表示されます。

システム制限の設定変更は再起動を必要としませんので管理者の方が確認作業をされる場合などには、コンソールからシステム制限の設定を変更して保護を再開すると制限が解除された状態で作業が行えるようになります。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[システム制限]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-24



表 4-2-1

項 目	説 明	初期設定
レジストリエディタ	レジストリエディタの起動を禁止します。	禁止
コントロールパネル	コントロールパネルの起動を禁止します。	禁止
ネットワーク	ネットワークのプロパティの起動を禁止します。	禁止
システムのプロパティ	システムのプロパティの起動を禁止します。	禁止
画面のプロパティ	画面のプロパティの起動を禁止します。	禁止
インターネットオプション	インターネットオプションの起動を禁止します。	許可
Windows タスクマネージャ	Windows タスクマネージャの起動を禁止します。	許可
Safe モード起動(F8)の禁止	Windows 起動時に、F8 キーでの Safe モード起動を禁止します。 ※Windows XP のみサポートしています。	許可

- 2) リストから機能を選択してラジオボタンから[許可]または[禁止]を選択します。

図 4-2-25 許可状態



図 4-2-26 禁止状態



表 4-2-2

項 目	説 明
許可	ユーザによる機能の使用を許可します。
禁止	ユーザによる機能の使用を制限します。

自動ログオンの設定

クライアント自動ログオンは、クライアントPCのアカウントとパスワードを自動的に入力させて、管理者の便宜を図る機能です。クライアント単独での自動ログオンもできます。自動ログオンをするためには、クライアントPCの使用者アカウントとパスワードを管理者が知っておく必要があります。

■ 自動ログオンの設定

- 1) WinKeeper メニューから[自動ログオン設定]をクリックするとファンクションビューが切替わります。下のパネルに表示される[自動ログオン設定]の、[使用する]をチェックしてください。

図 4-2-27



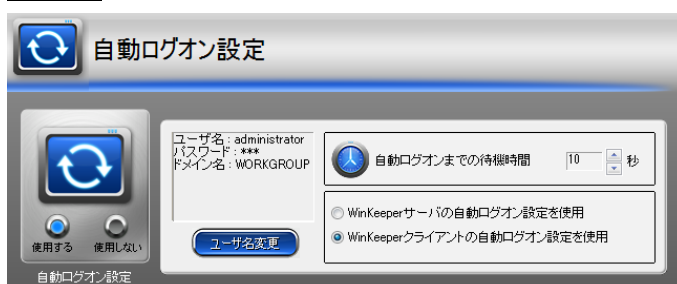
- 2) [自動ログオン設定]でユーザ名、パスワード、およびドメイン名を入力してください。

図 4-2-28



- 3) [確認]をクリックすると、設定状況が表示されます。

図 4-2-29



入力した設定はクライアントPCがログオンする時に適用されます。

■ 自動ログオンまでの待機時間

- 1) 本項目を設定することにより、ログオン画面を表示してから自動ログインを行うまでの待機時間を設定することができます。

図 4-2-30

ユーザ名: administrator
パスワード: ***
ドメイン名: WORKGROUP

自動ログオンまでの待機時間 10 秒

☐ WinKeeperサーバの自動ログオン設定を使用
☒ WinKeeperクライアントの自動ログオン設定を使用

ユーザ名変更

■ 自動ログオン方式の決定

- 1) 自動ログオンは、WinKeeper サーバと WinKeeper クライアントの双方で設定を行うことができます。
その際、採用する自動ログオン方式を決定することができます。

図 4-2-31

ユーザ名: administrator
パスワード: ***
ドメイン名: WORKGROUP

自動ログオンまでの待機時間 10 秒

☐ WinKeeperサーバの自動ログオン設定を使用
☒ WinKeeperクライアントの自動ログオン設定を使用

ユーザ名変更

- 2) 次の設定が可能となります。

WinKeeper サーバの自動ログオン設定を使用：

WinKeeper サーバ側に設定された自動ログオン設定を実行します。

WinKeeper クライアントの自動ログオン設定を使用：

WinKeeper クライアント側に設定された自動ログオン設定を実行します。

問題解決の設定

■ 設定前の注意事項

問題解決機能は、WinKeeper の保護中に動作競合するプログラムなどの処理を記憶させ、そのプログラムから発生する動きと動作競合しないように調整する機能です。フォルダ保護を実施しているフォルダに対し、特定のプログラムからファイルを書き込む動作のみを保護対象外にしたい場合などに有効です。

- レジストリ変更を伴う動きや、システムファイルへのアクセスと変更が発生する場合は、解決できないことがあります。
- 問題解決機能は、保護実行中に実行してください。保護停止中に設定すると、競合部分が解析できないことがあります。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[問題解決]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-32



- 2) [問題解決ウィザード]をクリックして[問題解決ウィザード]画面を起動します。

図 4-2-33



図 4-2-34



- 問題解決の実行時は、不要なプログラムは全て終了してください。複数の処理を実施すると登録できないことがあります。

- 3) 以下のいずれかの方法で、競合するプログラムを登録します。

I. 「プログラム問題解決」をクリックし、「開く」画面から対象プログラムを選択する方法

図 4-2-35

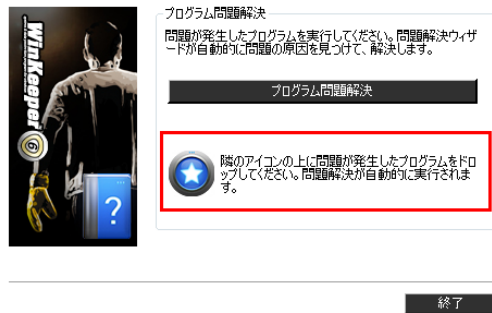


図 4-2-36



II. 「問題解決ウィザード」画面上に、競合プログラムのアイコンをドラッグアンドドロップする方法

図 4-2-37

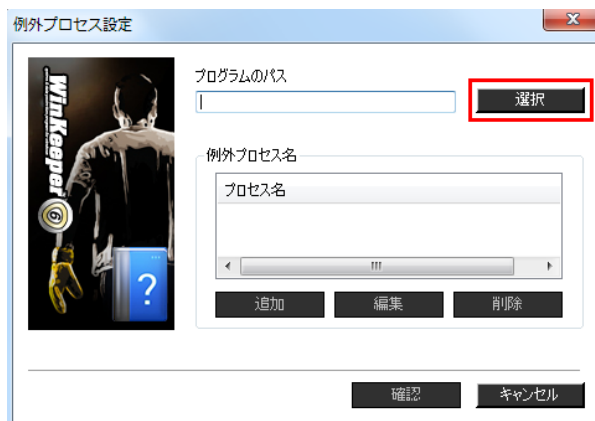


III. 「直接追加」をクリックしてプロセスを直接追加する方法

図 4-2-38



図 4-2-39



- 4) 選択ボタンを押して、問題解決に登録したいプログラムをダイアログから指定します。
- 5) プログラムパスには、登録したいプログラム以外にも追加したい子プロセス名を指定して追加ボタンを押すことでプロセスを追加することができます。

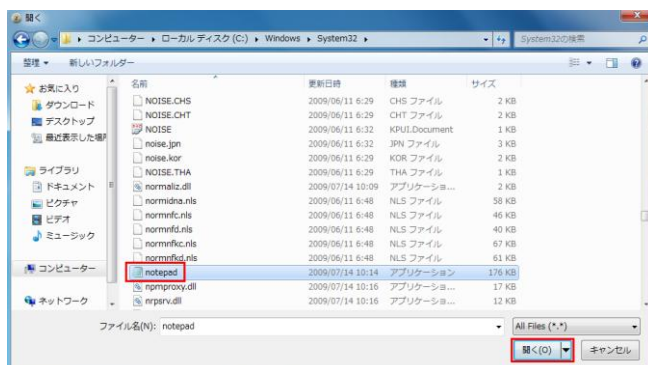
- 通常は I もしくは II の方法で登録を行ってください。
- I II とともに正常に登録が行えない場合に、III の方法で登録を行ってください。

■ 問題解決機能の使用例

フォルダ保護実行中のフォルダに対してメモ帳(notepad.exe)での書き込みを例外処理として登録します。

- 1) 「問題解決ウィザード」画面から「プログラム問題解決」をクリックすると、「開く」画面が表示されます。メモ帳のプログラム(C:\WINDOWS\Notepad.exe)を選択します。

図 4-2-40



- プログラムの登録については、「P.65 設定手順」参照

- 2) 問題解決ウィザードに[問題解決中です。]と表示され、ノートパッドが自動的に起動します。
文章を作成して保護実行中のフォルダ上にデータを保存してからノートパッドを終了します。

図 4-2-41

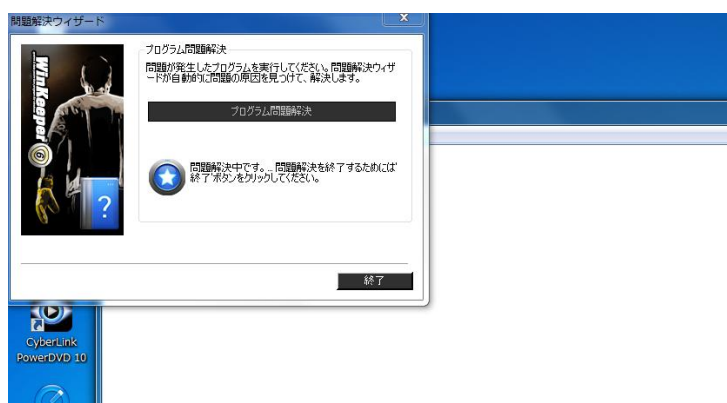
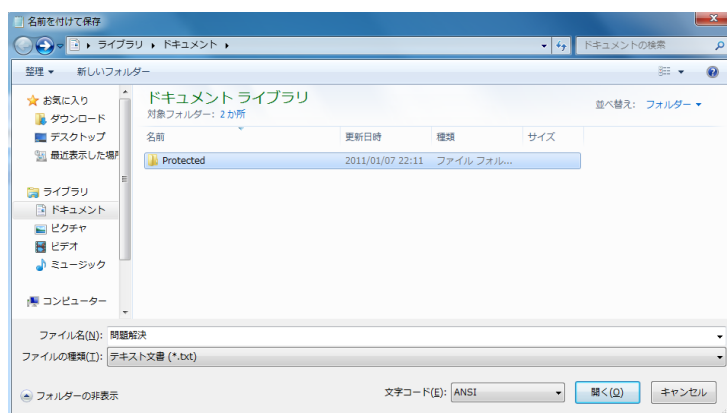


図 4-2-42



- ここでは例として保護対象のフォルダ "Protected"に保存しています。

- 3) 問題解決ウィザードの[終了]をクリックします。

図 4-2-43



- 4) メインコンソールの問題解決リストに[Notepad]が登録されたことを確認します。

図 4-2-44



Protected フォルダは保護した状態であっても、ノートパッド(Notepad.exe)による Protected フォルダへのファイル書き込みや変更の作業だけは保護されなくなります。

- ウィザード画面の終了時に[問題解決された内容がありません]と表示される場合は、保護停止中の作業や他のプログラムが並行起動中のままであるなどの理由により動作が登録できないケースが想定されます。再度環境を確認の上、作業を実施しなおしてください。
- 解決したい作業がレジストリ変更を伴う場合は登録できません。登録がうまくいかない場合、登録プログラムの製造元にお問い合わせください。

付加機能の設定

■ 設定前の注意事項

付加機能は、操作ロック中の表示画面やタスクトレイアイコン表示、ライセンスキー変更といった運用サポート機能です。

■ ロック画面の設定

- 1) WinKeeper メニューから[付加機能]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-45



- 2) 操作ロック実施中の表示画面を変更したい場合は、[ロック画面設定]にて[基本 BMP] / [管理者指定]を選択します。

図 4-2-46



図 4-2-47



I. 基本 BMP を選択した場合

図 4-2-48 ロック画面



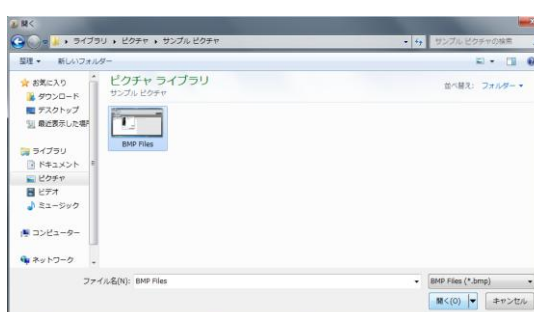
II. 管理者設定を選択した場合

- ① [ファイル選択]をクリックして[開く]画面から表示したいビットマップファイルを選択します。

図 4-2-49



図 4-2-50



- ② 管理者指定 BMP ファイル名に選択したファイル名が表示され、画面ロック時に PC の全画面に指定したビットマップファイルが表示されます。

図 4-2-51



■ WinKeeper アイコンの表示設定

[アイコンの表示]にて、[表示] / [非表示]を選択します。

図 4-2-52



図 4-2-53



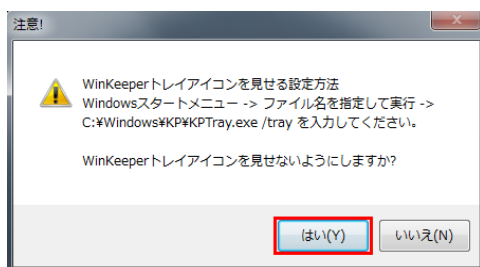
I. [表示]を選択した場合

タスクトレイに WinKeeper アイコンが表示されます。("P.47 WinKeeper アイコンの状態" 参照)

II. [非表示]を選択した場合

アラートが表示されます。[はい]をクリックするとタスクトレイアイコンが表示されなくなります。

図 4-2-54



- WinKeeper アイコンを表示させる場合は、[スタート] → [ファイル名を指定して実行]の名前欄に下記を入力して実行します。C:\Windows\KPK\KPTTray.exe /tray
- システム制限機能や Windows チューニング機能でコントロールパネルにアクセスできない環境の場合、WinKeeper Server 以外からは一切設定が変更できなくなります。設定にはご注意ください。

■ ライセンスキーの変更設定

WinKeeper Client をインストールする PC の追加が発生した場合や、試用版から製品登録を行う場合、[ライセンスキー変更]をクリックすると、[WinKeeper ライセンスキー入力]画面が表示されます。ユーザ名とライセンスキーを入力して、[確認]をクリックします。

図 4-2-55



図 4-2-56



- WinKeeper Client をインストールする PC を増やしたり、別々に購入した WinKeeper Client のライセンスを統合する場合に使用します。

- ライセンスキーの統合・追加発行については別途手続きが必要です。弊社の問い合わせ窓口までお問い合わせください。
- 試用版からの登録は、WinKeeper アイコンメニューから[製品登録]を選択して登録することもできます。("P.25 WinKeeper Client 基本機能のインストール" 参照)

通信制御の設定

■ 設定前の注意事項

通信制御機能は、特定の通信用ポートやプロトコルを遮断することで、PC から発生する通信リクエストの遮断や特定のアプリケーションの起動を制限する機能です。ウェブブラウザとフォルダ共有は制限のバリエーションが増え、例外指定したサイト以外への通信を全て禁止する、例外指定したサイトだけを禁止するといった設定が可能になりました。

プロトコル遮断により、他の通信を行うアプリケーションへの影響もありますので、ネットワーク環境に十分注意してください。

- 通信制御機能を使用するには、通信制御用モジュールを別途インストールする必要があります。インストール方法については、「P.38 通信制御機能のインストール」を参照してください。インストールされていない状態では、ボタンも表示されません。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[通信制御]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-57



表 4-2-3

項 目	説 明	初期設定	詳細設定
ウェブブラウザ	ブラウザでのアクセスを遮断します。	許可	○
オンラインゲーム	特定のオンラインゲームサイトへのアクセスを遮断します。	許可	○
フォルダ共有	139 番などの共有で使用するポートを遮断します。	許可	○
FTP	21 番などの FTP 通信で使用するポートを遮断します。	許可	—
Telnet	23 番の Telnet で使用するポートを遮断します。	許可	—
メッセージャー	特定のメッセージャーソフトで発生する通信を遮断します。	許可	—

- 4) リストから機能を選択してから[許可]または[制限]を選びます。

図 4-2-58 許可状態



図 4-2-59 遮断状態



表 4-2-4

項 目	説 明
許可	ユーザによる通信を許可します。[詳細設定]がある項目では例外サイトが指定できます。
遮断	ユーザによる通信を遮断します。[詳細設定]がある項目では例外サイトが指定できます。

- [詳細設定]がある項目では、[許可]と[遮断]の設定状況に応じて例外サイトを設定できます。

I. 例外サイトを設定する場合

- ① [詳細設定]をクリックし、[例外リスト]を起動します。

図 4-2-60



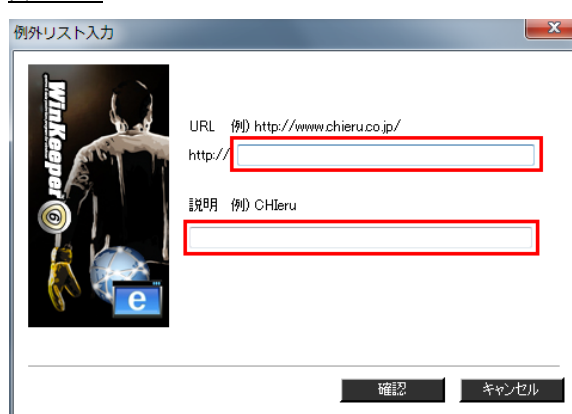
- ② [例外リスト]画面が表示されます。

[追加]をクリックすると、[例外リスト]画面が表示されます。除外対象の URL と説明を入力して、[確認]をクリックすると URL が登録されます。

図 4-2-61



図 4-2-62



- 登録した項目を選択してダブルクリックまたは[編集]をクリックすると、再度[例外リスト入力]画面が表示され、リストを修正できます。記載情報の修正後に[確認]をクリックします。

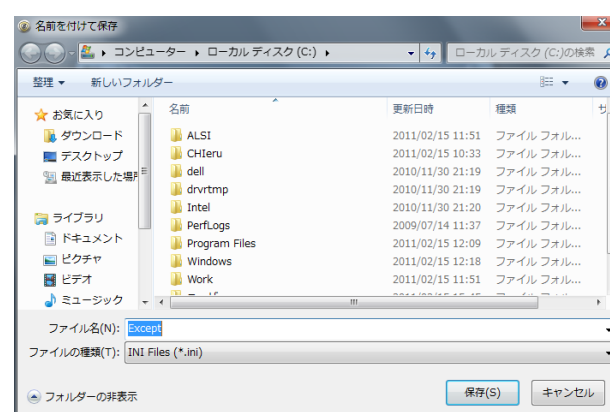
II. 登録した URL をエクスポートする場合

[エクスポート]をクリックすると名前を付けて保存の画面が表示されます。登録したデータを INI ファイルにエクスポートします。

図 4-2-63



図 4-2-64



III. エクスポートした URL 情報をインポートする場合

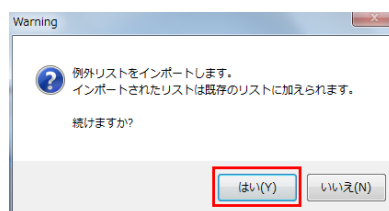
① [インポート]をクリックすると確認画面が表示されます

インポートする登録リストの URL が既存の登録リストに追加されます。よろしければ、[はい]をクリックします。

図 4-2-65



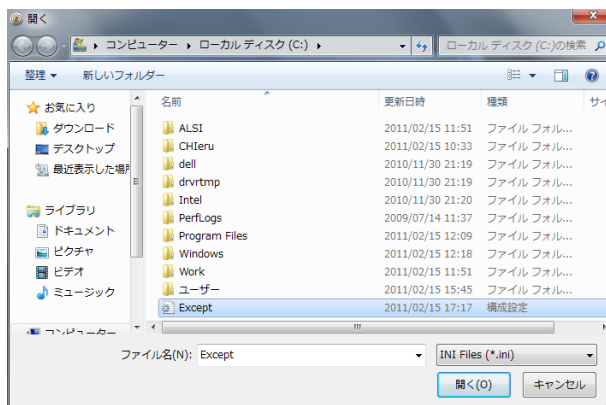
図 4-2-66



② ファイルを開く画面が表示されます。

登録リスト(INI ファイル)を選択してインポートを行います。

図 4-2-67



- 通信制御機能によって制限されるサイト情報は、C:\Windows\KP\kpfwset.ini ファイルの中に記載されています。

Windows チューニングの設定

■ 設定前の注意事項

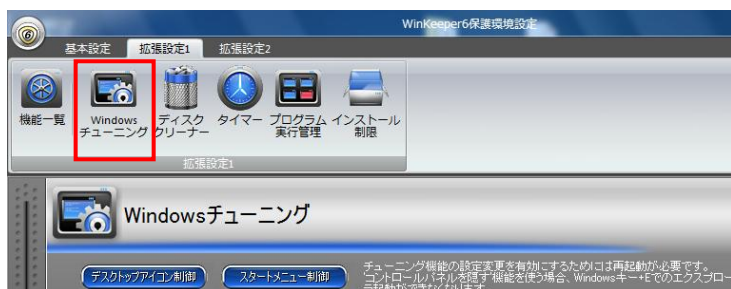
Windows チューニング機能は、デスクトップのアイコンやスタートメニューなどの Windows 表示環境に制限を加える機能です。各種機能にアクセスするためのアイコン群を非表示にすることで、ユーザのアクセスを防ぎます。

- この機能の各項目は設定後に再起動を必要とします。再起動をするまでは設定事項は反映されませんのでご注意ください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[Windows チューニング]をクリックするとファンクションビューが切り替わります。

図 4-2-68



- 2) [デスクトップアイコン制御]タブ / [スタートメニュー制御]タブから選択します。

I. [デスクトップアイコン制御]

画面右のメニューから制限項目を選択してチェックボックスにチェックを入れます。

図 4-2-69

Windows XP / Windows Vista / Windows 7 の場合

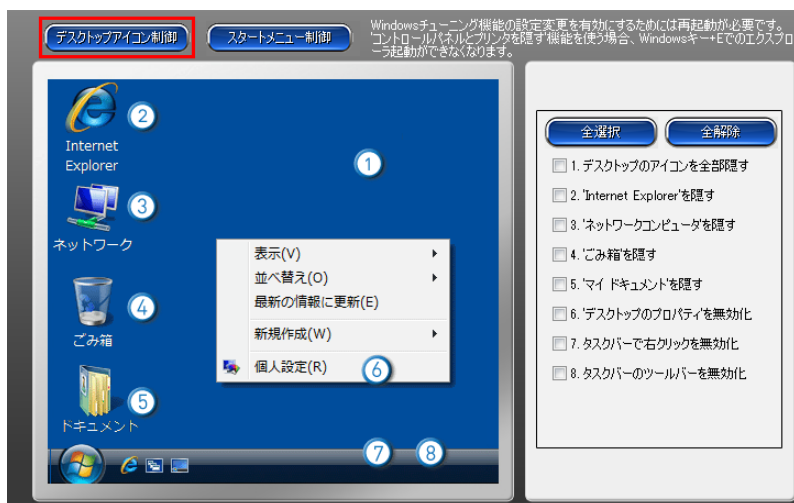


図 4-2-70

Windows 8 の場合



表 4-2-5

項 目	説 明
1. デスクトップのアイコンを全部隠す(※2)	デスクトップ上のアイコンを全て非表示にします。
2. 'Internet Explorer'を隠す(※2)	デスクトップ上の Internet Explorer アイコンを非表示にします。
3. 'ネットワークコンピュータ'を隠す(※2)	デスクトップ上のネットワークコンピュータアイコンを非表示にします。
4. 'ごみ箱'を隠す(※2)	デスクトップ上のごみ箱アイコンを非表示にします。
5. 'マイドキュメント'を隠す(※2)	デスクトップ上のマイドキュメントフォルダを非表示にします。
6. 'デスクトップのプロパティ'を無効化	画面のプロパティを使用できなくなります。
7. タスクバーで右クリックを無効化	タスクバー上で右クリックを実行できなくなります。
8. タスクバーのツールバーを無効化	タスクバー上でツールバーを選択できなくなります。

- ※1: Windows の仕様により、完全にアクセスを遮断したり表示を非表示にしたりすることはできません。一部の機能を用いることでアクセスできる場合があります。
- ※2: Windows XP / Vista / 7 のみにあります。

II.[スタートメニュー制御]

画面右のメニューから制限項目を選択してチェックボックスにチェックを入れます。

図 4-2-71

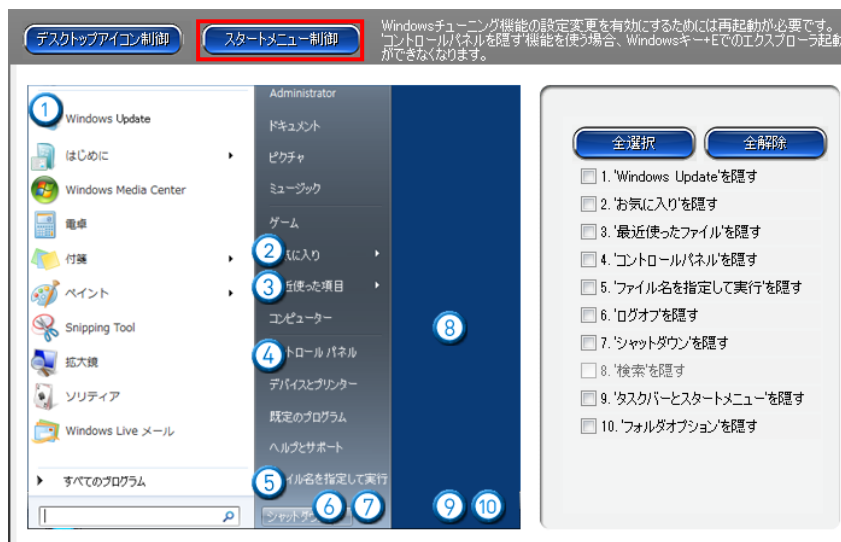


表 4-2-6

項 目	説 明
1. 'Windows Update'を隠す	スタートメニュー上の Windows Update を非表示にします。
2. 'お気に入り'を隠す	スタートメニュー上のお気に入りを非表示にします。
3. '最近使ったファイル'を隠す	スタートメニュー上の最近使ったファイルを非表示にします。
4. 'コントロールパネル'を隠す	スタートメニュー上のコントロールパネルを非表示にします。
5. 'ファイル名を指定して実行'を隠す	スタートメニュー上のファイル名を指定して実行を非表示にします。
6. 'ログオフ'を隠す	スタートメニュー上のログオフを非表示にします。
7. 'シャットダウン'を隠す	スタートメニュー上のシャットダウンを非表示にします。
8. '検索'を隠す	スタートメニュー上の検索を非表示にします。 ※Windows XP のみサポートしています。
9. 'タスクバーとスタートメニュー'を隠す	スタートメニュー上のタスクバーとスタートメニューを非表示にします。
10. 'フォルダオプション'を隠す	スタートメニュー上のフォルダオプションを非表示にします。

- 3) 設定変更後、Windows チューニング機能の設定項目を反映させるには保護開始後に再起動を行います。

ディスククリーナーの設定

■ 設定前の注意事項

ディスククリーナー機能は、再起動毎に[ごみ箱]と[インターネット一時ファイル]のフォルダの中身を削除する機能です。

この機能をアクティブにしていると、再起動時に[ごみ箱]の中に置かれたファイル / フォルダとインターネット一時ファイル内にキャッシュされたファイルを自動的に削除します。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[ディスククリーナー]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-72



- 2) 再起動時に各ファイルを削除する場合は[削除する]を選択します。

図 4-2-73



タイマーのスケジュール設定 / 編集 / 削除

■ 設定前の注意事項

タイマー機能は、指定時刻もしくは起動後の指定時間経過時に電源管理や保護設定、メンテナンス関連のアクションを実行する機能です。電源切断や再起動、そして保護の実行や停止に加え、指定コマンドの実行やデフラグ、操作ロックなどの機能を選択できますので管理者が不在の環境でも自動的にメンテナンス処理を行うことができます。

■ スケジュールの設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[タイマー]をクリックすると、ファンクションビューが切替わります。

[追加]をクリックします。

図 4-2-74



- 2) [スケジュール編集]画面が表示されます。

各項目を設定して、[確認]をクリックします。

図 4-2-75

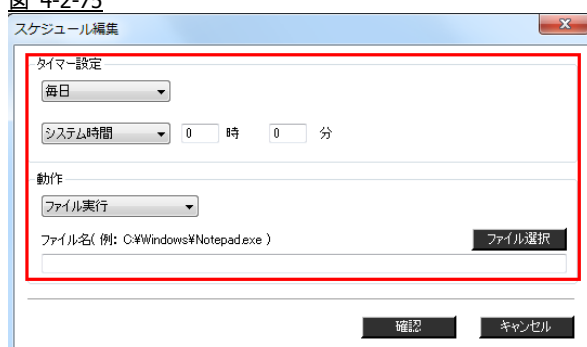


表 4-2-7

項 目		説 明
タイマー設定	日時	毎日 : 毎日タスクを実行します。
		指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。
		指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。
		毎月の指定された日 : 指定された日に毎月タスクを実行します。
		使わない : このタスクは実行しません。
	時間	システム時間 : 指定した時刻にタスクを実行します。 システム起動の後 : システム起動から経過した指定時間後に実行します。

動作	ファイル実行	: 実行するファイルのパスを入力し、ファイルを実行します。
	コンピュータ再起動	: PC を再起動します。(電源管理)
	コンピュータ終了	: PC をシャットダウンします。(電源管理)
	WinKeeper 保護実行	: WinKeeper の保護を開始します。(WinKeeper 保護設定)
	WinKeeper 保護停止	: WinKeeper の保護を停止します。(WinKeeper 保護設定)
	WinKeeper 終了	: WinKeeper の保護を終了します。(WinKeeper 保護設定)
	管理者メッセージ	: 入力したメッセージを表示します。(入力文字数: 全角 105 半角 210 文字以内)
	画面ロック	: WinKeeper Client をロックします。(動作制限)
	画面ロック解除	: WinKeeper Client のロックを解除します。(動作制限)
	ディスクデフラグ	: パラメータに入力されたハードディスクをデフラグします。(メンテナンス)
	コマンドプロンプト実行	: 指定したコマンドを実行します。
	フォルダ内部削除	: フォルダの内部を削除して、フォルダの内容を初期化します。

設定したスケジュールがファンクションビューに表示されます。

図 4-2-76

日付	時間	動作
毎週月曜日	システム時間 11時55分	管理者メッセージ(120秒からメンテナンスを開始します。作業を終了してください。)
毎週月曜日	システム時間 12時 0分	画面ロック
毎週月曜日	システム時間 12時 5分	ファイル実行(C:\AntivirusSoftware\Update.exe)
毎週月曜日	システム時間 12時15分	ディスクデフラグ(defrag.exe c:\ /f)
毎週月曜日	システム時間 12時55分	画面ロック解除
毎週月曜日	システム時間 12時58分	コンピュータ終了

■ 作成したスケジュールタスクをコピーする場合

- 1) 作成済みのタスクを選択して右クリックし、表示されるメニューから[追加]を選択します。

図 4-2-77

日付	時間	動作
毎週月曜日	システム時間 20時35分	コンピュータ終了
毎週月曜日	システム時間 20時30分	WinKeeper
毎週月曜日	システム時間 20時10分	ディスクデフラグ
毎週月曜日	システム時間 20時 5分	WinKeeper
毎週月曜日	システム時間 20時 0分	画面ロック
毎週月曜日	システム時間 19時55分	管理者メッセージ(5分後にメンテナンスを行います。作業を終了してください。)

- 2) 再度[スケジュール編集]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

図 4-2-78

■ 作成したスケジュールタスクを編集する場合

- 1) 以下のいずれかの方法で、作成したスケジュールタスクの編集画面を表示します。

I. 編集を行う既存スケジュールを選択し、画面上部の[編集]をクリックする方法

II. 編集を行う既存スケジュールを選択し、右クリックで表示されるメニューから[編集]をクリックする方法

III. 既存のスケジュールをダブルクリックする方法

- 2) 再度[スケジュール編集]画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したスケジュールタスクを削除する場合

- 1) 以下のいずれかの方法で、作成したスケジュールタスクを削除します。

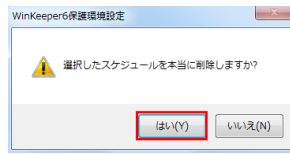
I. 削除を行う既存のスケジュールを選択し、画面上部の[削除]をクリックする方法

II. 削除を行う既存のスケジュールを選択し、右クリックで表示されるメニューから[削除]を選択する方法

2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-79



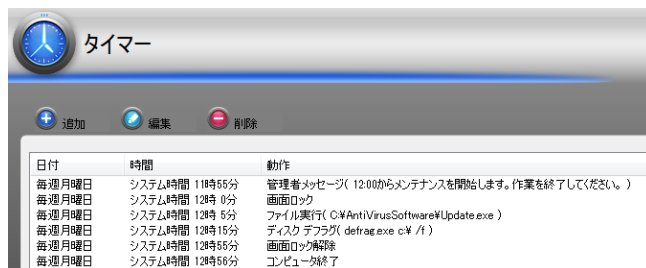
- 同一日時・時刻に複数の動作を設定しないでください。過負荷状態が発生するなど障害が発生することがあります。

■ タイマーの設定例

月曜日の昼休み(12:00~13:00)に開放スペースの PC のメンテナンスを行う場合

それぞれのタスクを作成後、[確認]をクリックして作成したスケジュールタスクを登録します。

図 4-2-80



① 警告メッセージ表示(ユーザへの警告表示)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 11:55]

動作 : [管理者メッセージ / 12:00 からメンテナンスを開始します。作業を終了してください。]

② 画面ロック(ユーザに触れさせないで処理をするため)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12:00]

動作 : [画面ロック]

③ コマンドラインによるワクチンソフトのアップデートを行う

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 05]

動作 : [ファイル実行 / C:\AntiVirusSoftware\Update.exe]

- コマンドラインによるアップデートなどは、各製品のメーカーにお問い合わせください。

④ C ドライブのデフラグ処理(40 分以内に終わることを想定)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 15]

動作 : [ディスクデフラグ / defrag.exe C: /f]

⑤ 画面ロックの解除(デフラグが終了する時間を想定してロック解除)

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 55]

動作 : [画面ロック解除]

⑥ コンピュータの終了

タイマー設定 : [指定された曜日 / 月曜日] [システム時間 / 12 : 56]

動作 : [コンピュータ終了]

プログラム実行管理の追加と削除

■ 設定前の注意事項

プログラム実行管理機能は、起動させたくないプログラムを登録して動作制限をしたり、運用目的に沿って使われるプログラム以外の全てのアプリケーションを禁止したりといった起動制限設定ができるプログラム起動制限機能です。

.exe や.com といった、主にタスクマネージャのアプリケーションタブに表示される項目を起動制限できます。

■ プログラムの追加

- WinKeeper によるプログラムの実行制限は非常に有効な機能である反面、慎重な対応が必要になります。環境情報を把握し、制限をかけることで運用に支障が無いように確認しながら設定してください。

- 1) WinKeeper メニューから[プログラム実行管理]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-81



表 4-2-8

項 目	説 明
すべてのプログラムの実行を許可して、 下のプログラムの実行を禁止	登録したプログラムだけを実行禁止にします。 他のプログラムは影響を受けません。
すべてのプログラムの実行を禁止して、 下のプログラムの実行を許可	スタートメニュー上にあるプログラムを禁止し、登録したプログラムだけを実 行可能にします。 他の.EXE /. COM の主要プログラムは WinKeeper で制限されます。

- Windows のシステムに関連するアプリケーションやプログラム、特定の理由で制限対象から外されているアプリケーションが存在するため全てのプログラムを制限対象にすることはできません。

- 2) ファンクションビューから制限モードを選択して、[プログラム追加]をクリックします。

図 4-2-82



- 3) 画面上部の[プログラム追加]をクリックすると[プログラム追加]画面が表示されます。

プログラム追加ダイアログにはプログラムリストとフォルダリストの2つの設定画面があり、タブで切り替えられます。

プログラムリスト : Windows スタートメニューと同じリスト形式で表示されます。

フォルダリスト : Windows エクスプローラと同じリスト形式で表示されます。

図 4-2-83 プログラムリスト



図 4-2-84 フォルダリスト



- 4) プログラムを追加します。

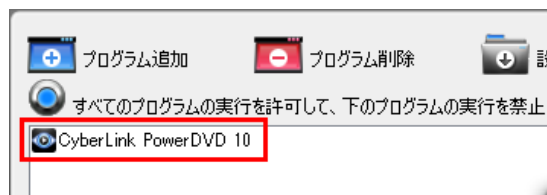
I. プログラムリストから追加する場合

フォルダツリーを開きプログラム選択後、[追加]またはプログラムのアイコンをダブルクリックするとファンクションビューに登録されます。

図 4-2-85

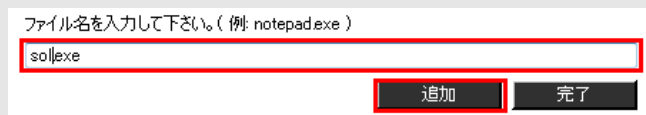


図 4-2-86



- [ファイル名入力]欄に直接制限したいファイル名を入力し、[追加]をクリックすることで登録できます。

図 4-2-87



II. フォルダリストから追加する場合

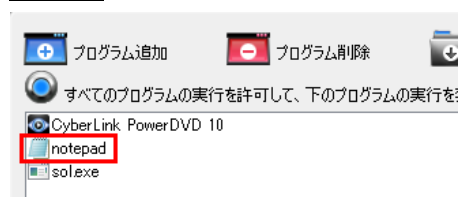
フォルダツリーを開きフォルダ選択後、下部ウィンドウに表示されるプログラム名を選択します。

[追加]またはプログラムのアイコンをダブルクリックするとファンクションビューに登録されます。

図 4-2-88



図 4-2-89



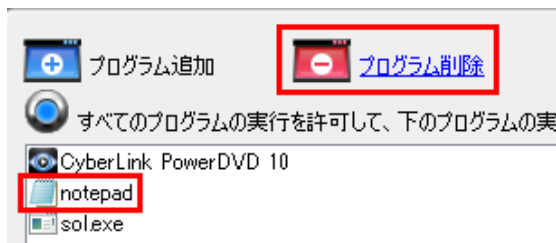
5) 登録後、[完了]またはプログラム追加画面右上の[×]をクリックしてプログラム追加画面を閉じます。

■ プログラムの削除

1) 登録したプログラムを削除する場合は、削除するプログラムアイコンを選択して以下のいずれかの方法で削除します。

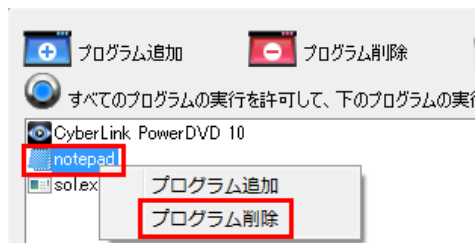
I. 画面上部の[プログラム削除]アイコンをクリックする方法

図 4-2-90



II. 右クリックで表示されるメニューから[削除]を選択する方法

図 4-2-91



2) プログラムが削除されます。

■ 設定読み込み

他の WinKeeper Client のプログラム登録情報の設定ファイルをコピーしたい場合は、[設定読み込み]をクリックして PST ファイルを選択します。

図 4-2-92



■ 設定保存

プログラム登録情報を保存したい場合は[設定保存]をクリックし、設定情報ファイル(PST ファイル)として保存することができます。

図 4-2-93



■ スケジュールの追加と編集

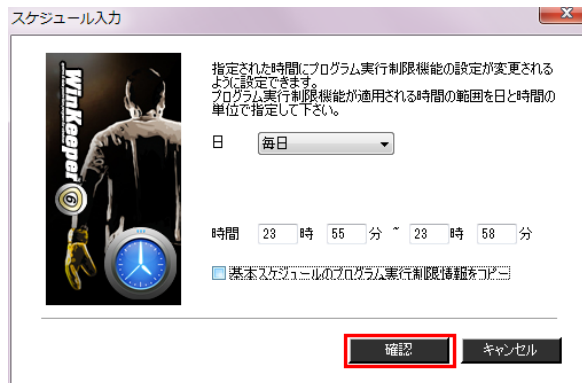
スケジュールを登録して、プログラム起動制限機能を実行することができます。

- 1) [追加]をクリックすると、スケジュール入力画面が表示されます。

図 4-2-94



図 4-2-95



- 2) プログラム起動制限を行いたいスケジュールを設定し、[確認]をクリックします。
- 3) 登録したスケジュールの編集を行う場合は[編集]を、削除したい場合は[削除]をクリックしてください。

インストール制限の設定

■ 設定前の注意事項

インストール制限機能は、特定のインストーラによるインストール行為を遮断、また ActiveX を制限します。
 [アプリケーションインストール]で制限されるインストーラは、Microsoft Installer、Install Shield、IExpress の 3 種類です。
 また、[ActiveX 制限]は ActiveX のインストールを制限するもので、すでに ActiveX がインストールされた環境では使用できません。ActiveX を利用したプログラムがある場合は保護停止中に ActiveX をアンインストールしてからご利用ください。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[インストール制限]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-96



表 4-2-9

項 目	説 明	詳細設定
アプリケーションインストール	特定のインストーラモジュールによるインストールを禁止します。	許可
ActiveX 制限	ActiveX のインストールを禁止します。	許可

- 2) インストール制限や ActiveX の制限を行わない場合は[許可]を選択し、制限を行う場合は[禁止]を選択します。

図 4-2-97



図 4-2-98



表 4-2-10

項 目	説 明
許可	ユーザによるインストールや ActiveX の使用を許可します。
禁止	ユーザによるインストールや ActiveX の使用を禁止します。

保護設定スケジュールの設定

■ 設定前の注意事項

保護設定スケジュールは、保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護の内容が自動で適用されます。

■ 設定手順

- 1) WinKeeper メニューから[保護設定スケジュール]をクリックします。

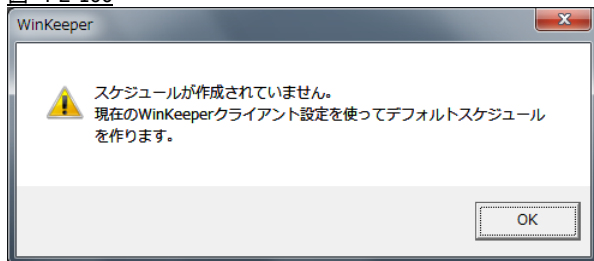
図 4-2-99



- 2) スケジュールが1つもない場合にデフォルトスケジュールを作成するか確認メッセージが表示されます。

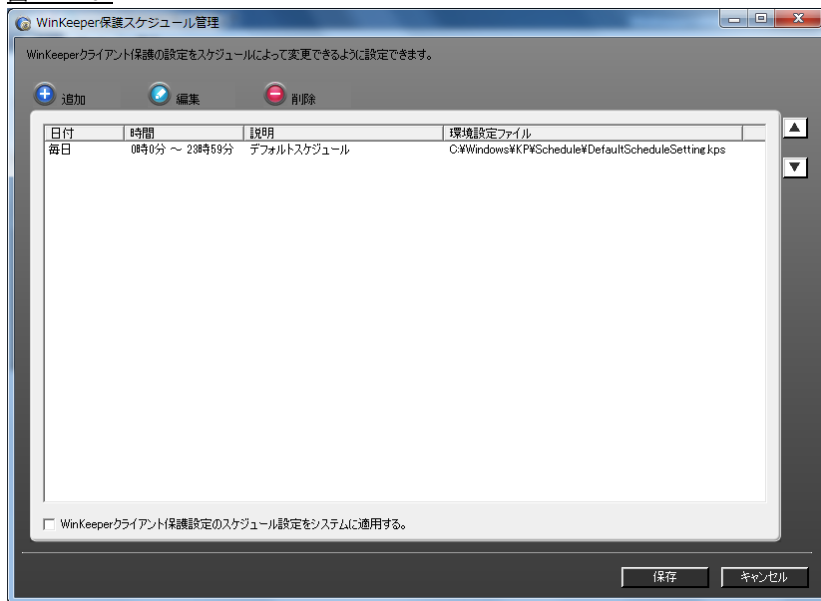
[OK]をクリックします。

図 4-2-100



- 3) [保護スケジュール管理]画面が表示されます。[追加]をクリックします。

図 4-2-101



- 4) [スケジュール入力]画面が表示されます。各項目を設定して、[確認]をクリックします。

図 4-2-102

表 4-2-11

項 目		説 明
日	日時	<p>毎日 : 毎日タスクを実行します。</p> <p>指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。</p> <p>指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。</p> <p>毎月の指定された日 : 指定された日に毎月タスクを実行します。</p> <p>使わない : このタスクは実行しません。</p>
	時間	<p>システム時間 : 指定した時刻にタスクを実行します。</p> <p>システム起動の後 : システム起動から経過した指定時間後に実行します。</p>
説明	スケジュールに対する説明を入力します。	
設定ファイル	適用される環境設定の設定ファイルを指定します。	

- 5) スケジュールを適用する場合は、[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]をチェックし、画面右下の[保存]をクリックします。

図 4-2-103

■ 作成したスケジュールを編集する場合

- 1) 編集を行う既存スケジュールを選択し、画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [スケジュール入力] 画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したスケジュールを削除する場合

- 1) 削除を行う既存のスケジュールを選択し、画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 4-2-104

- 同一日時・時刻に複数のスケジュールが登録されている場合、先に登録されているスケジュールで動作します。

電源節約機能の設定

使用していないクライアント PC の電源をセーブします。設定により、モードを選ぶことができます。

- この機能の各項目は設定後に再起動を必要とします。再起動をするまでは設定事項は反映されませんのでご注意ください。

- 1) WinKeeper メニューから[電源節約機能]をクリックするとファンクションビューが切替わります。

図 4-2-105



- 初期設定の状態では[Windows の電源管理設定を使用]になっています。

- 2) [指定された電源節約設定の中の一つを使用]をチェック、リストから選択し、設定します。

表 4-2-12

	モニターオフ	ハードディスクオフ	システム待機モード	節電モード
家庭用/事務室用	5 時間後	使用しない	使用しない	使用しない
携帯用/ラップトップ	15 分後	30 分後	20 分後	3 時間後
プレゼンテーション	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない
常にオン	20 分後	使用しない	使用しない	使用しない
最小電源管理	15 分後	使用しない	使用しない	使用しない
最大バッテリー	15 分後	使用しない	20 分後	45 分後

- 3) [管理者が直接電源節約設定を指定]をチェック、[使用者がコンピュータを一定時間使わなかった時に電源節約使用]、または[指定された時間に電源節約使用]を選択し、設定を行います。

- モニターオフ：モニターの電源が OFF になります。
- ハードディスクオフ：PC がスリープ状態になります(ハードディスクへの給電停止)。
- システム待機モード：PC がスリープ状態になります(メインボード/メモリを除き、給電停止)。
- 節電モード：スタンバイ状態になります。(※1)

- (※1) 節電モードは、メインボード及び周辺機器(サウンドカードやネットワークカードなど)が ACPI に対応している必要があります。

危険プログラム管理の設定

危険プログラムは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述して設定します。このリストをクライアントに送信することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。このファイルで指定された危険プログラムが[危険プログラム管理]をクリックすると表示されます。

4-3.保護状態の選択

保護実行 / 保護停止 / 保護終了 / 保護再実行

WinKeeper Client の機能設定完了後、保護状態を変更して保護を開始します。

■ WinKeeper Client コンソール画面から保護状態の変更

- 1) WinKeeper6 ボタンから、[保護開始]をクリックします。

図 4-3-1



- 2) 保護状態選択画面が表示されます。

保護状態を選択して、[確認]をクリックします。

図 4-3-2



表 4-3-1

保護状態	動作
保護実行	設定情報を保存し、設定に従って保護を開始します。保護開始時点のファイル配置などを記憶し、再起動時に復元します。再起動は発生しませんが、一部の機能は設定を反映するために再起動が必要です。
保護停止	設定情報を保存し、保護を停止して再起動します。再起動後に保護開始時点のステータスに戻ります。保護停止状態の時に保護停止を選択した場合は再起動しません。
保護終了	設定情報を保存し、保護を終了して再起動します。保護終了状態で WinKeeper を起動するにはコントロールパネル上のアイコンをダブルクリックして起動します。サービスが停止するため、WinKeeper Server と通信できなくなります。

- 3) 選択した状態に応じてダイアログが表示されます。

再起動を伴う場合はシステム再起動の画面が表示されます。[再起動]をクリックしてシステムの再起動を行います。

図 4-3-3



- 4) WinKeeper の設定情報が反映され、保護実行を選択した場合は PC が保護されるようになります。

■ WinKeeper アイコンから保護状態の変更

WinKeeper アイコンを右クリックし、表示されるメニューから[保護実行] / [保護停止] / [終了] / [保護再実行]を選択します。

("P.47 WinKeeper アイコンメニュー" 参照)

- WinKeeper の保護再実行をするには、コマンド C:\Windows\KPSWitch.exe /run:reprotect:password で行うこともできます。※Password のところに、WinKeeper のパスワードを入れて下さい。

4-4.設定の保存とコピー(ファイル)

設定情報の保存とコピー

ネットワーク内に複数の WinKeeper Client がインストールされている場合、1 台の PC で WinKeeper Client の設定を行います。
設定後その設定情報をファイルに書き出し、他の WinKeeper Client がインストールされた PC にコピーして保護環境を統一します。
この手順は、WinKeeper Server や WinKeeper Pro が無い場合のコピー方法です。

WinKeeper Server がある場合、この方法をスキップして頂いても結構ですが、環境の変更が頻繁で保護設定を何度も変更したりネットワーク内のグループ単位でそれぞれ異なる保護設定を施したりする場合は、この方法でファイルを書き出して設定情報の管理をすることをお勧めします。

環境保存

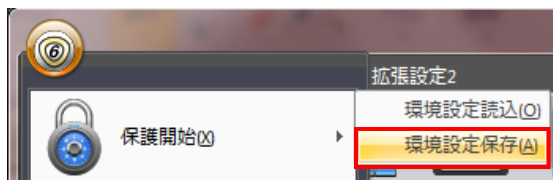
■ 保護情報の保存

WinKeeper Client の設定を確定後、現在の設定情報を保存します。

設定情報の保存によって保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含んだ設定情報ファイルを保存することができます。

- 1) [WinKeeper6 ボタン]から、[保護開始]を選択、[環境設定保存]をクリックします。

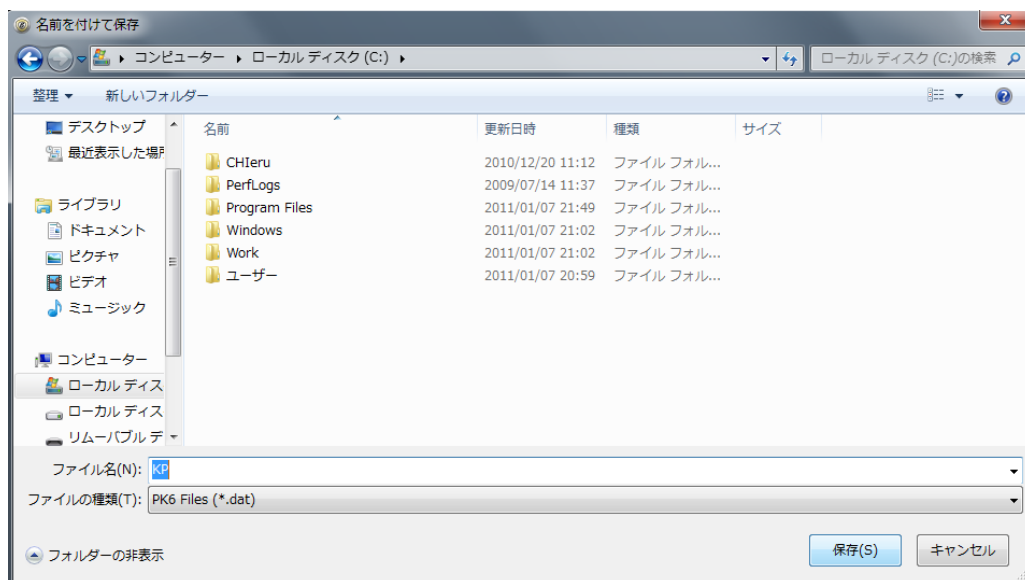
図 4-4-1



- 2) [名前を付けて保存]画面が表示されます。

保存先のフォルダを選択後、ファイル名を入力して[保存]をクリックします。

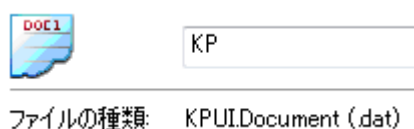
図 4-4-2



- ファイルの個別 / 世代別管理を行う場合は、ファイル名に[グループ名]や[作成日時]をつけて保存することをお勧めします。

- 3) 設定保存ファイル(DAT)が作成されたことを確認します。

図 4-4-3



環境読込

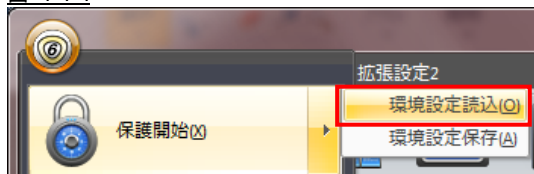
■ 保護情報のコピー

保存した設定情報ファイルを使って設定情報を他の WinKeeper Client にコピーすることができます。

設定情報のコピーによって、保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含むすべての設定情報を継承することができます。

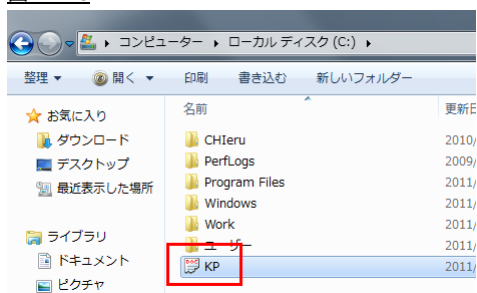
- 1) コピーしたい WinKeeper Client コンソールの[WinKeeper6 ボタン]から、[保護開始]を選択、[環境設定読込]をクリックします。

図 4-4-4



- 2) [開く]画面で、コピー元の設定保存ファイル(DAT)を選択して[開く]をクリックします。

図 4-4-5



- 3) コンソールから設定情報がコピーされたことを確認します。

図 4-4-6





5.WinKeeper Server の設定

ここでは、WinKeeper Server を使った管理について説明します。

5-1.WinKeeper Serverの設定

運用上の注意点

- ・ WinKeeper Server はネットワーク内の WinKeeper Client の設定・管理を支援する統合管理ツールです。
- ・ WinKeeper Server から WinKeeper Client を管理するには、ネットワーク内で名前解決ができる環境である必要があります。名前解決ができない環境では WinKeeper Client との通信や管理が行えません。
- ・ WinKeeper Server が常時起動できない環境でお使い頂く場合はクライアントの自動ログオン機能から実施してください。
- ・ WinKeeper Client の保護が[終了状態]の場合、WinKeeper Server からは電源投入(PowerON)以外の管理ができなくなります。WinKeeper Client を終了してサービスを停止しなくてはならない事態を除き保護は[停止状態]で作業してください。
- ・ リモートコントロール機能で複数の PC に同時に接続される場合、多大なリソース消費が発生して Windows がフリーズするなどの現象が起こる可能性があります。リソースを確認し、適した台数でご使用ください。

コンソールの起動と終了

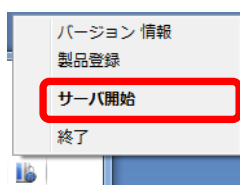
■ 起動

- 1) 以下のいずれかの方法で、コンソールを起動します。

I. WinKeeper Server アイコンから起動する方法

タスクトレイ上の WinKeeper Server アイコンをダブルクリックまたは WinKeeper Server アイコンを右クリックして表示されるメニューから[サーバ開始]を選択します。

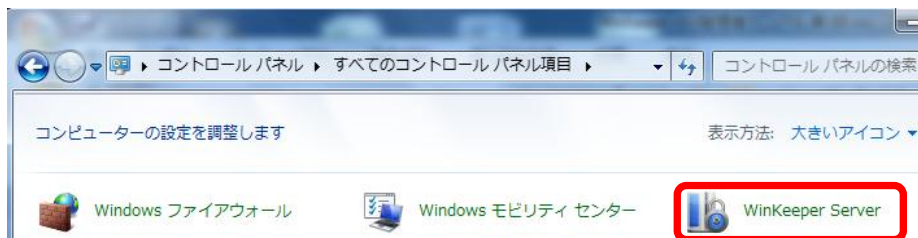
図 5-1-1



II. コントロールパネルから起動する方法

コントロールパネルを開き[WinKeeper Server]アイコンをクリックします。

図 5-1-2



III. スタートメニューから起動する方法

[スタート] → [プログラム](すべてのプログラム) → [WinKeeper] → [WinKeeper Server]を選択します。

図 5-1-3



- WinKeeper Server が終了している状態で、タスクトレイに WinKeeper Server アイコンが表示されない。その場合は、[コントロールパネルから起動する方法]または[スタートメニューから起動する方法]でコンソールを起動してください。

- 2) パスワード入力画面が表示されます。
パスワードを入力して[確認]をクリックします。

図 5-1-4



- パスワードは WinKeeper Server をインストール時に設定したパスワードです。("P.33 図 3-2-6[WinKeeper のパスワード設定]画面" 参照)

- 3) コンソール画面が起動します。

図 5-1-5



■ 終了

コンソールの終了は、画面右上の[×]をクリックまたはメニューバーの[管理] → [終了]を選択して終了します。

画面説明

図 5-1-6



■ ① メニューバー

コンソールの終了やパスワード、バージョン情報といった基本設定の変更 / 確認ボタンが入っています。

表 5-1-1

メニュー	説明	
管理	終了	WinKeeper Server を終了します。
ツール	サーバパスワード変更	WinKeeper Server のログインパスワード変更
	ライセンスキー変更	WinKeeper Server のライセンスキー変更
ヘルプ	プロパティ	バージョン情報の確認

■ ② 機能設定ボタン

WinKeeper Server に接続している WinKeeper Client の保護状態やログオンを含む電源管理、そしてリモートでのメッセージ送信やコマンド配信といった統合管理やメンテナンスの機能ボタンが配置されています。

WinKeeper Server のコンソール上から各ボタンをクリックすることで設定する機能を選択できます。

ボタンをクリックすると、各機能の設定画面(クラスエリアやダイアログ、ウィザードなど)を呼出します。

表 5-1-2

機能	項 目	説 明
基本機能	保護設定	接続している PC の保護と制限に関する機能をコンソール上から実行できます。 ("P.97 PC の保護設定" 参照)
	自動ログオン	接続している PC のネットワーク内で使用するユーザアカウント情報を登録し、全員を共通アカウントでログオンさせたり個別アカウントを設定して自動ログオンさせることができます。 ("P.103 自動ログオンの設定" 参照)
	通信制御	PC の通信制御機能の設定状況を確認し、状況に応じて通信の許可と禁止を変更することができます。 ("P.106 通信制御状況の確認と変更" 参照)
拡張機能 1	メッセージ	選択した PC に対してメッセージを送信したり、リモートからコマンド実行をする機能です。 ("P.107 管理者メッセージとコマンド実行の送信" 参照)
基本機能	リモート	コンソールから PC をリモート操作する機能です。("P.109 PC のリモートコントロール" 参照) ※リモートコントロールは WinKeeper Server をインストールした PC と WinKeeper Client をインストールした PC の双方にリモートコントロールモジュールがインストールされている必要があります。
拡張機能 1	ファイル配布	コンソールから PC に対してファイルを配信することができます。PC の任意のフォルダに対してもファイル配信や配信ファイルを実行できます。 ("P.110 ファイルの配信" 参照)
	アップデート	ローカルに置いてあるアップデートファイルを、PC に対して配信する機能です。 チエルのテクニカルサイトから提供されるアップデートファイルを使って WinKeeper Client をリモートでアップデートすることができます。 ("P.112 アップデートによるパッチファイルの配信" 参照)
基本機能	電源管理	スケジュールを設定してクライアント側の PC の電源を Power on / シャットダウン / 再起動することができます。 ("P.113 PC の電源管理" 参照)
拡張機能 2	危険リスト	このリストは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述し、クライアントに送付することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。 ("P.115 危険リスト配信" 参照)
基本機能	パスワード	WinKeeper Server のログインパスワードを変更することができます。 ("P.116 パスワードの変更" 参照) ※セキュリティのことを考え、WinKeeper Server と WinKeeper Client を同一のパスワードにしないようにしてください。
拡張機能 2	電源節約	コンソールから PC に対して電源節約の設定を変更することができます。 ("P.117 電源節約の設定" 参照)
	スケジュール	保護設定の内容を指定した時間により変更することができます。 ("P.118 保護設定スケジュールの設定" 参照)
基本機能	ヘルプ	ヘルプファイル(本マニュアル PDF)が表示されます。

■ ③ グループリスト

WinKeeper Server に接続している PC が表示されます。("P. 95 WinKeeper グループリスト(グルーピング)" 参照)

機能ボタン選択時にグループリスト上からグループを選択すると、マネージメントエリアに所属 PC が表示され、機能設定の対象となります。またグルーピングは自由に設定できますのでグループ単位 / PC 単位で柔軟な管理ができます。

■ ④ マネージメントエリア

WinKeeper Server に接続している PC に対する機能設定を行うスペースです。

機能ボタンを選択することにより、マネージメントエリアの表示が切替わります。(ダイアログで表示されるものもあります)

5-2.WinKeeper Serverの機能設定

WinKeeper グループリスト(グルーピング)

WinKeeper Server の WinKeeper グループリストから実際のネットワーク環境や WinKeeper の管理に適したグループを設定し、PC 群をグルーピングすることができます。グルーピング完了後、各機能の設定を行います。

■ グループの作成

- 1) WinKeeper グループリストから[すべてのグループ]を右クリックし、[グループ作成]をクリックします。

図 5-2-1



- 2) [新規グループの追加]画面が表示されます。

グループ名を入力し、[確認]をクリックしてグループを追加します。

図 5-2-2

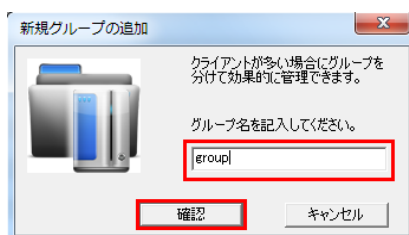


表 5-2-1

グループ名入力文字制限
全角 / 半角 26 文字

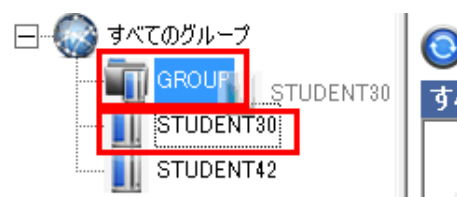
- "1),2)" を繰り返し、管理に必要な数のグループを作成してください。

- 3) WinKeeper グループリストに作成したグループが表示されます。

以下のいずれかの方法で PC をグループに登録します。

- I. グループリストからクライアントアイコンを選択し、作成したグループ上にドラッグアンドドロップする方法

図 5-2-3



- II. 新規作成したグループアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[クライアントの追加]をクリックする方法

クライアントを追加する画面が表示されます。

左側のリストからクライアントを選択して、[>>]をクリックして登録します。

図 5-2-4

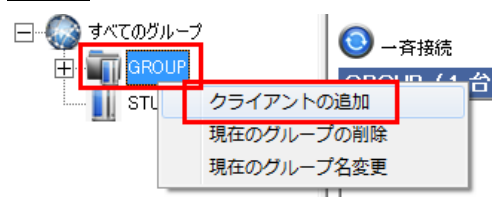
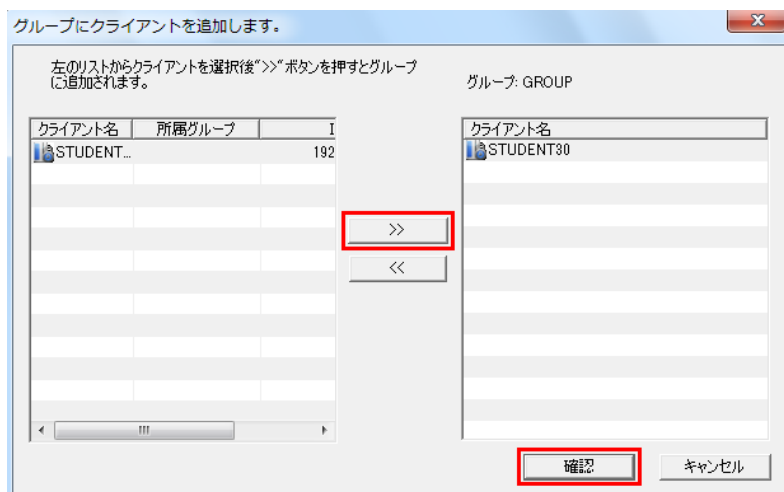


図 5-2-5



"3)" の手順を繰り返し、PC を各グループに振り分けます。

■ グループリストの削除

作成したグループを選択し、右クリックで表示されるメニューから[現在のグループの削除]を選択すると削除の確認画面が表示されます。[はい]をクリックしてグループを削除します。

図 5-2-6

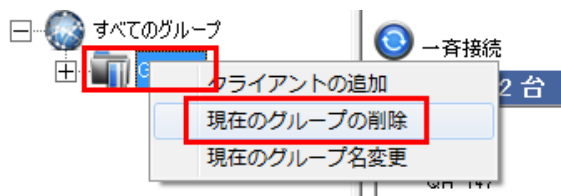
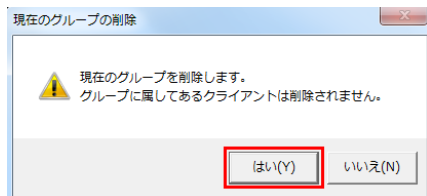


図 5-2-7

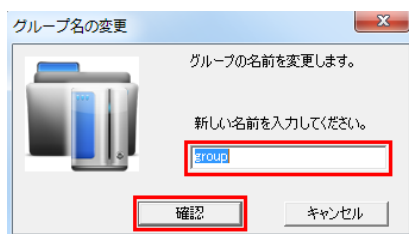


- 削除対象のグループに属している PC は、[すべてのグループ]に移動します。

■ グループ名の編集

作成したグループを選択し、右クリックで表示されるメニューから[現在のグループ名変更]を選択するとグループ名の変更画面が表示されます。グループ名を変更して[確認]をクリックします。

図 5-2-8



PC の保護設定

保護設定では接続している PC の保護と制限に関する機能をコンソール上から実行できます。

図 5-2-9



■ 単一操作

表 5-2-2

項 目	説 明
接続	WinKeeper Client がインストールされている PC でサーバ接続の設定を行っている場合、マネージメントエリアに PC が表示され、接続することができます。
接続解除	PC との接続を解除します。
画面ロック	PC の画面をロックして操作できない状態にします。
ロック解除	PC の画面ロック状態を解除します。
シャットダウン	PC をシャットダウンします。

■ PC 選択時にできる操作

表 5-2-3

アイコンの状態	PC 選択時の右クリックメニューと説明
接続 ロック 保護	環境設定 : 選択した PC のコンソールを呼び出します。 ("P.99 WinKeeper Client のコンソール起動" 参照) 保護実行 / 保護停止 / 保護再実行: 選択した PC の保護状態を変更します。 パスワード変更 : 選択した PC のパスワードを変更します。 接続解除 : 選択した PC との通信を遮断します。 保護設定内容コピー : 選択した PC の保護ステータスをコピーします。 ("P.100 保護設定のコピーと適用" 参照) コピーした保護内容の適用 : 選択した PC の保護情報をコピーした設定情報に書き換えます。 ("P.100 保護設定のコピーと適用" 参照) 画面ロック / 画面ロック解除: 選択した PC の画面をロックして操作できない状態にし、ロック中の場合はロック状態を解除します。(※1) 再起動 : 選択した PC を再起動します。 ログオフ : 選択した PC をログオフします。 シャットダウン : 選択した PC をシャットダウンします。 リモートコントロール : 選択した PC をリモート操作します。(※2) ("P.109 PC のリモートコントロール" 参照)
接続解除	接続 : 選択した PC へ接続します。 リストから削除 : 選択した PC の登録を解除してリストから削除します。 PowerON : 選択した PC の電源を投入します。(※3)(※4)
ログオフ	再起動 : 選択した PC を再起動します。 シャットダウン : 選択した PC をシャットダウンします。 クライアントログオン : 選択した PC にログオン情報を送信してリモートログオンします。

- ※1 PC 側でロックの解除を行う場合は[Esc]キーを押下します。パスワードの入力画面が表示されますので、WinKeeper Client のパスワードを入力し、[確認]をクリックします。
パスワードを 3 回間違えた場合、再度パスワード入力ができるのは、60 秒後になります。
- ※2 WinKeeper Server と WinKeeper Client の双方にリモート接続モジュールが必要です。
- ※3 PowerON は PC のネットワークカードが WakeOnLAN に対応している必要があります。
- ※4 Windows 8 で PowerON を使用する場合、OS の「高速スタートアップを有効にする (推奨)」を無効にしてください。

■ 一斉操作

図 5-2-10



表 5-2-4

項 目	説 明
一斉接続	表示されている全 PC との通信接続を開始します。
一斉解除	表示されている全 PC との通信接続を解除します。
一斉ロック	表示されている全 PC の画面をロックして操作できない状態にします。
一斉ロック解除	表示されている全 PC の画面ロック状態を解除します。
一斉終了	表示されている全 PC をシャットダウンします。

■ マネージメントエリアで、右クリックした場合に表示されるメニュー

表 5-2-5

アイコンの状態	PC 選択時の右クリックメニューと説明
接続	一斉保護実行 / 一斉保護停止 / 一斉保護再実行 : 全 PC の保護状態を変更します。 全パスワード変更 : 全 PC のパスワードを変更します。 一斉接続 / 一斉接続解除 : 全 PC との通信を開始 / 遮断します。
ロック	コピーした保護内容の一斉適用 : 全 PC の設定をコピーした設定情報で書き換えます。 一斉画面ロック / 一斉画面ロック解除 : 全 PC の画面をロックして操作できない状態にし、ロック中の場合は PC のロック状態を解除します。
保護	一斉再起動 : 全 PC を再起動します。 一斉ログオフ / 一斉ログオン : 全 PC をログオフします。ログオフ状態の場合は全 PC にログオン情報を送信してリモートログオンします。
接続解除	一斉シャットダウン : 全 PC をシャットダウンします。 一斉 PowerON : 全 PC の電源を投入します。
ログオフ	表示 : エリア内の表示をリスト表示とアイコン表示に切り替えます。 アイコン整列 : [コンピュータ名]、[OS]、[IP アドレス]、[最終更新]で表示順序をソートします。

- Windows 8 で一斉 PowerON を使用する場合、OS の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」を無効にしてください。
- Windows 8 で画面ロック実行中に再起動した場合、画面ロックは解除されます。

WinKeeper Client のコンソール起動

WinKeeper Server のコンソール上から、WinKeeper Client のコンソール画面をリモートで呼出して、設定することができます。

■ リモートコンソールの起動

- 1) WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.92 コンソールの起動と終了" 参照)
- 2) [保護設定]をクリックし、マネージメントエリアにクライアントアイコンが表示されているか確認します。
以下のいずれかの方法でリモートコンソールを起動します。

I. 接続しているクライアントアイコンをダブルクリックする方法

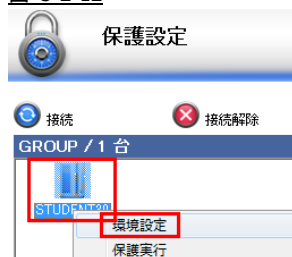
図 5-2-11



● クライアントアイコンが表示されていない場合、WinKeeper Client で設定した[サーバ接続]の IP アドレスが間違っている可能性があります。再度 IP アドレスを確認して WinKeeper Client で[サーバ接続]を実行してください。

II. 接続しているクライアントアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[環境設定]を選択する方法

図 5-2-12



- 3) リモートコンソールが起動します。

図 5-2-13



保護設定のコピーと適用

- この手順は、WinKeeper Server から設定をコピーする手順です。

ネットワーク内に複数の PC がある場合、1 台の PC に WinKeeper Client の設定をし、その設定情報を他の PC へコピーして保護環境を統一します。

設定情報の保存によって保護のステータス(保護状態、問題解決情報など)を含んだ設定情報ファイルを保存することができます。

■ 保護設定内容のコピーと適用

- WinKeeper Client で PC の保護設定が確定した後にいきます。複数の設定情報が保存できます。

- 1) WinKeeper Client で PC の保護設定終了後、WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.92 コンソールの起動と終了" 参照)
- 2) [保護設定]をクリックします。

設定モデルとなる PC を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定内容コピー]を選択します。

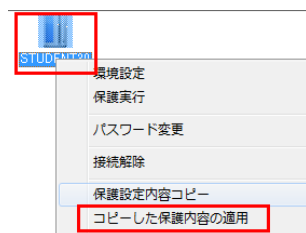
図 5-2-14



- 3) コピーした保護設定の内容を他の PC に適用させます。

設定を反映させる PC 群を選択し、右クリックで表示されるメニューから[コピーした保護内容の適用]をクリックします。

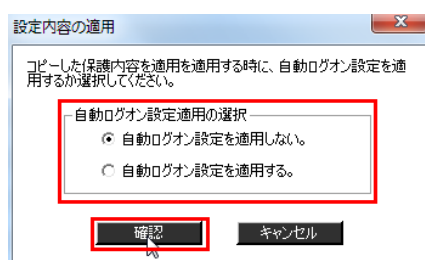
図 5-2-15



- 4) [設定内容の適用]画面が表示され、自動ログオン設定を適用するかを選択します。

適用しない場合は、[自動ログオン設定を適用しない]を選び、[確認]をクリックします。

図 5-2-16



■ 保護設定内容の複数保存

- 1) WinKeeper Client で PC の保護設定終了後、WinKeeper Server コンソールを起動します。("P.92 コンソールの起動と終了" 参照)
- 2) [保護設定]をクリックします。

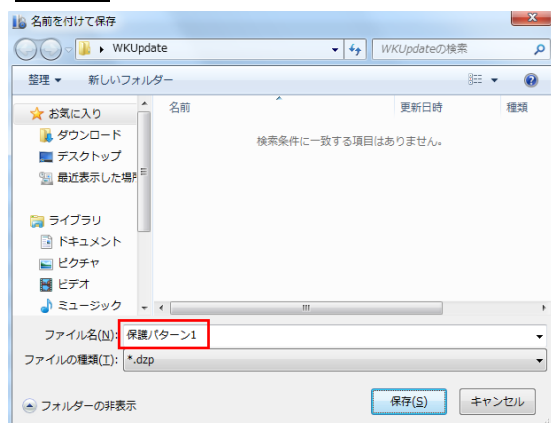
設定モデルとなる PC を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保護設定内容をファイルへ保存]を選択します。

図 5-2-17



- 3) 保護設定内容に任意の名前をつけて[保存]をクリックします。

図 5-2-18



- 4) 保存した保護設定内容を他の PC に適用させます。

設定を反映させる PC 群を選択し、右クリックで表示されるメニューから[保存されている保護設定内容の適用]をクリックします。

図 5-2-19

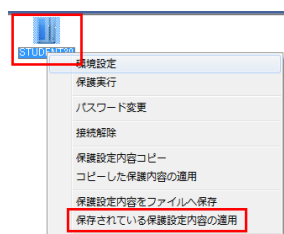
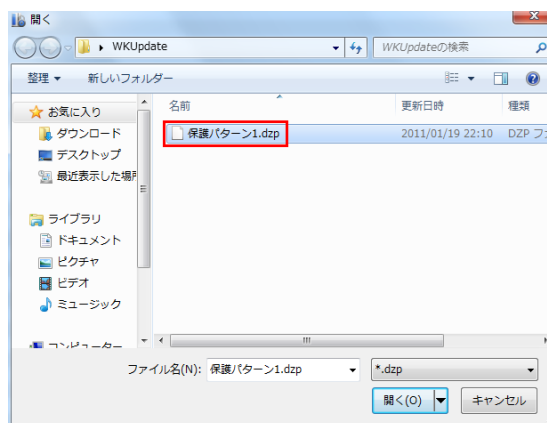


図 5-2-20



- 5) 適用する保護設定内容を選択し、[開く]をクリックします。

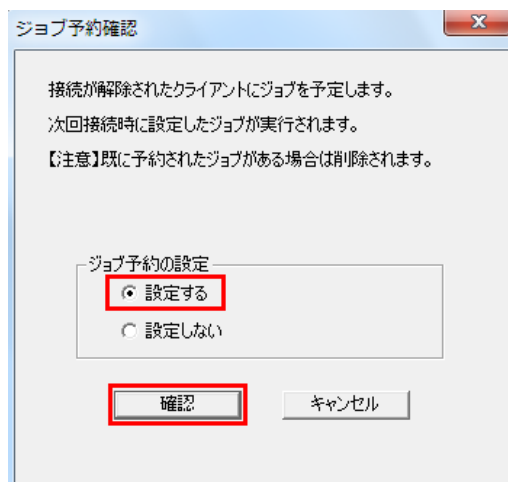
ジョブ予約の設定

WinKeeper Server から複数の PC を操作する際、機能実行時に未接続の PC に対してジョブを予約することができます。予約したジョブは未接続の PC が次回接続した際に実行されます。ここでは P.100 保護設定のコピーと適用で説明した保護設定内容のコピーを例にして、ジョブ予約の設定方法を説明します。

■ 未接続の PC にジョブを予約する

- 1) 設定モデルとなる PC を右クリックし、[保護設定内容コピー]を選択します。(P.100 保護設定のコピーと適用”2”)を参照)
- 2) WinKeeper Server コンソールで、未接続の PC 群を選択するか、ファンクションビュー上で右クリックし、[コピーした保護内容の適用]をクリックします。(P.100 保護設定のコピーと適用”3”)を参照)
- 3) ジョブ予約確認のダイアログが表示されます。未接続の Client に設定の適用を予約する場合はジョブ予約の設定欄で [設定する]が選択されていることを確認して、[OK]をクリックします。

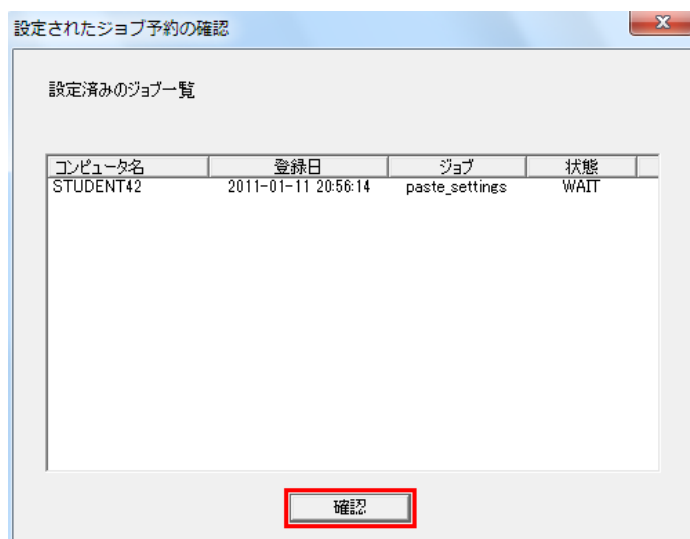
図 5-2-21



- 1 台の PC に対しては、1 つのジョブしか予約できません。すでにジョブが予約されている場合、新たなジョブを予約すると前回予約したジョブ予約は削除されます。
- すでに予約しているジョブを削除したくない場合は、ジョブ予約の設定欄で [設定しない]を選択してください。

- 4) 設定内容の適用のダイアログが表示されます。自動ログオン設定を適用するかどうかを選択して、[確認]をクリックします。
- 5) 設定済みのジョブ予約の一覧が表示されますので、設定内容を確認して [OK] をクリックします。

図 5-2-22



- ここでは保護設定の適用（コピー）を例に説明しましたが、ほかにも「保護実行」「保護停止」「ロック画面変更」「アップデート」についても同様の手順でジョブを予約することができます。

自動ログオンの設定

自動ログオン機能では、ネットワーク内で使用するユーザアカウント情報を登録し、全員を共通アカウントでログオンさせたり個別アカウントを設定して自動ログオンすることができます。

■ アカウントの登録

- 1) WinKeeper グループリストから[すべてのグループ]を選択し、[自動ログオン設定]をクリックします。

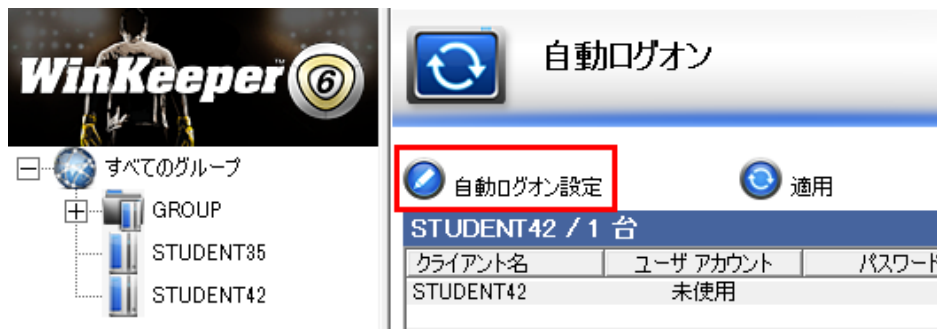
I. 全 PC に対してアカウント情報を登録する場合

PC を選択していない状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

II. 個別にアカウント情報を登録する場合

PC を選択した状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

図 5-2-23

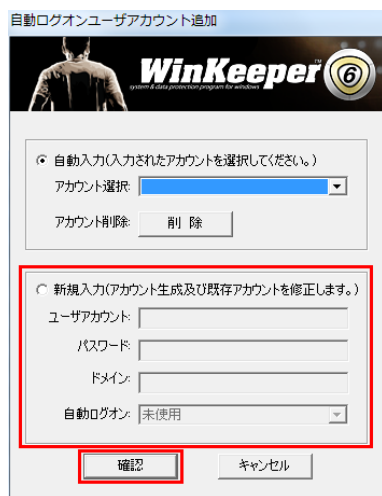


- 2) 自動ログオンユーザアカウント追加画面が表示されます。

[新規入力]を選択後、各項目を入力して[確認]をクリックします。

図 5-2-24

表 5-2-6



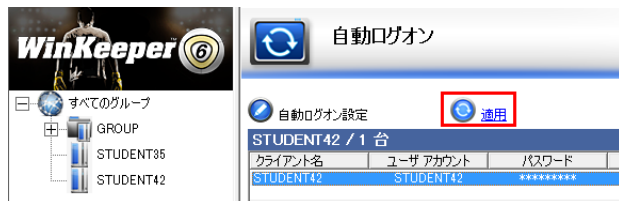
項 目	説 明
ユーザアカウント	ユーザアカウントを入力します。
パスワード	ユーザのパスワードを入力します。
ドメイン	ドメインログインをする場合は、ドメインを入力します。
自動ログオン	未使用 : PC に自動ログオンしない 使用 : PC に自動ログオンする

- 自動入力のアカウント選択プルダウンメニューで何も表示されない場合は新規入力力でアカウントを追加し、アカウント情報の登録を行います。
- プルダウンメニュー内には共通アカウントと個別アカウントが同時に表示されます。個別アカウントを登録していない場合は、共通アカウントのみが表示されます。

- 3) [適用]をクリックします。

アカウント情報が登録されます。アカウントを複数登録する場合はこの手順を繰り返してください。

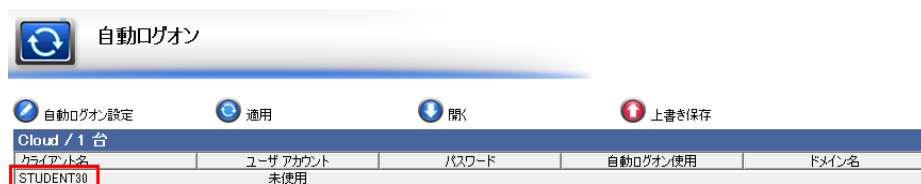
図 5-2-25



■ アカウントの選択

- 1) ログオンに使用するアカウント情報を選択します。

図 5-2-26

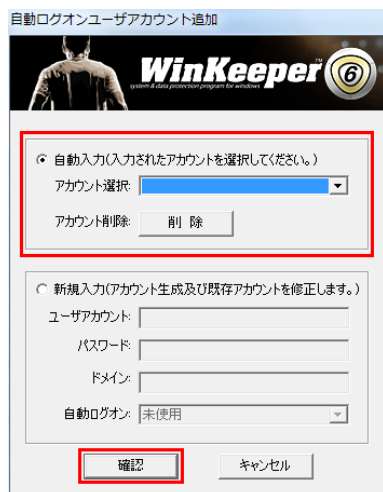


- 2) 自動ログオンユーザアカウント追加画面が表示されます。

[自動入力]を選択後、アカウントを選択して[確認]をクリックします。

図 5-2-27

表 5-2-7

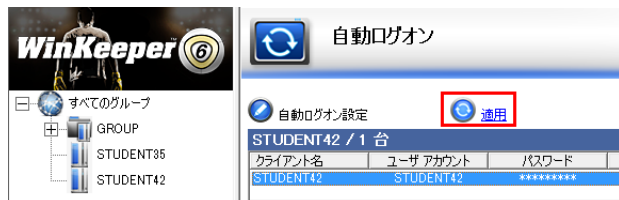


項 目	説 明
アカウント選択	新規入力で追加されたアカウント情報がプルダウンリストで表示されます。
アカウント削除	アカウント選択で選択されたアカウントを削除します。

- 3) [適用]をクリックします。

自動ログオンを使用している場合は、選択したログインアカウントで自動ログオンします。

図 5-2-28



- [適用]をクリックしないと設定は有効になりません。

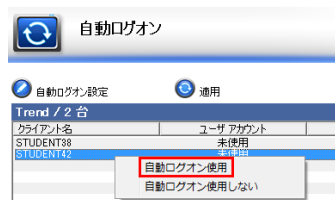
■ 自動ログオン使用

設定を行ったユーザアカウントとパスワードで自動ログオンを行う場合は、[自動ログオン使用]が "使用" に設定されている必要があります。

"未使用"になっている場合は"未使用"をクリックすると"使用"に変更されます。

その他に右クリックで表示されるメニューから"自動ログオン使用"を選択して変更することもできます。

図 5-2-29



■ 登録アカウントの削除

- 1) 削除するログインアカウントを選択してから[自動ログオン設定]をクリックします。

I. 全 PC 共通のログインアカウントを削除する場合

PC を選択しない状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

II. 個別のログインアカウントを削除する場合

PC を選択した状態で[自動ログオン設定]をクリックします。

- 2) [自動入力]を選択して[アカウント選択]プルダウンメニューからアカウント情報を選択し、[削除]をクリックするとアカウント削除の確認画面が表示されます。[はい]をクリックします。

図 5-2-30

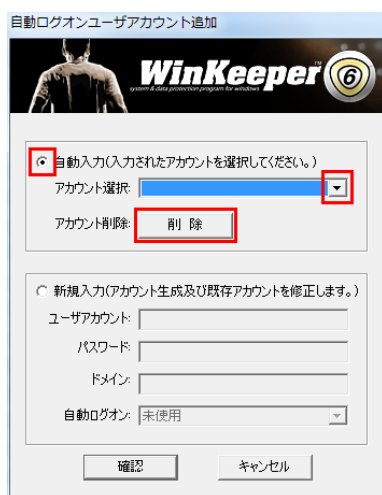
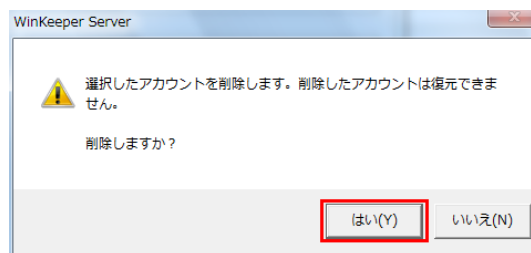


図 5-2-31



- プルダウンメニュー内には共通アカウントと個別アカウントが同時に表示されます。
- 一度削除したアカウント情報は、キャンセルをクリックしても復元されません。
- 特定の PC 上から[共通アカウント]を削除すると、共通アカウント設定が解除されて個別アカウント情報に変更されます。(一括では削除できなくなります)

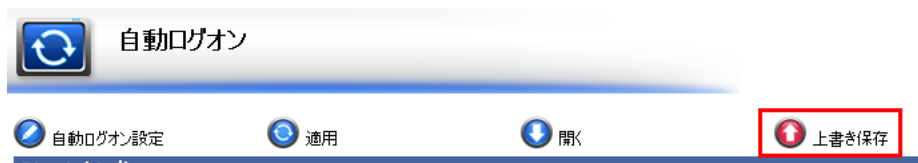
- 3) 自動ログオンユーザアカウント追加画面の[キャンセル]をクリックして、自動ログオンユーザアカウント追加のダイアログを閉じます。

■ 登録アカウントの保存

自動ログオンユーザアカウント追加で、追加したアカウントリスト情報を書き出して保存することができます。

- 1) 自動ログオンユーザアカウント追加後、[上書き保存]をクリックします。

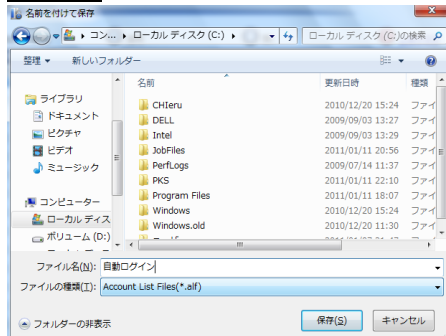
図 5-2-32



- 2) 名前を付けて保存画面が表示されます。

アカウントリストファイル(~.alf)にリスト情報を書き出して保存します。

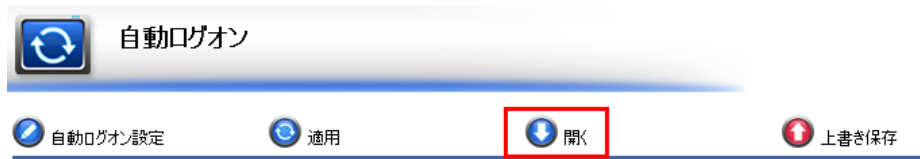
図 5-2-33



■ 登録アカウントを開く

- 1) 保存したアカウントリストを読み込む時は[開く]をクリックします。

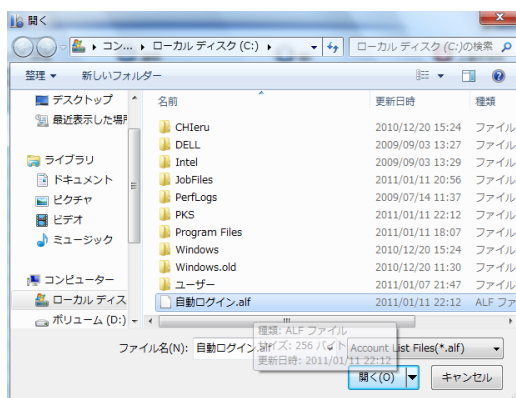
図 5-2-34



- 2) ファイルを開く画面が表示されます。

アカウントリストファイルを選択し、[開く]をクリックするとリスト情報が読み込まれます。

図 5-2-35



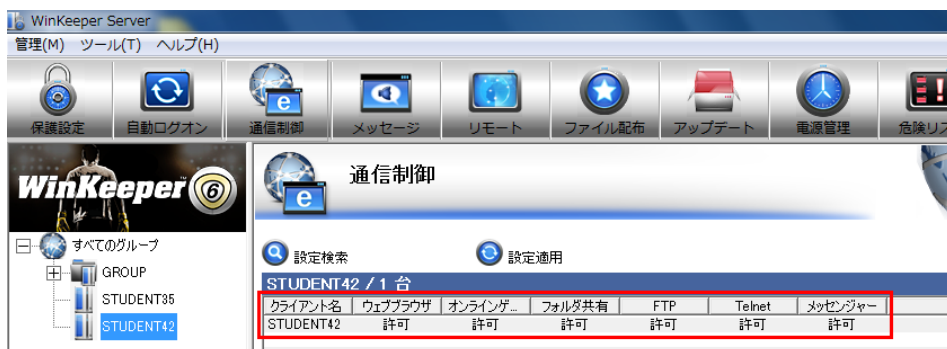
通信制御状況の確認と変更

- 通信制御を使用するには、クライアントに通信制御用モジュールをインストールする必要があります。(P.38 通信制御機能のインストール参照)

■ 通信制御状況の確認

[通信制御]をクリックすると、自動的にネットワーク内の PC と通信して通信制御状況を表示します。

図 5-2-36



- [設定検索]をクリックすると再度 PC と通信して再表示します。

■ 通信制御状況の変更

- 1) [設定検索]をクリックして PC の通信制御設定状況を確認します。
- 2) 以下のいずれかの方法でメニューを表示させ変更します。

I. 単一の PC を変更する場合

変更したい PC 上で右クリックして表示されるメニューから切り替えたい内容を選択します。

表 5-2-8

項 目	説 明
ウェブブラウザ許可 / 遮断	ブラウザでのアクセス制限機能を許可または禁止します。
オンラインゲーム許可 / 遮断	特定のオンラインゲームサイトへの接続制限機能を許可または禁止します。
共有フォルダ許可 / 遮断	共有用ポート(137~139 etc.)の制限機能を許可または禁止します。

FTP 許可 / 遮断	FTP 用ポート(20、21 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
Telnet 許可 / 遮断	Telnet 用ポート(23)の制限機能を許可または禁止します。
メッセージ許可 / 遮断	特定のメッセージングソフトの接続制限機能を許可または禁止します。

- 直接リストをクリックして変更することもできます。

II. 全ての PC を変更する場合

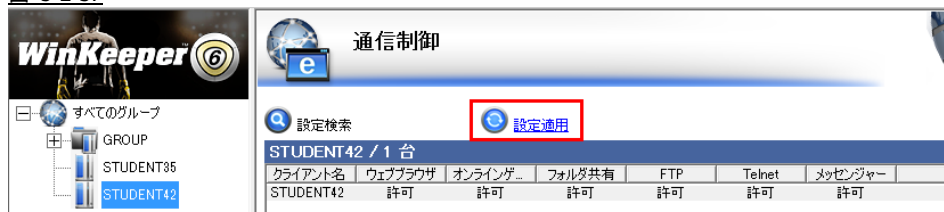
余白部分で右クリックして表示されるメニューから切り替えたい内容を選択します。

表 5-2-9

項 目	説 明
全てのウェブブラウザ許可 / 遮断	ウェブ通信用ポート(80、8080 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
全ての共有フォルダ許可 / 遮断	共有用ポート(137～139 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
全ての FTP 許可 / 遮断	FTP 用ポート(20、21 etc.)の制限機能を許可または禁止します。
全ての Telnet 許可 / 遮断	Telnet 用ポート(23)の制限機能を許可または禁止します。
全てのオンラインゲーム許可 / 遮断	特定のオンラインゲームサイトへの接続制限機能を許可または禁止します。
全てのメッセージング許可 / 遮断	特定のメッセージングソフトの接続制限機能を許可または禁止します。

- 3) [設定適用]をクリックして変更内容を確定します。

図 5-2-37



- 共有フォルダは、Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 では使用できません。

管理者メッセージとコマンド実行の送信

■ 管理者メッセージの送信

- 1) 画面上部の[メッセージ]をクリックします。

図 5-2-38

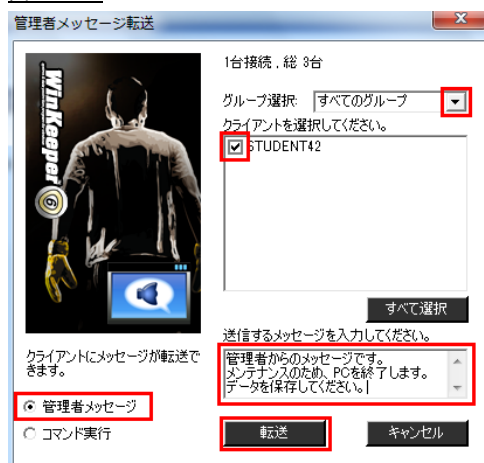


- 2) [管理者メッセージ転送]画面が表示されます。

グループ選択から対象グループを選択して PC を選択します。

[管理者メッセージ]を選択し、送信するメッセージを入力して[転送]をクリックします。

図 5-2-39



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

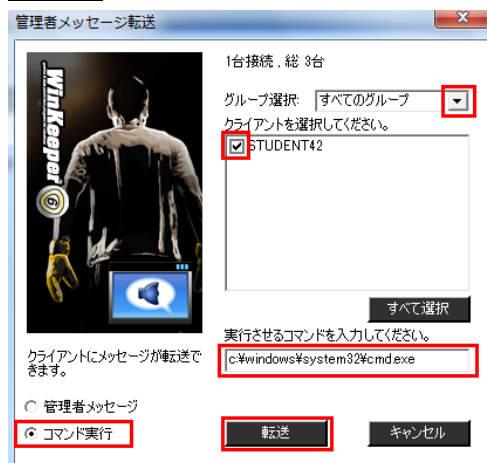
- 3) 選択された PC の画面上に入力したメッセージが表示されます。

■ コマンド実行の送信

- 1) 画面上部の[メッセージ]をクリックすると、[管理者メッセージ転送]画面が表示されます。
- 2) グループ選択から対象グループを選択して PC を選択します。

[コマンド実行]を選択し、PC 上で実行するコマンドを入力して[転送]をクリックします。

図 5-2-40



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

- 3) 選択された PC 上で入力したコマンドが実行されます。

PCのリモートコントロール

- リモートコントロールは、WinKeeper Server と WinKeeper Client をインストールした PC の双方にリモートコントロールモジュールがインストールされている必要があります。インストール時にリモートコントロールモジュールをインストールしたことを確認してください。

- 1) [リモート]をクリックします。

図 5-2-41



- 2) [リモート]画面が表示されます。

グループ選択で対象グループを選択し、コントロール対象のクライアントをチェックして[確認]をクリックします。

図 5-2-42



- 3) 選択した PC の画面が別のウィンドウで開きます。

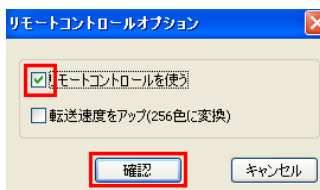
■ リモート操作する場合

ウィンドウタイトルに表示されるメニューから[オプション(F10)]を選択すると、リモートコントロールオプション画面が表示されます。[リモートコントロールを使う]にチェックを入れて[確認]をクリックするとリモート操作ができます。

図 5-2-43



図 5-2-44



- 転送速度を早くしたい場合、リモートコントロールオプション画面の[転送速度をアップ]にチェックを入れます。

ファイルの配信

- 1) [ファイル配布]をクリックします。

図 5-2-45



- 2) [ファイル配布ウィザード]が起動します。

グループの選択から対象グループを選択し、PC を選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-46



- 全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

- 3) ファイル選択から[ファイル追加]をクリックし、送付するファイルを選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-47



- ファイルは最大 10 個まで複数個選択が可能です。

- 4) ファイル配布後、PC 上で実行するファイルにチェックを入れて[次へ]をクリックします。

図 5-2-48



- 5) 配布ディレクトリを選択して、[次へ]をクリックします。

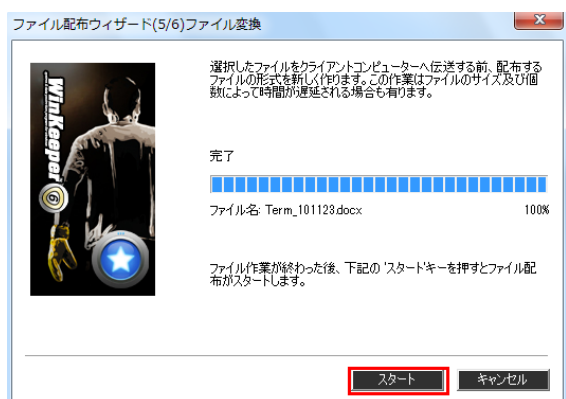
図 5-2-49



- 6) 送付ファイルを配信形式にする[ファイル変換]が行われます。

完了後、[スタート]をクリックします。

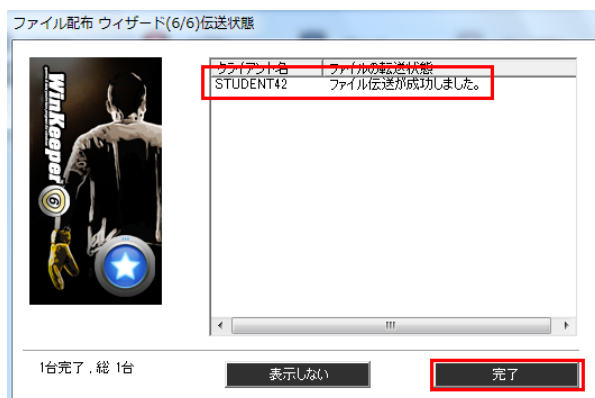
図 5-2-50



- 7) 配信状態が表示されます。

転送結果を確認して、[完了]をクリックします。

図 5-2-51



アップデートによるパッチファイルの配信

- 配信対象の PC が保護実行中の場合は、自動的に保護停止状態になり、アップデートを実行します。
- 機能を使う前にテクニカルサイトからアップデートファイルをダウンロードしておきます。

- 1) [アップデート]をクリックして[最新版のダウンロード]をクリックします。

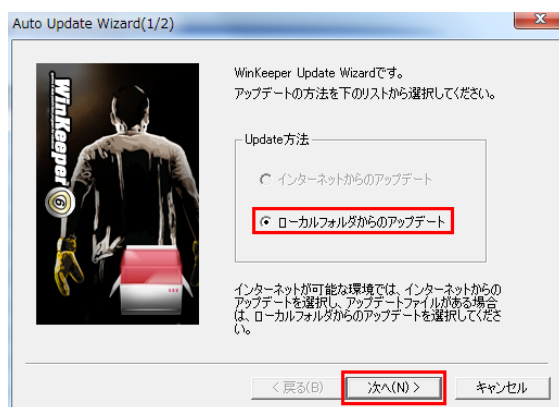
図 5-2-52



- 2) Auto Update Wizard 画面が表示されます。

[ローカルフォルダからのアップデート]を選択して[次へ]をクリックします。

図 5-2-53

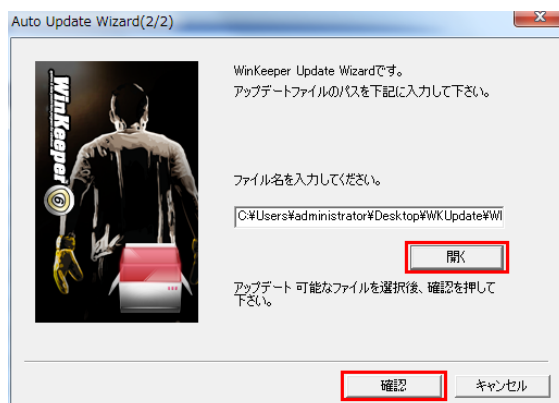


- 3) ローカルアップデートフォルダ選択画面が表示されます。

[開く]をクリックしてダウンロードしたアップデートファイルを選択します。

[確認]をクリックするとアップデートファイルが WinKeeper Server 上に取り込まれます。

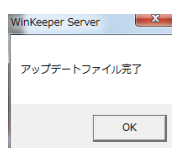
図 5-2-54



- 4) マネージメントエリアにアップデート完了画面が表示されます。

[OK]をクリックして画面を閉じるとコンソール上からアップデート準備状況が確認できます。

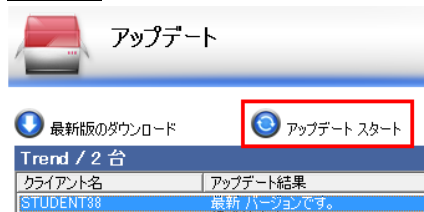
図 5-2-55



- 5) [アップデートスタート]をクリックします。

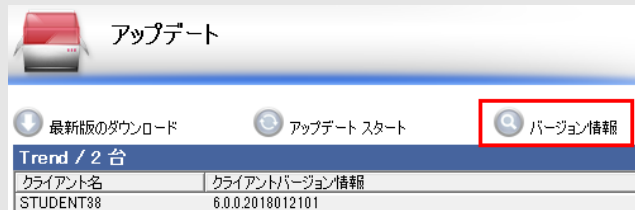
自動的に取り込まれたアップデートファイルがグループ内の PC に配信されます。

図 5-2-56



- アップデートファイルが配信された PC ではパッチ適用後、自動的に再起動しますので PC 再起動後に[バージョン情報]をクリックしてアップデート結果を確認します。

図 5-2-57



- アップデートの結果を[Excel]でファイルに書き出すこともできます。(コンピュータ名と WinKeeper Client バージョン)

PC の電源管理

電源管理スケジュールの終了/ 再起動機能は WinKeeper Client の終了/ 再起動機能を利用して実行します。したがって、WinKeeper Sever を実行し、クライアント PC と接続状態である必要があります。

■ 電源管理の設定

- 1) [電源管理]をクリックします。

図 5-2-58



- 2) [電源管理]画面が表示されます。

図 5-2-59



この画面には以下のボタンがあります。

表 5-2-10

項 目	説 明
追加	スケジュールを追加するための編集画面が表示されます。
編集	変更したいリストを選択した後に変更します。
削除	リストを選択した後で削除します。

[追加]をクリックすると[スケジュール編集]画面が表示されます。以下の項目を指定できます。

図 5-2-60

- グループ選択：電源管理スケジュールを使用したいグループを指定します。
- タイマー設定：[毎日]（毎日タスクを実行）、[指定された曜日]（指定された曜日にタスクを実行）、[指定された日]（指定された日にタスクを実行）、[使用しない]（このタスクを実行しない）を指定します。
- システム時間 / サーバシステム起動後：指定時間を入力します。
- 動作：実行する動作を指定します。[Power ON]、[コンピュータ再起動]、[コンピュータ終了]があります。

入力が完了したら[確認]をクリックしてください。設定を変更したい場合は[編集]をクリックしてください。設定を削除したい場合は[削除]をクリックしてください。

- 電源管理スケジュールの動作のためにはスケジュールされている時間にサーバがログオンされている必要があります。
- 再起動 / 終了のスケジュールの動作のためには WinKeeper Sever とクライアント PC が接続されている必要があります。

危険リスト配信

危険リストは、プログラムの実行を制限するためのリストです。このリストは ini ファイルで実行を制限したい実行ファイル名を記述し、クライアントに送付することによって、クライアントはこのリストにある実行ファイルを起動できなくなります。

■ 危険プログラムリストの作成

- 1) 任意の ini ファイルを作成し、以下のような形式で追加したい実行ファイルを記述します。

[PROGRAM_LIST]

0=Notepad.exe

1=C:\WINNT\system32\calc.exe

2=WordPad.exe

3=MSPaint.exe

4=.....

(ファイル名だけ入力、あるいは全体フォルダ名込みで入力可能。大小文字区分しません)

- 2) [危険リスト]をクリックします。

図 5-2-61



- 3) [危険リスト]パネルが表示されます。グループ、クライアント PC、ファイル名を指定します。

図 5-2-62



- 4) [転送]をクリックして、作成したファイルをクライアント PC に送付します。
全員に送る時は[すべて選択]をクリックします。

パスワードの変更

- 1) [パスワード]をクリックします。

図 5-2-63



- 2) [WinKeeper パスワード変更]画面が表示されます。
新しいパスワードを入力して[確認]をクリックします。

図 5-2-64



セキュリティのことを考慮し、WinKeeper Client と同一のパスワードにしないようにしてください。

電源節約の設定

- 1) [電源節約]をクリックします。

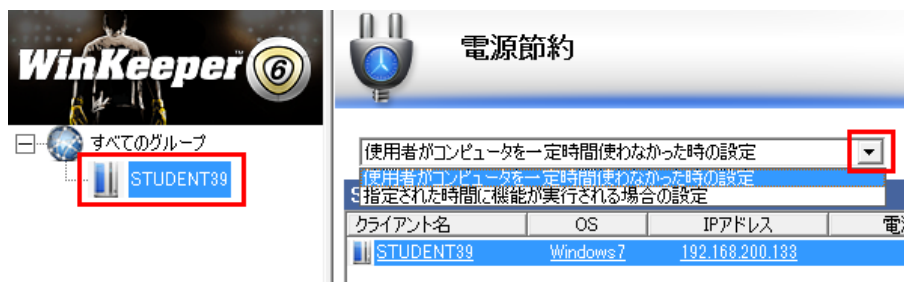
図 5-2-65



- 2) 設定を確認する PC を選択し、[使用者がコンピュータを一定時間使わなかった時の設定]、または[指定された時間に機能が実行される場合の設定]を選択します。("P.87 電源節約機能の設定" 参照)

ここでは[使用者がコンピュータを一定時間使わなかった時の設定]を選択します。

図 5-2-66



- 3) [更新]をクリックすると、選択した PC の最新の電源節約機能の設定を確認できます。

図 5-2-67

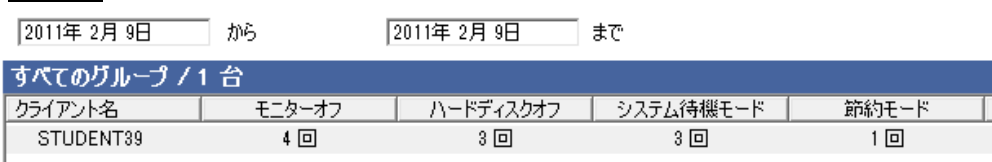


図 5-2-68



- 4) [結果確認]をクリックすると、選択した PC の電源節約機能の稼働状況を確認できます。

図 5-2-69



保護設定スケジュールの設定

■ 設定前の注意事項

保護設定スケジュールは、保護設定の内容を指定した時間により変更する機能です。保護設定を複数持ち、時間にしたがって、保護内容が自動で適用されます。

■ 設定手順

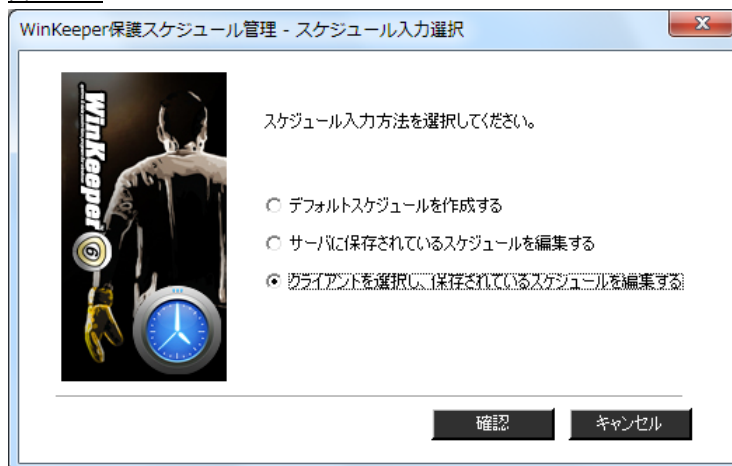
- 1) [スケジュール]をクリックします。

図 5-2-70



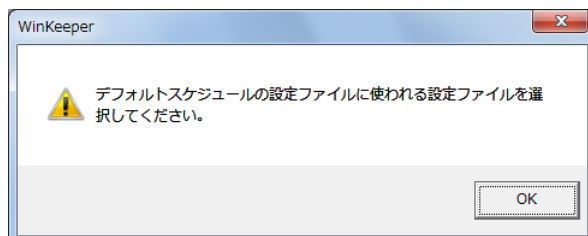
- 2) [スケジュール入力選択]画面が表示されます。スケジュールの入力方法を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-71



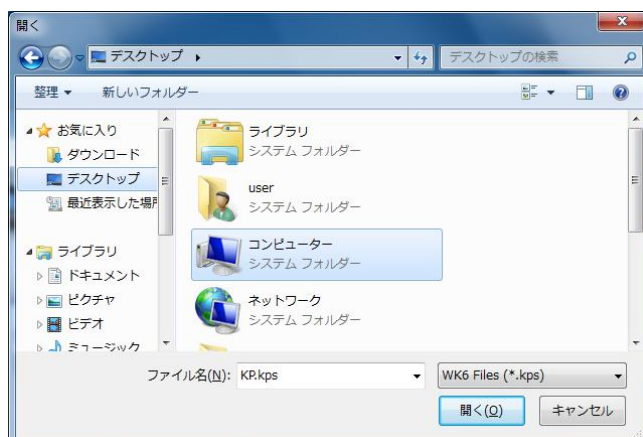
- 3) [デフォルトスケジュールを作成する]を選択し、スケジュールが1つもない場合にデフォルトスケジュールの設定ファイルに使われる設定ファイルを選択するようにメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

図 5-2-72



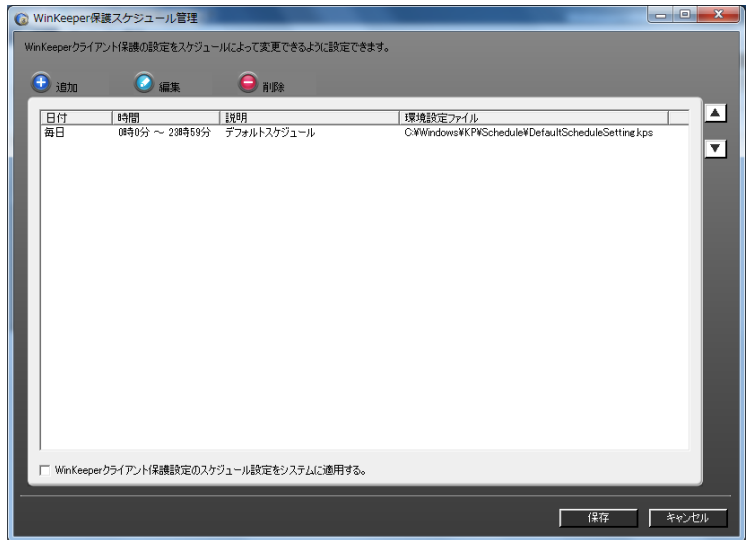
- 4) 設定ファイルの選択画面が表示されます。選択して[開く]をクリックします。

図 5-2-73



- 5) [保護スケジュール管理]画面が表示されます。

図 5-2-74



- 6) [スケジュール入力]画面が表示されます。

各項目を設定して、[確認]をクリックします。

図 5-2-75

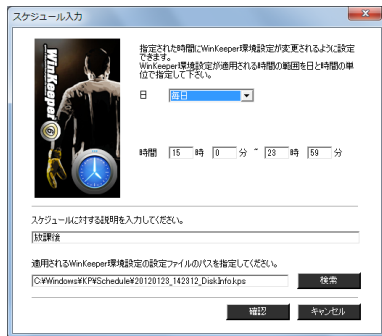


図 5-2-76

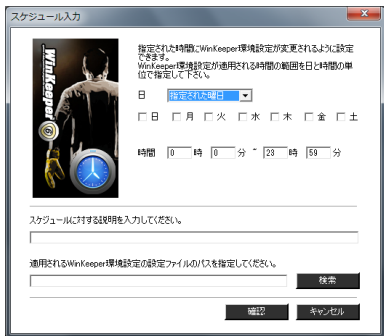


図 5-2-77

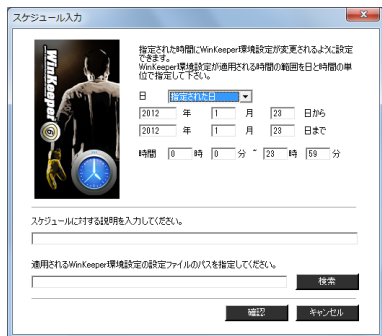


図 5-2-78

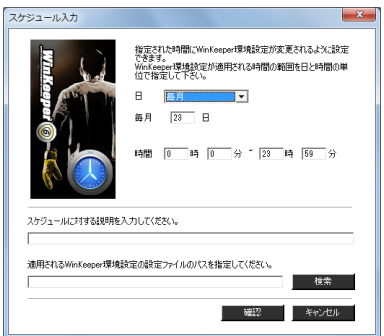
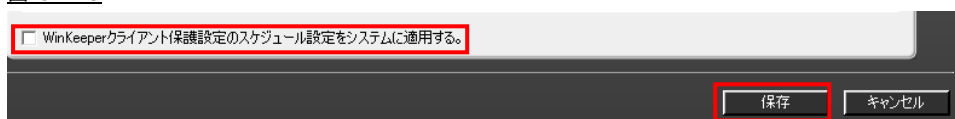


表 5-2-11

項 目		説 明
日	日時	<p>毎日 : 毎日タスクを実行します。</p> <p>指定された曜日 : 指定された曜日にタスクを実行します。</p> <p>指定された日 : 指定された日にタスクを実行します。</p> <p>毎月の指定された日 : 指定された日に毎月タスクを実行します。</p> <p>使わない : このタスクは実行しません。</p>
曜日	指定された曜日を選択した時、曜日を指定します。	
期間	指定された日を選択した時、日付の開始と終了を指定します。	
日にち	毎月の指定された日を選択した時、日にちを指定します。	
説明	スケジュールに対する説明を入力します。	
設定ファイル	適用される環境設定の設定ファイルを指定します。	

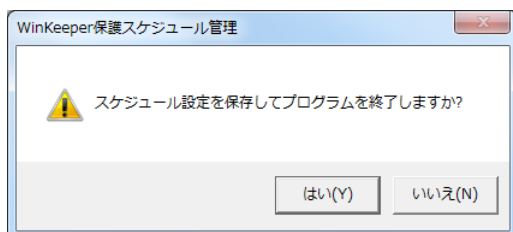
- 7) スケジュールを適用する場合は、[WinKeeper クライアント保護設定のスケジュール設定をシステムに適用する]をチェックし、画面右下の[保存]をクリックします。

図 5-2-79



- 8) [スケジュール設定を保存してプログラムを終了しますか?] という確認メッセージが表示されます。[はい]をクリックします。

図 5-2-80



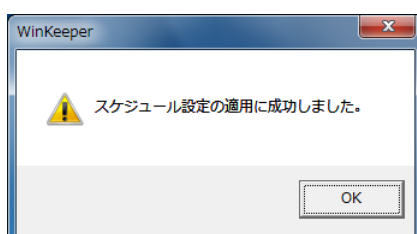
- 9) [クライアント選択]画面が表示されます。スケジュールを適用するクライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-81



- 10) [スケジュール設定の適用に成功しました]のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

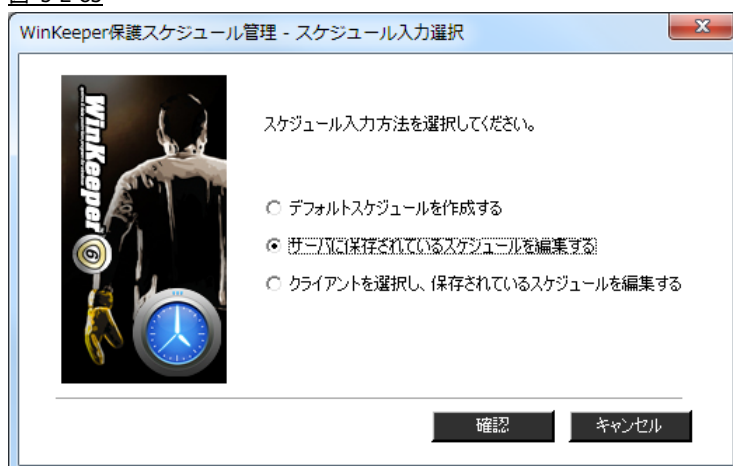
図 5-2-82



■ サーバに保存されているスケジュールを編集する

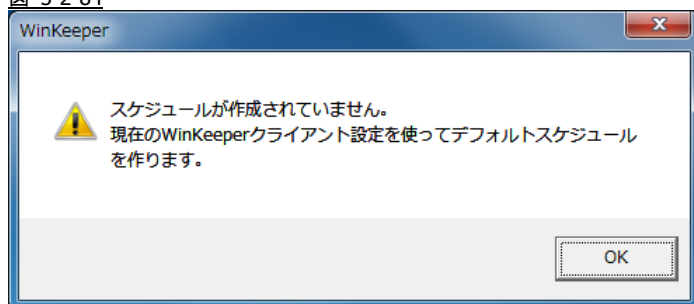
- 1) [サーバに保存されているスケジュールを編集する]を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-83



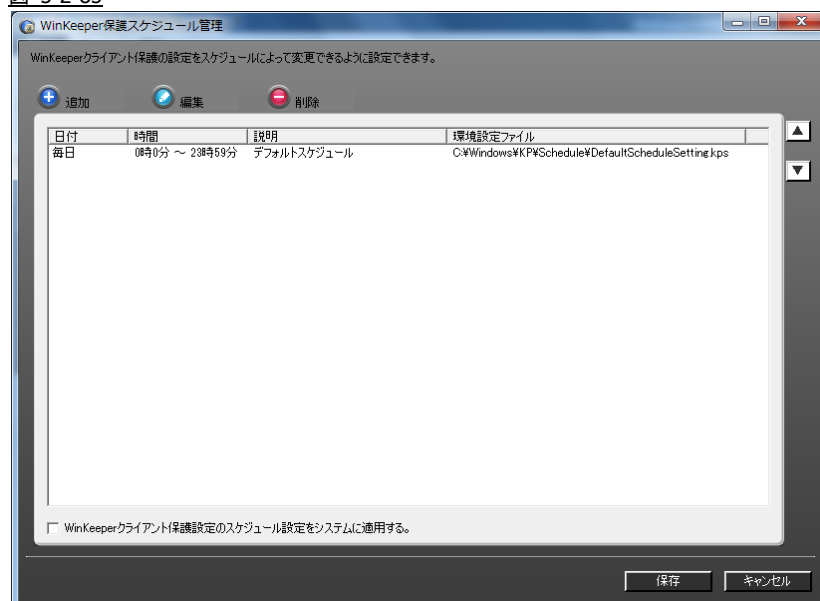
- 2) スケジュールが1つもない場合に WinKeeper クライアント設定を使ってデフォルトスケジュールスケジュールを作成するメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

図 5-2-84



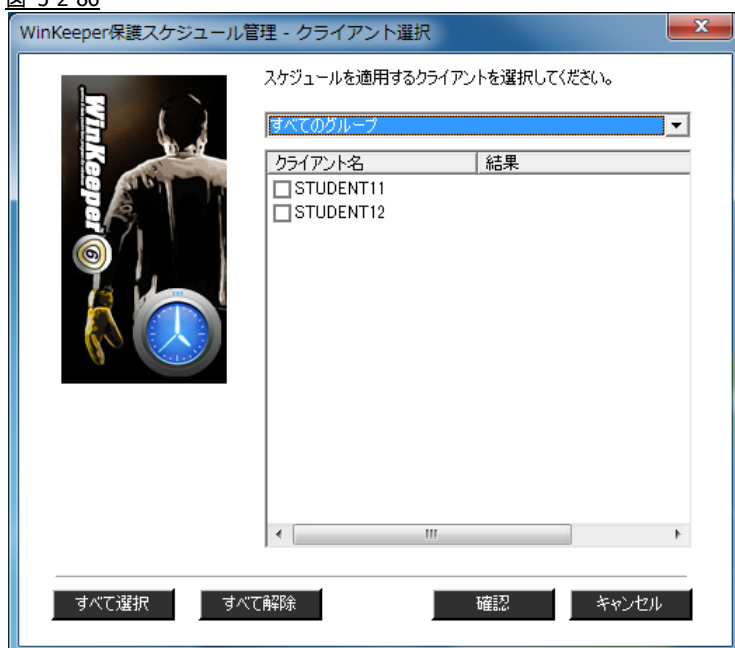
- 3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面が表示されます。スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行います。

図 5-2-85



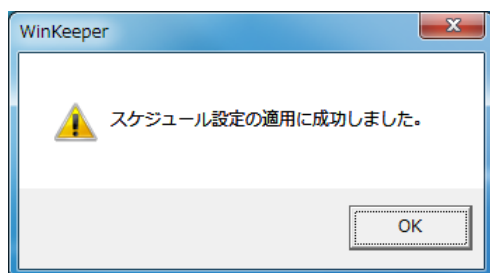
- 4) スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行い、[保存]をクリックすると。クライアント選択の画面が表示されます。
スケジュールを適用するクライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-86



- 5) スケジュール設定の適用した結果の画面が表示されます。[OK]をクリックします。

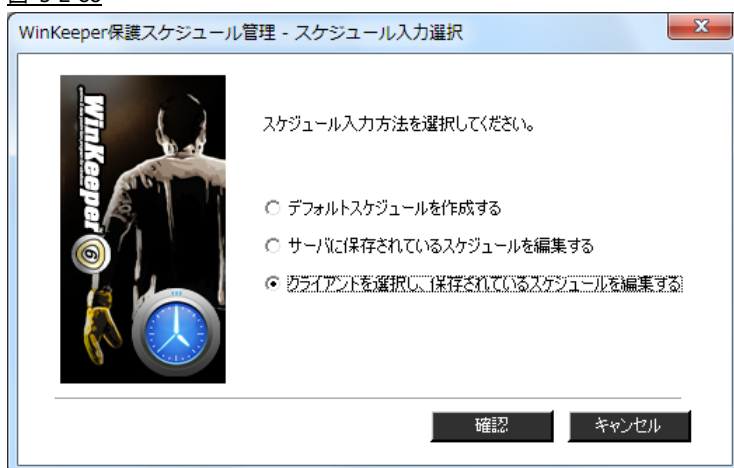
図 5-2-87



■ クライアントを選択し、保存されているスケジュールを編集する

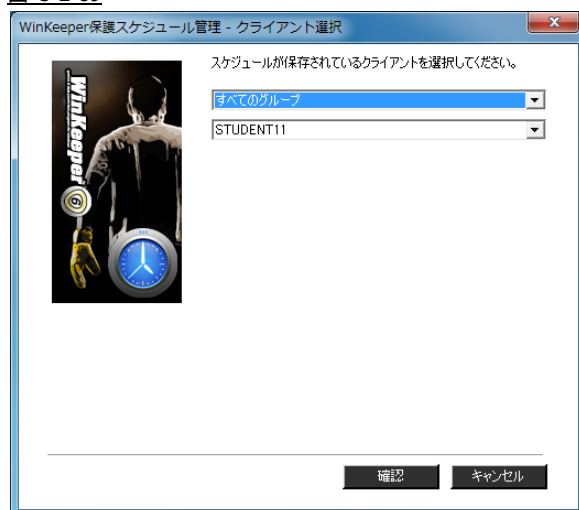
- 1) [クライアントを選択し、保存されているスケジュールを編集する]を選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-88



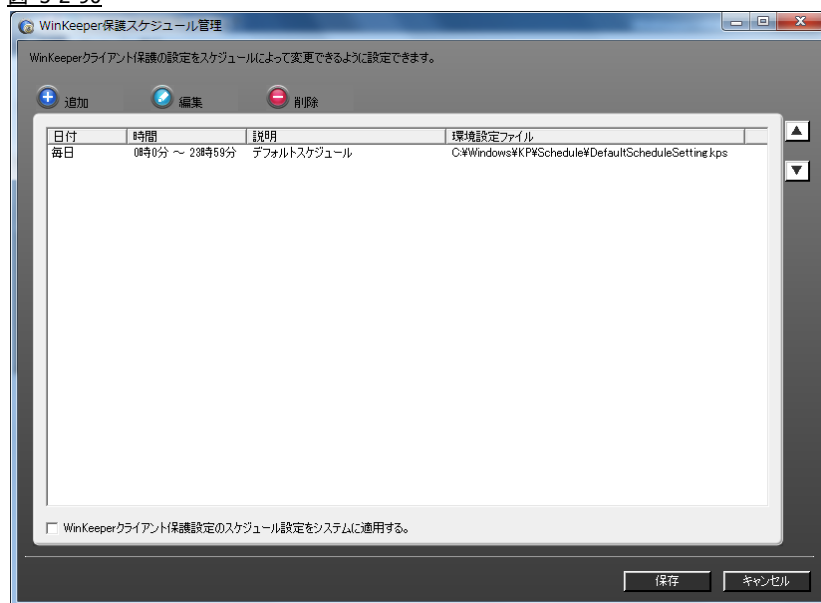
- 2) [クライアント選択]画面が表示されます。クライアントを選択し、[確認]をクリックします。

図 5-2-89



- 3) [WinKeeper 保護スケジュール管理]画面が表示されます。スケジュールの「追加」、「編集」、「削除」を行います。

図 5-2-90



■ 作成したスケジュールを編集する場合

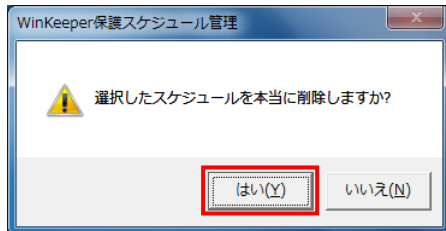
- 1) 編集を行う既存スケジュールを選択し、「WinKeeper 保護スケジュール管理」画面上部の[編集]をクリックします。
- 2) [スケジュール入力] 画面が表示されるので、編集を加えてから[確認]をクリックして登録します。

■ 作成したスケジュールを削除する場合

- 1) 削除を行う既存のスケジュールを選択し、「WinKeeper 保護スケジュール管理」画面上部の[削除]をクリックします。
- 2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のスケジュールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 5-2-91



- 同一日時・時刻に複数のスケジュールが登録されている場合、先に登録されているスケジュールで動作します。

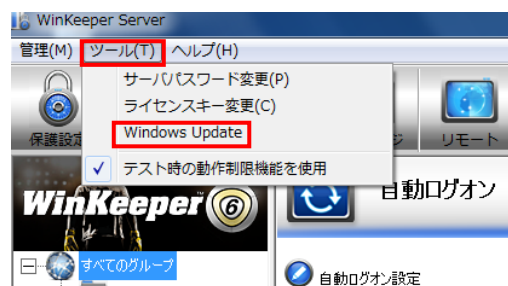
Windows Update の設定

Windows Update 機能では Windows Update 設定を指定し、クライアント PC に対して一括適用することができます。

■ 設定手順

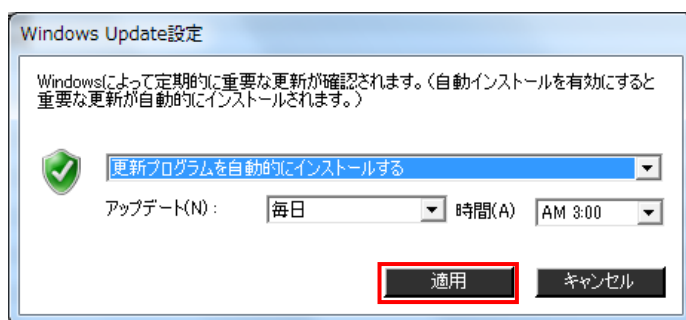
- 1) [ツール]を開き、[Windows Update]を選択します。

図 5-2-92



- 2) [Windows Update]画面が表示されます。Update 方法とスケジュールを入力し、[適用]をクリックします。

図 5-2-93



テスト時の動作制限機能の設定

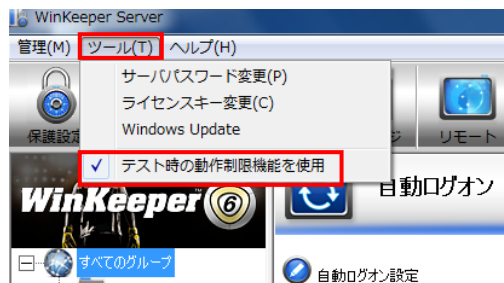
クライアント PC に対してアプリケーション制限やインターネット起動制限などの制限ルールを設定し、テストの際に動作制限を行う機能です。

- テスト時制限モード機能を使用するには、WinKeeper Server にテスト時の動作制限用モジュールをインストールする必要があります。(P.36 WinKeeper Server テスト時の動作制限機能のインストール 参照)

■ 設定手順

- 1) [ツール]を開き、[テスト時の動作制限機能を使用]をチェックします。

図 5-2-94



- 2) サーバ PC のタスクトレイ上にある[テスト時の動作制限]アイコンをクリックします。

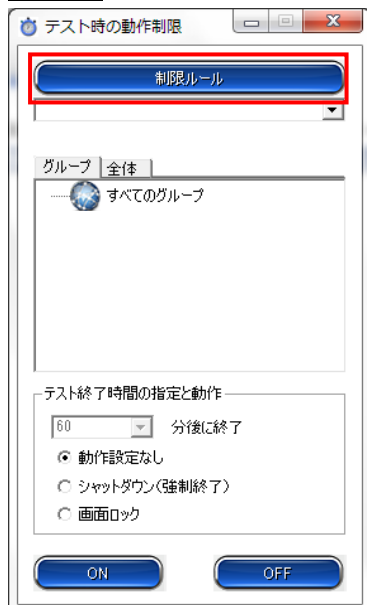
図 5-2-95



- WinKeeper Server で[テスト時の動作制限機能を使用]にチェックが入っていない場合は、サーバ PC のタスクトレイに[テスト時の動作制限]アイコンは表示されません。

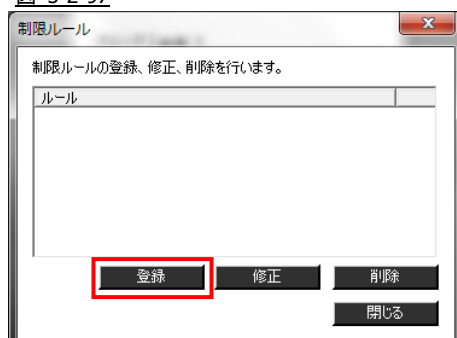
- 3) [テスト時の動作制限]画面が表示されます。[制限ルール]をクリックします。

図 5-2-96



- 4) [登録]をクリックします。

図 5-2-97



- 5) [ルール編集]画面が表示されます。制限項目を設定します。

図 5-2-98

表 5-2-12

項 目	説 明	初期設定	詳細設定
複数アプリケーションウィンドウの実行禁止	アプリケーションウィンドウの起動を1つのみに制限します。	許可	○
指定アプリケーション以外の起動禁止	詳細設定で指定したアプリケーション以外のアプリケーション起動を禁止します。	許可	○
インターネット禁止	登録されているブラウザの起動を禁止します（デフォルト設定ではIEのみ対象です）。	許可	○
URL 制限機能	登録されている URL に対して、アクセスを許可または禁止します。 ※URL 制限機能を使用するには、クライアントに通信制御用モジュールをインストールする必要があります。(P.38 通信制御機能のインストール参照)	許可	○
Copy & Paste 禁止	コピー＆ペーストを禁止します。	許可	—
ファイル共有禁止	ファイル共有を禁止します。	許可	—
外部デバイスへの保存禁止	USB メモリスティック等の外部デバイスへの保存を禁止します。 ※設定反映後に接続されたデバイスのみ対象となります。	許可	—

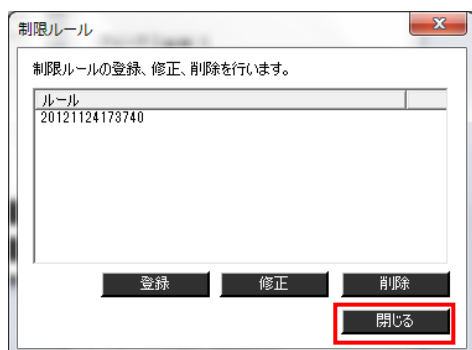
- 6) ルール名を入力し、[保存]をクリックします。

図 5-2-99

- ルール名を設定しない場合、作成日時がルール名としてデフォルト設定されます。

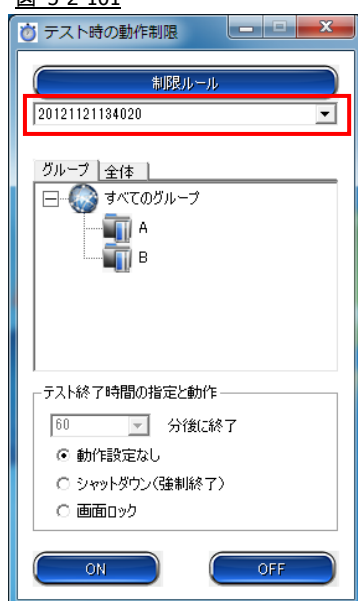
7) [閉じる]をクリックします。

図 5-2-100



8) 作成したルールを選択します。

図 5-2-101



9) [グループ]タブからルール適用対象となるグループ、または[全体]タブからルール適用対象となるクライアント PC を選択します。

図 5-2-102 グループ選択画面

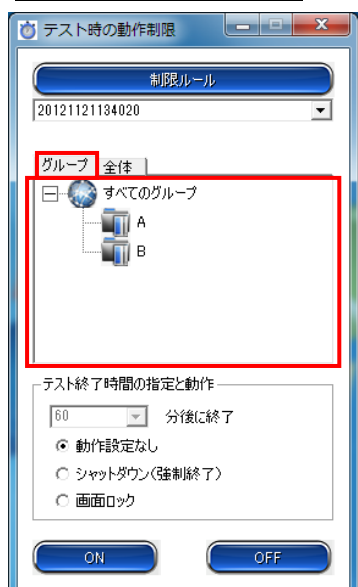


図 5-2-103 クライアント選択画面

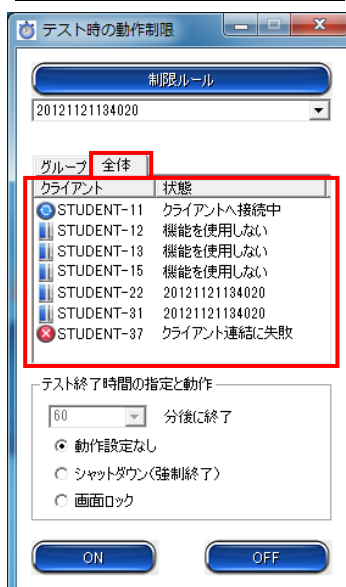


表 5-2-13 クライアントの状態と制限ルールの設定対象

アイコン	状態	説明	制限ルールの設定対象
	クライアントへ接続中	クライアントへの接続処理中です。	×
	機能を使用しない	接続中で、制限ルールを適用していない状態です。	○
	(制限ルール名)	接続中で、制限ルールを適用している状態です。	○
	クライアント連結に失敗	クライアントとの接続に失敗しています。	×

- 制限ルールは、WinKeeper Server に接続されている保護実行中のクライアントが対象となります。
- グループやクライアントを選択することで、グループ やクライアントごとに異なるルールを設定することができます。
- テスト時の動作制限画面でグループを追加することはできません。グループの追加を行う場合は、一旦テスト時の動作制限画面を終了し、WinKeeper Server のメイン画面から追加を行ってください。追加後に WinKeeper Server の再起動が必要です。ご注意ください。

10) テスト終了時間にシャットダウンや画面ロックを行う場合は、テスト終了時間と動作を選択します。

図 5-2-104

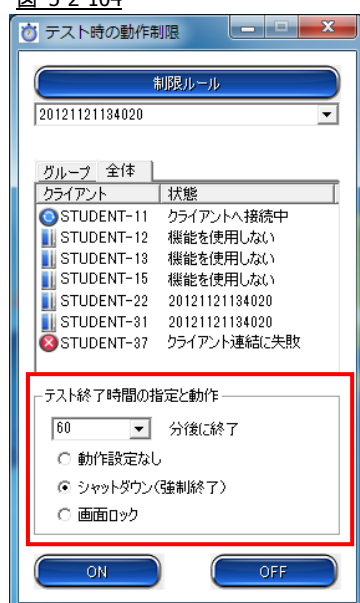


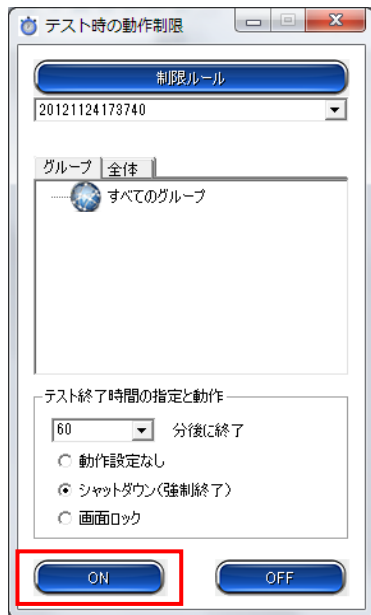
表 5-2-14 クライアントの状態とシャットダウン / 画面ロックの設定対象

アイコン	状態	説明	シャットダウン / 画面ロックの設定対象
	クライアントへ接続中	クライアントへの接続処理中です。	×
	機能を使用しない	接続中で、制限ルールを適用していない状態です。	×
	(制限ルール名)	接続中で、制限ルールを適用している状態です。	○
	クライアント連結に失敗	クライアントとの接続に失敗しています。	×

- シャットダウン / 画面ロックは、制限ルールが適用されている全クライアントが対象となります。
- シャットダウン / 画面ロックは、1 パターンのみ設定可能です。グループやクライアントごとに設定することはできません。何度か設定を行った場合は、最終的に画面に表示されている設定内容が反映されます。

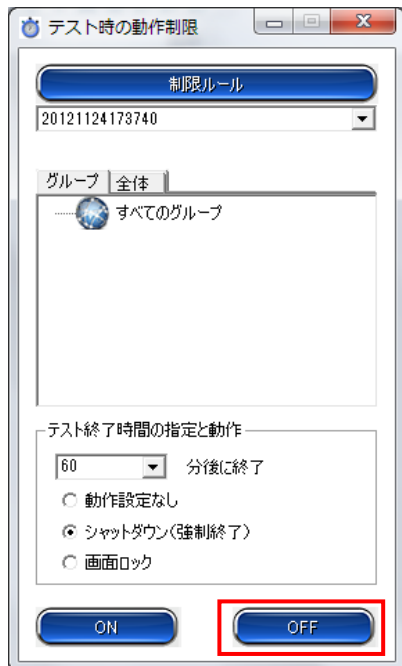
- 11) [ON]をクリックするとテスト時の動作制限機能が ON になり、クライアント PC に設定内容が反映されます。

図 5-2-105



- 12) [OFF]をクリックすると、テスト時の動作制限機能が OFF になります。

図 5-2-106



- クライアント PC からテスト時の動作制限機能を OFF にすることはできません。

- 13) 画面右上の[×]をクリックすると、クライアント側の制限ルールが強制的に OFF になります。

図 5-2-107

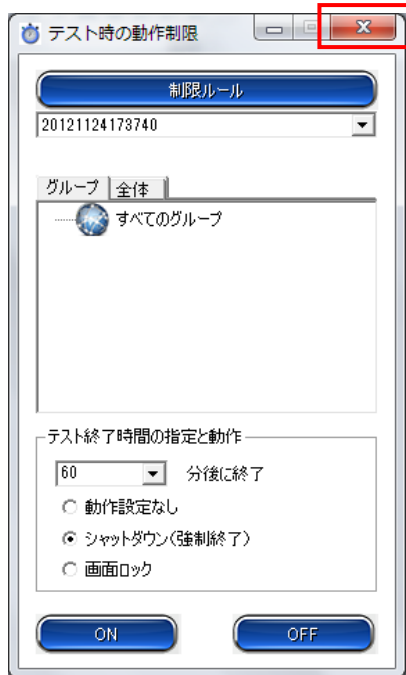
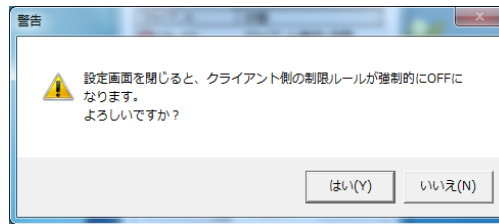


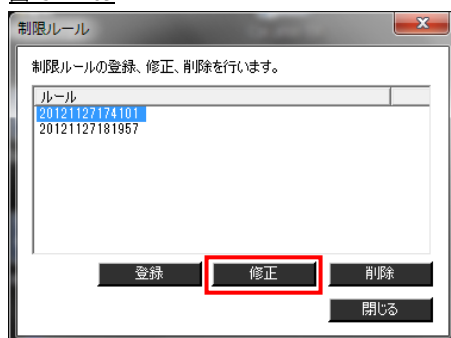
図 5-2-108



■ 作成したルールを編集する場合

- 1) [テスト時の動作制限]画面上的[制限ルール]をクリックし、編集を行うルールを選択して[修正]をクリックします。

図 5-2-109



- 2) [ルール編集] 画面が表示されるので、編集を加えてから[保存]をクリックします。

■ 作成したルールを削除する場合

- 1) [テスト時の動作制限]画面上的[制限ルール]をクリックし、ルールを選択して[削除]をクリックします。
2) 削除の確認画面が表示されます。

既存のルールを削除する場合は、[はい]をクリックします。

図 5-2-110

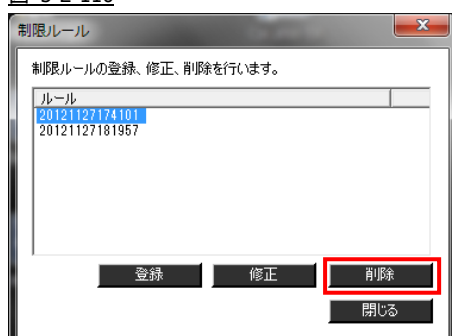
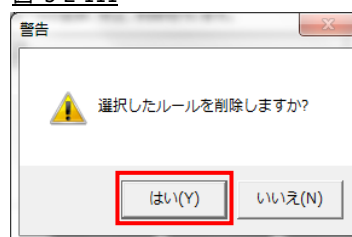


図 5-2-111



WinKeeper v6.2 管理者マニュアル

2013 年 7 月

作成/発行/企画 チエル 株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

- ・ 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。
- ・ 本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。

サービスサポートについて

下記サポートセンターまでお問い合わせください。

CHieru チェル 株式会社

URL: <http://technical.chieru.co.jp/>

E-Mail: support@chieru.co.jp

TEL: 03-5781-8110

FAX: 03-6712-9461

CHieru チェル 株式会社

- 本 社／〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F
TEL: (03)6712-9721 FAX: (03)6712-9461
- 札幌営業所／〒060-0809 北海道札幌市北区北 9 条西 2 丁目 ホワイトキューブ札幌 2F
TEL: (011)738-8133 FAX: (011)738-8134
- 仙台営業所／〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 3-10 グラン・シャリオビル 5F
TEL: (022)217-2888 FAX: (022)206-5222
- 首都圏営業所／〒140-0002 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー3F
TEL: (03)6712-9471 FAX: (03)6712-9461
- 名古屋営業所／〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 3-21-25 清風ビル 2F
TEL: (052) 687-2225 FAX: (052) 687-2226
- 大阪営業所／〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 7-1-29 新大阪 SONE ビル 5F
TEL: (06)6838-3077 FAX: (06)4806-7056
- 福岡営業所／〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-6-12 オヌキ博多駅前ビル 6F
TEL: (092) 483-1603 FAX: (092)483-1604
- 沖縄営業所／〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町 4-99-1 まるしんビル 1F
TEL: (098)886-1715 FAX: (098)886-1725

URL: <http://www.chieru.co.jp/>